



学内広報

No.1325

2005.12.8
東京大学広報委員会

2004年（第54回）学生生活実態調査の結果



柏図書館（柏キャンパス）

ま え が き

昨年度に実施された第54回学生生活実態調査の結果を、学内広報にて広くお知らせいたします。

この調査は昨年度、5年ぶりに対象者を大学院生として実施いたしました。昨年と同様、法人化の前後で学生生活に対していかなる影響が及ぶか、学生生活は改善されるか、研究環境は改善されたか、院生にとって将来の見通しはよくなったのか、といったいくつかのチェックポイントを念頭に置きつつ、調査いたしました。

このようなチェックポイントの多くは、中長期的に改善を進めていくべき息の長い努力を必要とするものですが、どのような点に重点を置くべきかは、比較的短期のスパンで教育の「受け手」たる院生の目から見た現状認識と要望を得、適宜方向性をチェックしておくべきでしょう。今回は、とりわけ研究活動の問題点、法人活動がもたらした影響の認識、ハード面・ソフト面での研究・学生生活のサポート体制について力点を置いて検討しました。いくつかの改善すべき点が浮かび上がっていることは本文をご覧ください。研究科により大きな差のあるデータは研究科ごとに明示しました。それぞれの研究科で検討していただける材料になればと考えております。

さらに「特殊分析」として「東大生の人生観について」を教育学研究科の亀口憲治委員に執筆いただきました。東大の院生にとっての研究・職業や人生の目標は、研究や学生生活のサポートによって大きく影響を受けることが考えられます。この点について特に検討していただきました。

この調査の企画、実施、分析は、学生生活調査室の各室員である教員や調査室に関わる学生部キャリアサポートグループのご尽力なしには実現しませんでした。この場を借りてお礼申し上げます。

東京大学は大学院重点化を果たした大学として、大学院生に対する教育、彼らの研究や心身の健康の向上にも大いに気を配るべきですが、その観点から見ると、大学院生に対する学生生活実態調査の頻度は決して多くありません。この機会に得られたデータをフルに活用されることを願ってやみません。

東京大学学生生活委員会学生生活調査室室長 池田 謙一

目 次

調査の概要……………	2	第2部 学生生活の背景	
調査の結果……………	2	1 家庭の状況……………	22
第1部 学生生活の評価と将来の選択		2 生活費の状況……………	26
1 大学院入学の目的……………	5	3 研究奨励金及び奨学金……………	27
2 学会参加……………	6	4 アルバイト……………	28
3 研究活動……………	8	資料1 (集計表)……………	29
4 就職……………	16	具体的記述 (抜粋)……………	97
5 研究・学生生活のサポート体制……………	17	資料2 (調査票)……………	114
6 大学への要望……………	19	学生生活委員会学生生活調査室	
7 特殊分析……………	20		

調査の概要

1. 調査票の作成

2004年(平成16年)5月から10月にかけて、学生生活委員会学生生活調査室で調査内容の企画立案を行った。

2. 調査の期間

2004年(平成16年)11月下旬～12月下旬。

3. 調査の対象及び抽出率

大学院男子・女子学生。研究科系統別無作為抽出法で、在籍者数の1/4を抽出。

4. 調査の方法

郵送調査で行い、対象者自身が記入する(自記式)方法。

5. 調査の内容

I. 基本的事項、II. 大学院入学の目的、III. 学会参加・研究活動、IV. 就職、V. 家庭の状況、VI. 生活費の状況、VII. 研究奨励金及び奨学金、VIII. アルバイト、IX. 研究・学生生活のサポート体制、X. 大学への要望、XI. 具体的記述

調査の結果

今回は、1999年(第49回)調査以来5年ぶりに、大学院男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。これまでの学生生活実態調査のうち、大学院学生を対象としたものは、第9回(1958年)、第11回(1960年)、第17回(1966年)、第28回(1978年)、第35回(1985年)、第42回(1992年)、第49回(1999年)の計7回があり、「表1」に1958年以降の調査の実施状況を表示した。

なお、集計結果の分析に当たっては、研究科間・年度間・男女間などの相違に注目し、特異な数値傾向の把握に努めた。

グラフと表について

1. 今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、今回の調査結果との比較の目的で1985年調査にまでさかのぼって取り上げた項目がある。
2. 本文中に掲げたグラフについては、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「その他の分類」の項目について若干の数値を省略したものがある。そのため、合計が100%に満たないものもある。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100%に満たないものと100%を超えるものがある。
3. 各表の2004年の集計結果は、太枠で示してある。

表1 学生生活実態調査（大学院学生）実施状況

回数	調査年月	対象学生	抽出率	対象者数	回収率	調査方法
第9回	1958年12月	課程在籍者	男子 1/5 女子 1/5	248人	95.6%	面接調査 (一部郵送)
第11回	1960年11月	課程在籍者 + 留年者	男子 1/3 女子 全数 留年者 全数	785	85.2	〃
第17回	1966年12月	課程在籍者	全 数	3,002	48.7	研究科窓口配布 (一部郵送)
第28回	1978年12月	課程在籍者	男子 1/4 女子 全数	1,177	66.2	郵送自記式
第35回	1985年11月	課程在籍者 + OM、OD	男子 1/2~1/4 女子 1/2 OM、OD 1/2	1,382	66.3	〃
第42回	1992年11月	課程在籍者	男子(文) 1/2 男子(理) 1/6 女子 1/2	1,496	59.8	〃
第49回	1999年11月	課程在籍者 + OM、OD	男子 1/4 女子 1/4	2,099	49.5	〃
第54回	2004年11月	課程在籍者	男子 1/4 女子 1/4	2,539	40.6	〃

(注1) 「OM」はオーバーマスター、「OD」はオーバードクターの略を示す。

(注2) 「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。但し、1992年調査は「OM、OD」を除き「外国人留学生」を含む。

表2 2004年（第54回）学生生活実態調査回収状況

課程 項目 研究科名	専門職学位課程及び修士課程						博士課程						合計						総合 回収率
	対象者数		回収数		回収率		対象者数		回収数		回収率		対象者数		回収数		回収率		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
人文社会系研究科	50	32	30	17	60.0	53.1	60	31	19	15	31.7	48.4	110	63	49	32	44.5	50.8	46.8
教育学研究科	13	12	5	7	38.5	58.3	14	15	8	6	57.1	40.0	27	27	13	13	48.1	48.1	48.1
法学政治学研究科	72	28	33	12	45.8	42.9	12	6	5	4	41.7	66.7	84	34	38	16	45.2	47.1	45.8
経済学研究科	24	3	12	3	50.0	100.0	20	4	11	2	55.0	50.0	44	7	23	5	52.3	71.4	54.9
総合文化研究科	74	39	38	21	51.4	53.8	82	49	33	18	40.2	36.7	156	88	71	39	45.5	44.3	45.1
理学系研究科	141	33	51	18	36.2	54.5	137	31	60	16	43.8	51.6	278	64	111	34	39.9	53.1	42.4
工学系研究科	318	30	100	15	31.4	50.0	133	19	57	9	42.9	47.4	451	49	157	24	34.8	49.0	36.2
農学生命科学研究科	101	48	28	24	27.7	50.0	86	31	31	12	36.0	38.7	187	79	59	36	31.6	45.6	35.7
医学系研究科	16	22	2	13	12.5	59.1	133	71	49	32	36.8	45.1	149	93	51	45	34.2	48.4	39.7
薬学系研究科	30	15	14	6	46.7	40.0	30	5	11	4	36.7	80.0	60	20	25	10	41.7	50.0	43.8
数理科学研究科	18	1	5	1	27.8	100.0	15	1	2	0	13.3	0.0	33	2	7	1	21.2	50.0	22.9
新領域創成科学研究科	143	39	56	23	39.2	59.0	59	18	25	9	42.4	50.0	202	57	81	32	40.1	56.1	43.6
情報理工学系研究科	77	2	24	1	31.2	50.0	31	1	8	1	25.8	100.0	108	3	32	2	29.6	66.7	30.6
学際情報学府	20	6	8	2	40.0	33.3	9	5	2	1	22.2	20.0	29	11	10	3	34.5	27.3	32.5
公共政策学教育部	16	8	7	5	43.8	62.5							16	8	7	5	43.8	62.5	50.0
合計	1,113	318	413	168	37.1	52.8	821	287	321	129	39.1	44.9	1,934	605	734	297	38.0	49.1	40.6
総合計		1,431		581		40.6		1,108		450		40.6		2,539		1,031		40.6	
1999年(第49回)調査		1,141		547		47.9		958		491		51.3		2,099		1,038		49.5	

注) 1. 1999年調査には、OM及びODが含まれる。

2. 「対象者数」は2004年（平成16年）8月1日現在の課程在籍者数である。ただし、休学者、留学生及び外国人留学生は除く。

第1部 学生生活の評価と将来の選択

1. 大学院入学の目的

入学の目的「高度の専門知識・技術を身につけるため」75.2%
入学の動機「自分の志望した研究科（専攻分野）があったから」70.8%、
「スタッフ・環境・設備が優れているから」69.3%

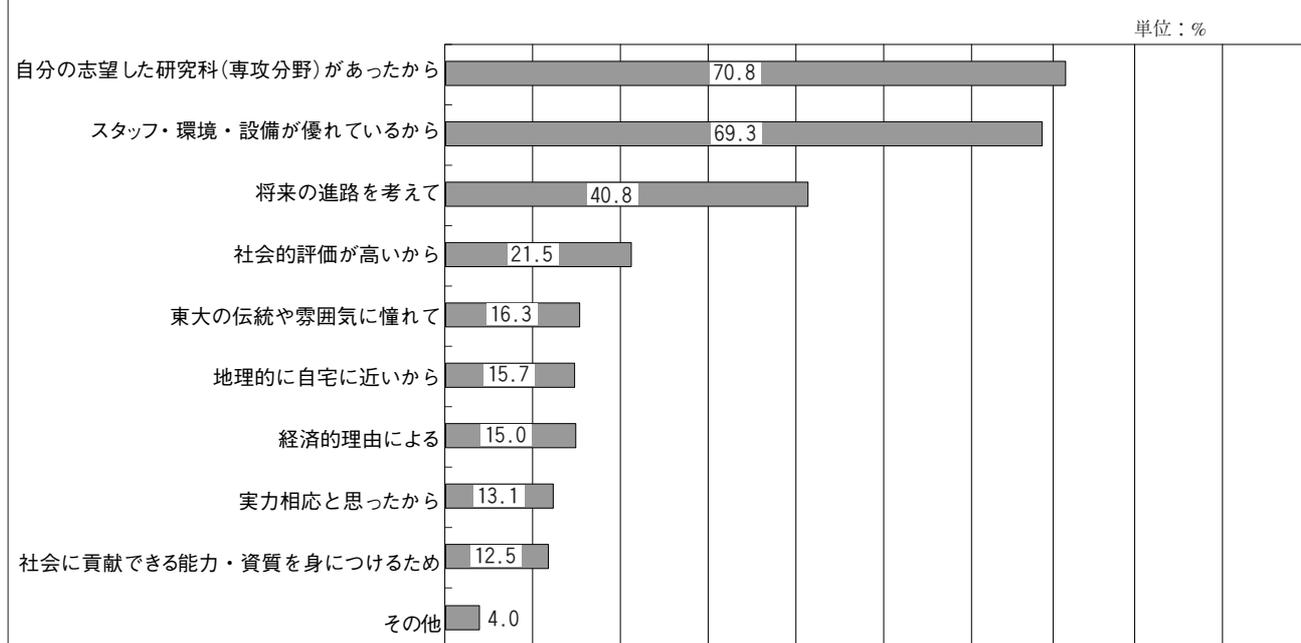
大学院入学の目的は、前回調査（1999年（第49回））と同様に「高度の専門知識・技術を身につけるため」が75.2%でもっとも多くなり、次いで「大学等の研究・教育職をめざして」41.7%、新たな選択項目の「社会で貢献できる能力・資質を身につけるため」が29.5%、「学位を取得するため」が25.8%の順となっている（資料1-1-1表）。

東大入学の動機については、前回調査では主たる動機を重視した順に、第1位から第3位まで調査したが、今回は順位をつけずに、主たる動機を無順位に三つまで選択可として調査した。したがって比較するには注意が必要であるが、前回調査の第1位に限って比較すると、前回調査と同様「自分の志望した研究科（専攻分野）があったから」が70.8%でもっとも多く、次いで「スタッフ・環境・設備が優れているから」69.3%、「将来の進路を考えて」40.8%と続き、前回調査と同順位となっている。また、「社会的評価が高いから」21.5%は、前回調査の第7位から今回は第4位にあがっている（図1、資料1-1-2表）。

「現在所属する大学院を選ぶ際、他にどのような進路を考えましたか」の間では、「考えなかった」が30.8%でもっとも多く、次いで、「東大内の現在所属する大学院以外の大学院」26.9%の順となっている（資料1-1-3表）。

最終的に本学を選んだ理由は、「希望専攻分野が東大の方が充実していた」65.1%が過半数を超えている（資料1-1-4表）。

図1 東大入学の動機（3つまで選択）



2. 学会参加

学会（国内）の「所属数」1.2、「参加数」1.6回、「発表数」0.9件
海外学術調査の経験「ある」15.1%、留学の経験「ある」3.6%
留学希望者60.7%、留学希望先は希望者のうち「北米」79.6%、「西ヨーロッパ」78.3%

2-1. 学会参加

現在所属している国内の学会数は、「1」が36.9%、「2」18.5%、「3～4」9.5%、「5以上」1.4%となっている。前回調査（1999年（第49回））と同様に、理科系は文科系に比べ多くの学会に所属しており、また、博士課程在籍者の7割以上が何らかの学会に所属している。国内に比べ国外の学会に所属している者は、あまり多くはみうけられず、「1」が7.9%で、それ以上は極めて少ない（資料1-2-1～2表）。

過去1年間の国内の学会参加回数は「1回」27.5%、「2回」24.3%、「3～5回」が17.5%で、発表件数は「1件」27.0%、「2件」13.3%、「3～4件」が7.2%である。また、国外の学会参加回数は「1回」14.3%、「2回」3.4%で、発表件数は「1件」12.6%、「2件」2.3%である（資料1-2-3～6表）。

2-2. 留学等

大学院入学後、海外学術調査の経験が「ある」と答えた者は15.1%で前回調査と比較して、1.8ポイントの増加となっている。これは修士課程在籍者（9.8%）より博士課程在籍者（24.8%）で多くみられ、15ポイントの差がある。また、女子19.8%は男子13.2%に比べて海外学術調査の経験者が多い傾向である（資料1-2-7表）。

「大学院に入学してから海外留学をした体験がありますか」という問に、「ある」と答えた者は、全体で3.6%となっている。前回調査と比べて、0.8ポイントの増加となっている。また、海外学術調査の経験と同様、博士課程在籍者と女子に多めにみうけられる（資料1-2-8表）。

「外国の大学と交換留学制度があれば留学したいと思っていますか」という問に、「条件によっては留学したい」77.9%（男子75.3%、女子84.2%）が回答しており、前回調査より0.4ポイント減少している（資料1-2-9表）。

交換留学制度があれば留学先としてみたい地域は、前回調査では主たる地域を重視した順に、第1位と第2位を調査したが、今回は順位をつけずに、主たる地域を無順位に二つまで選択可として調査した。その結果、前回調査の第1位と同様「北アメリカ」が79.6%、次いで、「西ヨーロッパ」78.3%、「アジア」12.6%の順となり欧米重視の傾向が窺われる（資料1-2-10表）。

「大学院在学期間中、海外留学の機会があれば希望しますか」という問に、「留学したい」35.5%、「どちらかといえば留学したい」25.2%となっており、女子の場合、これら双方を合わせると7割を占める。（図2-1～2、資料1-2-11表）。研究科により留学希望に濃淡があり、希望の多いところは、教育学(77.0%)、「留学したい」「どちらかといえば留学したい」の計)、農学生命科学(73.7%)、総合文化(70.0%)、人文社会系(67.9%)などとなっていた。

図 2-1 大学院在学中の海外留学希望

単位：%

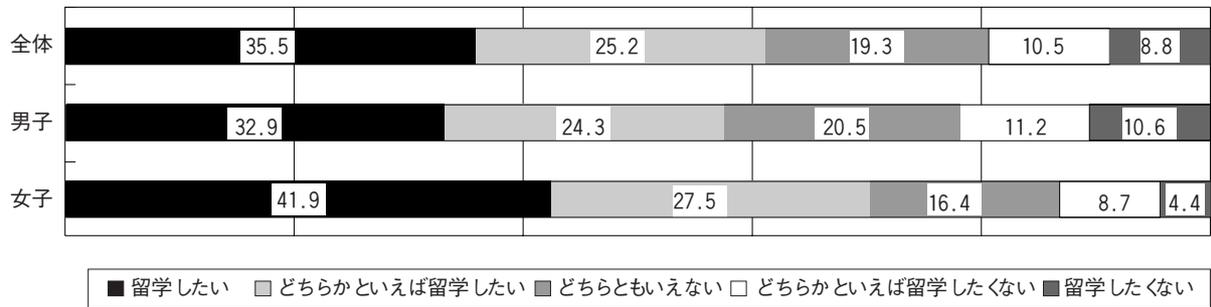
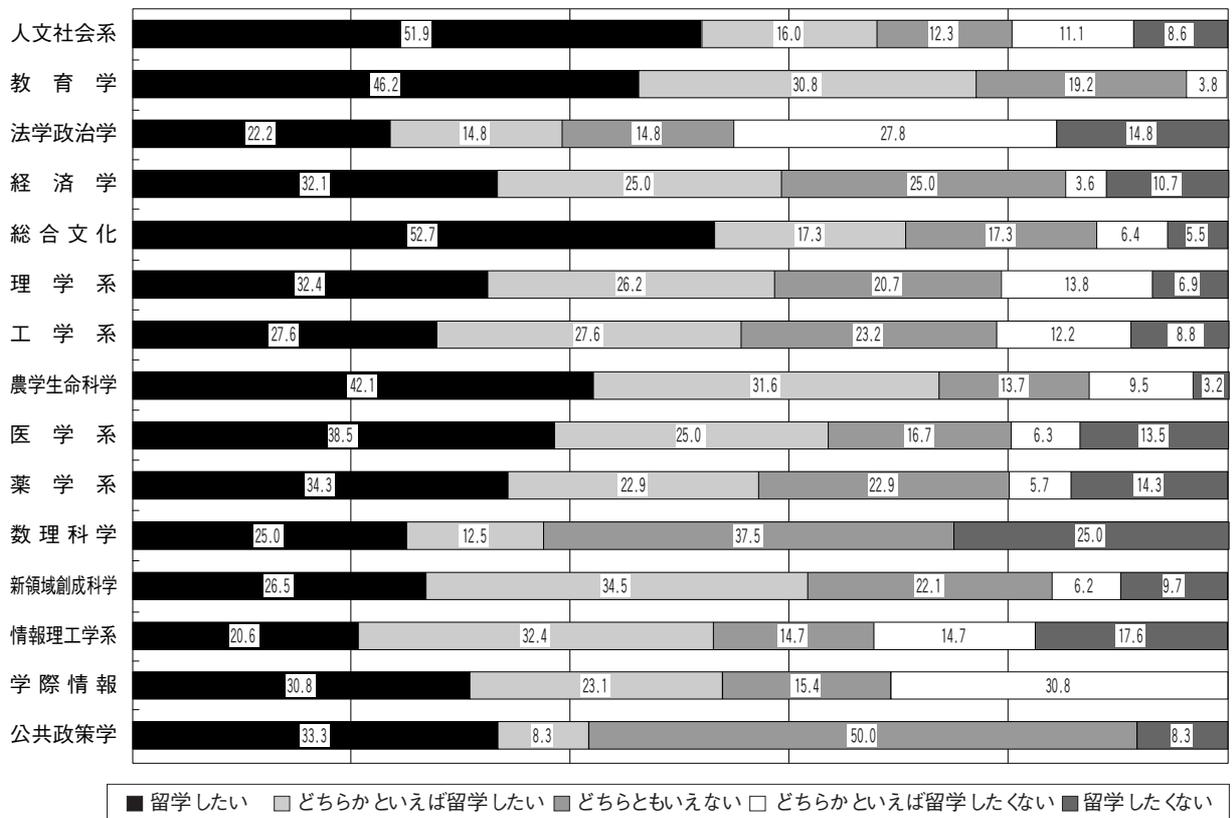


図 2-2 大学院在学中の海外留学希望（研究科別）

単位：%



3. 研究活動

自分の研究成果に対する「不満」「やや不満」が39.8%
 研究経費の自己負担は年平均169,100円
 「専用の机がある」理科系93.6%、文科系26.1%
 大学の法人化の研究環境への影響は「良い方向に影響を与える」が9.2%、「悪い方向に影響を与える」が20.1%

「あなたご自身のこれまでの研究成果についてどうお考えですか」という問いに、「不満」11.2%、「やや不満」28.6%となり、前回調査と比べて12.6ポイント減少したが、4割の者が不満と回答している（資料1-3-1表）。

研究の成果に「不満、やや不満」と答えた者に、「不満と感じている問題」を尋ねたが、結果は多様となっている。第1位と第2位は、今回新たに加えた「思うように研究成果が上がらない」54.4%、「自分の能力や適性に不安がある」42.2%となっている。前回調査で第1位の「研究の見通しがたたない」33.4%が第3位となり、次いで、「研究テーマがはっきり決まっていない」18.5%、「研究時間を十分とれない」18.3%、「今やっている研究の意義がはっきりつかめない」17.3%、「教員の指導が不十分である」15.9%となっている（図3-1～2、資料1-3-2表）。ここでも研究科による違いは大きい。同じ文科系でも、法学政治学では「自分の能力や適性に不安がある」が多く、経済学では「思うように研究成果が上がらない」点を案じている。理科系ではトップに「思うように研究成果が上がらない」が来る傾向が強く、薬学系、数理学、情報理工学系、農学生命科学で6割以上がそれを挙げている。一方、学際情報では「研究時間を十分とれない」点の悩みが大きい。

図3-1 研究成果、研究活動上の問題点（3つまで選択）
 【文科系】（全体で回答が15%を超える項目）

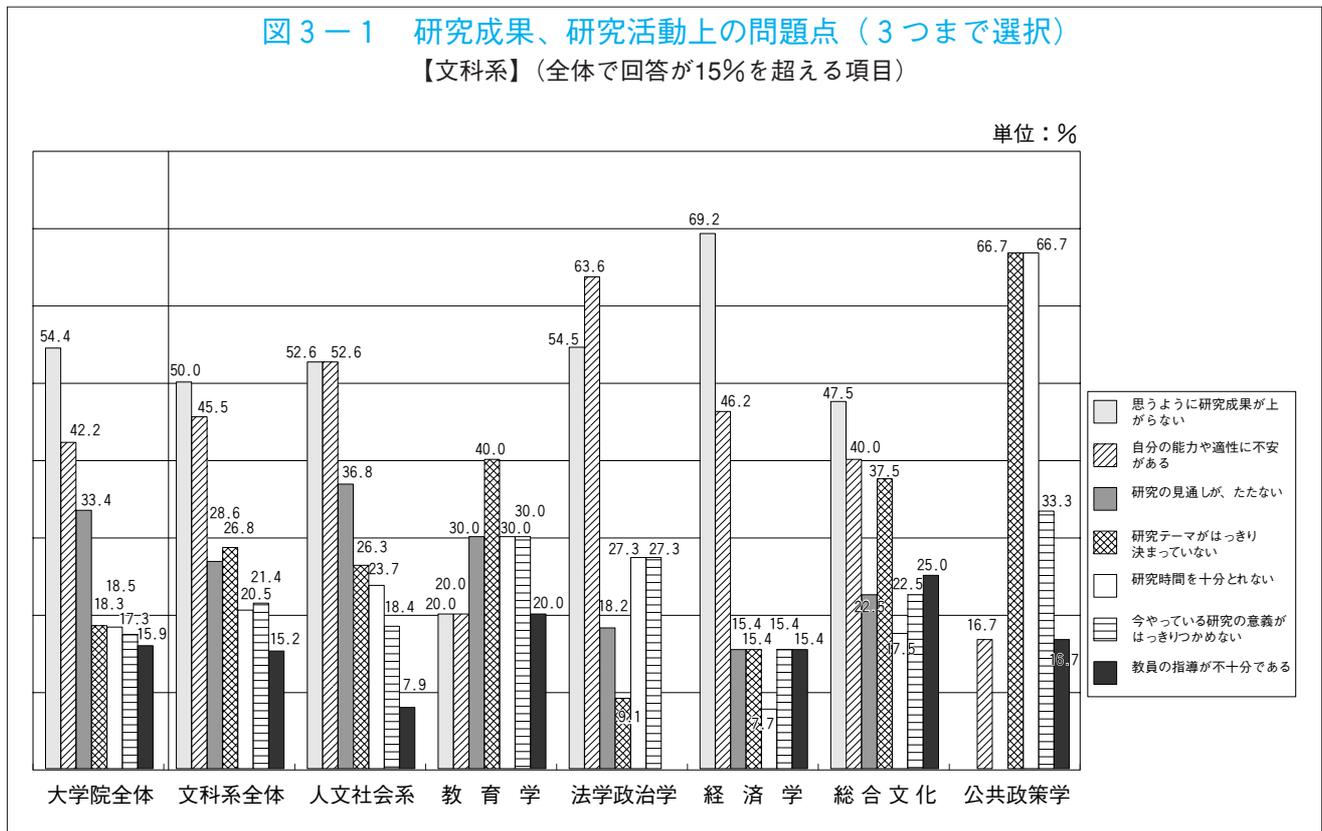
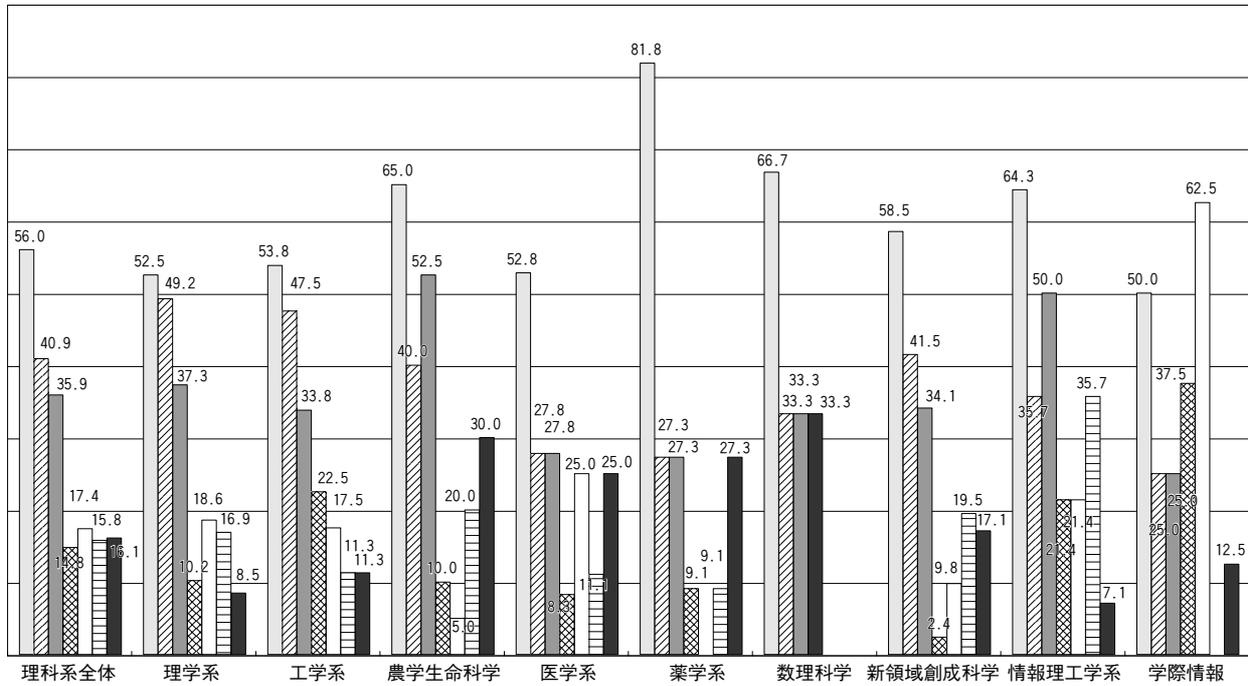


図3-2 研究成果、研究活動上の問題点（3つまで選択）

【理科系】（全体で回答が15%を超える項目）

単位：%



「大学院入学以来どれくらいの研究業績をあげられましたか」の問に、「学術的な著書数（共著も含む）」「査読つき学術論文数」「査読なし学術論文数」の平均はそれぞれ0.3件、0.8件、0.5件となっている。「学術的な著書数（共著も含む）」の研究業績は、「1件」が7.8%、「2件」3.3%、「3件」1.4%、「査読つき学術論文数」は「1件」が15.4%、「2件」6.3%、「3件」3.4%、「査読なし学術論文数」は「1件」が9.0%、「2件」3.5%、「3件」1.8%といずれも1割を超える者が「1～3件」と回答している。課程別にみると、「1～3件」と回答する者は、修士課程在籍者6.6%、12.9%、8.3%、獣医学又は医学を履修する博士課程在籍者26.1%、17.4%、17.4%、博士課程在籍者20.0%、45.3%、23.7%と順に研究業績数は多くなっている。また、学術的な著書数及び論文以外の研究成果は、特許、作品、翻訳、注釈、解説等であるが、「1件」が6.0%、「2件」4.7%となっている（資料1-3-3～6表）。

研究室での日常生活の中で、複数の項目について満足感を尋ねたところ、「研究設備・スペースについて」は、総じて不満と答える者は、31.3%で前回調査と比較すると、7ポイント減少したが、文科系（49.2%）で多く、理科系（24.0%）に比較して、2倍以上の割合となっている。「研究上の経費について」（新設）についても、不満を示す割合は研究スペースと同様の傾向がみられ、文科系（46.1%）は理科系（18.3%）の2倍を超えている。これらの項目では文科系と理科系には差が認められるが、とりわけ不満の高かったものの中で、「研究設備・スペース」については人文社会系および法学政治学で6割近くに不満が見られ（「やや不満」「不満」の計）、「研究上の経費」については人文社会系、教育学、経済学でやはり6割近くが不満を持っていた。次に、「人間関係について」は、前回調査と同様に不満を示すのは2割程度である。「指導教員の研究指導方法について」は、文科系の方が理科系に比べ強く満足感を示し、文科系で「不満」と回答した者は7.0%と少なめとなっている。「所属研究科事務の対応について」は、「満足」と回答する者は、理科系で4ポイント上回る。また、男女別にみると、全ての項目で女子は男子よりも総じて「不満」と回答している（図4-1～5、資料1-3-7表）。

図4-1 研究室での日常生活の満足度「研究設備・スペース」

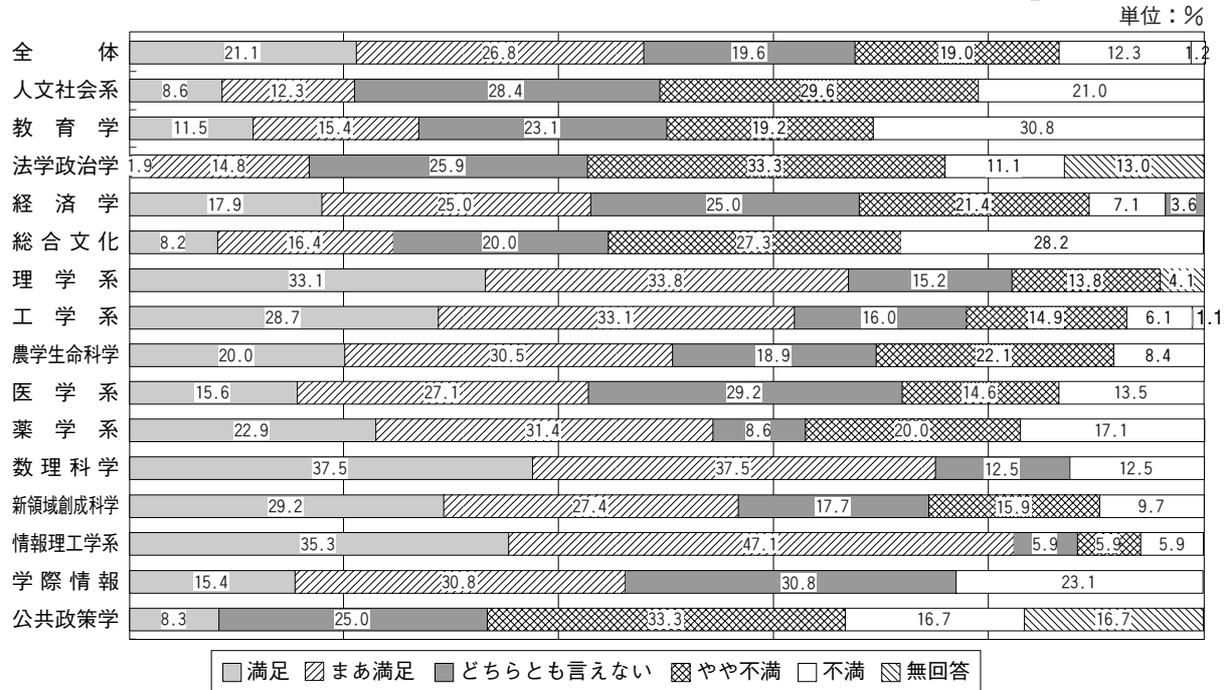


図4-2 研究室での日常生活の満足度「研究上の経費」

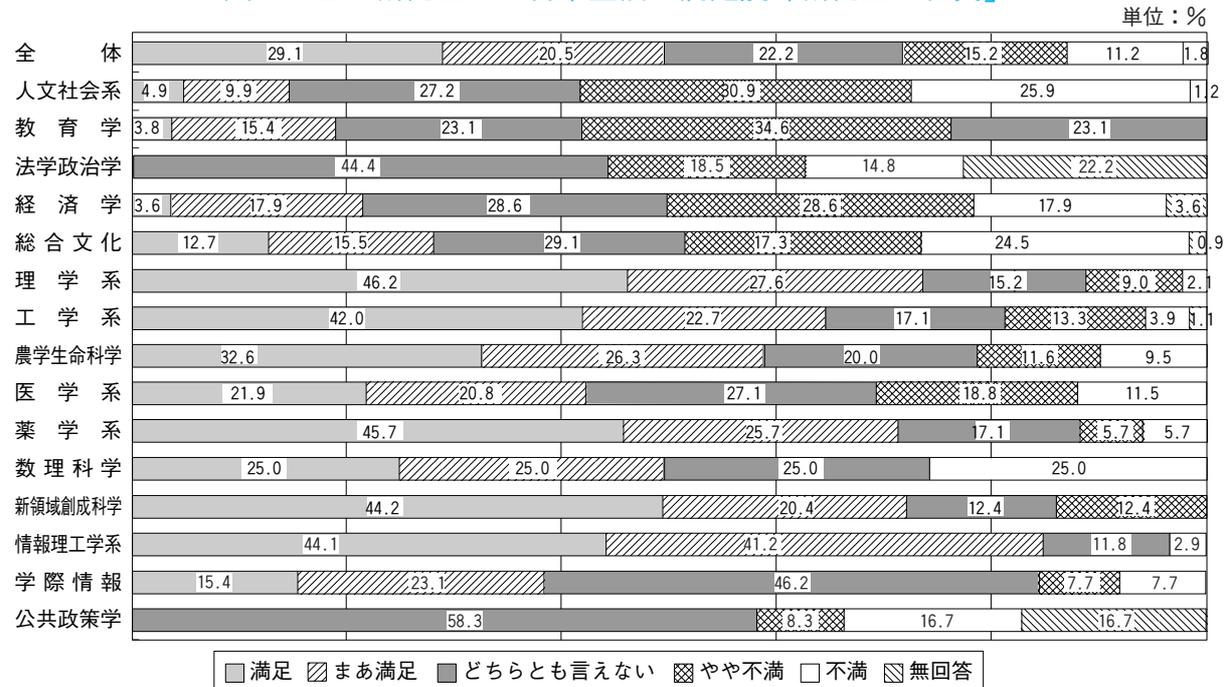


図4-3 研究室での日常生活の満足度「人間関係」

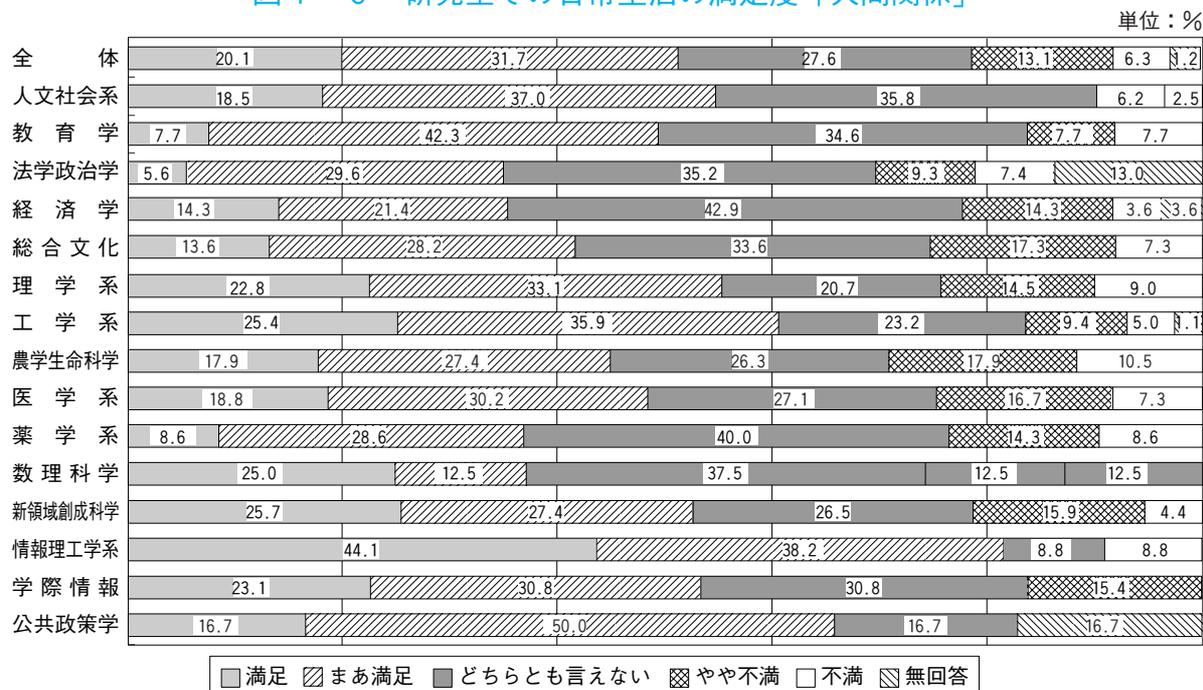


図4-4 研究室での日常生活の満足度「指導教員の研究指導方法」

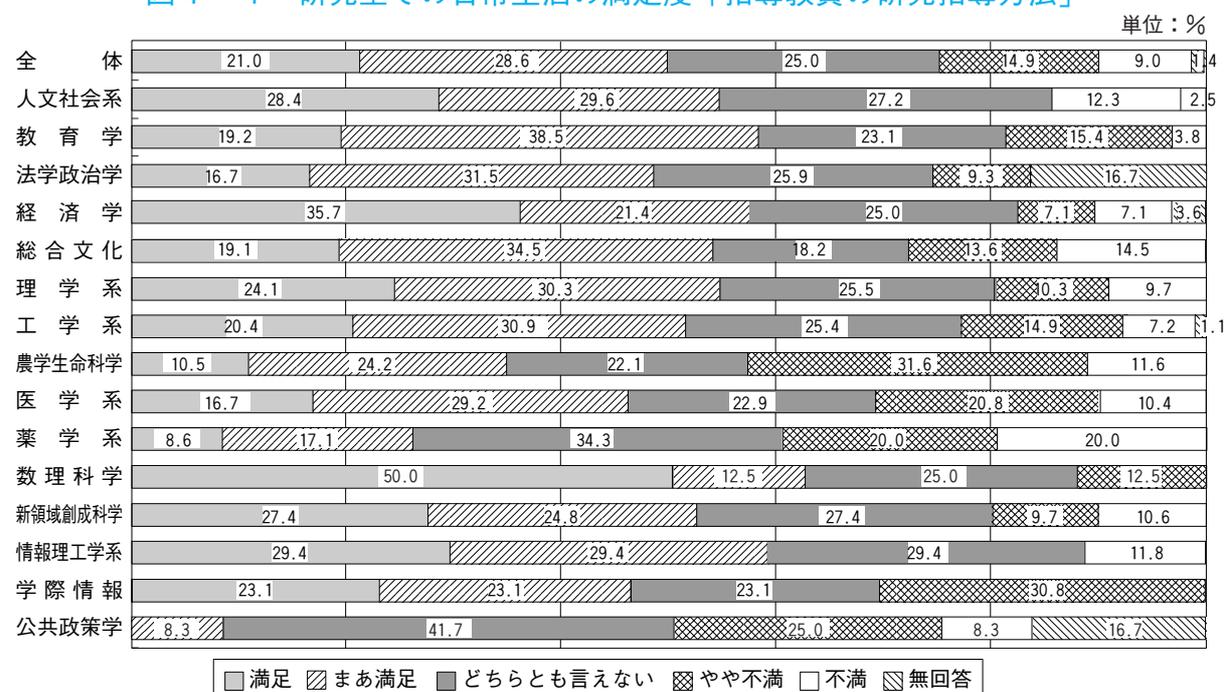
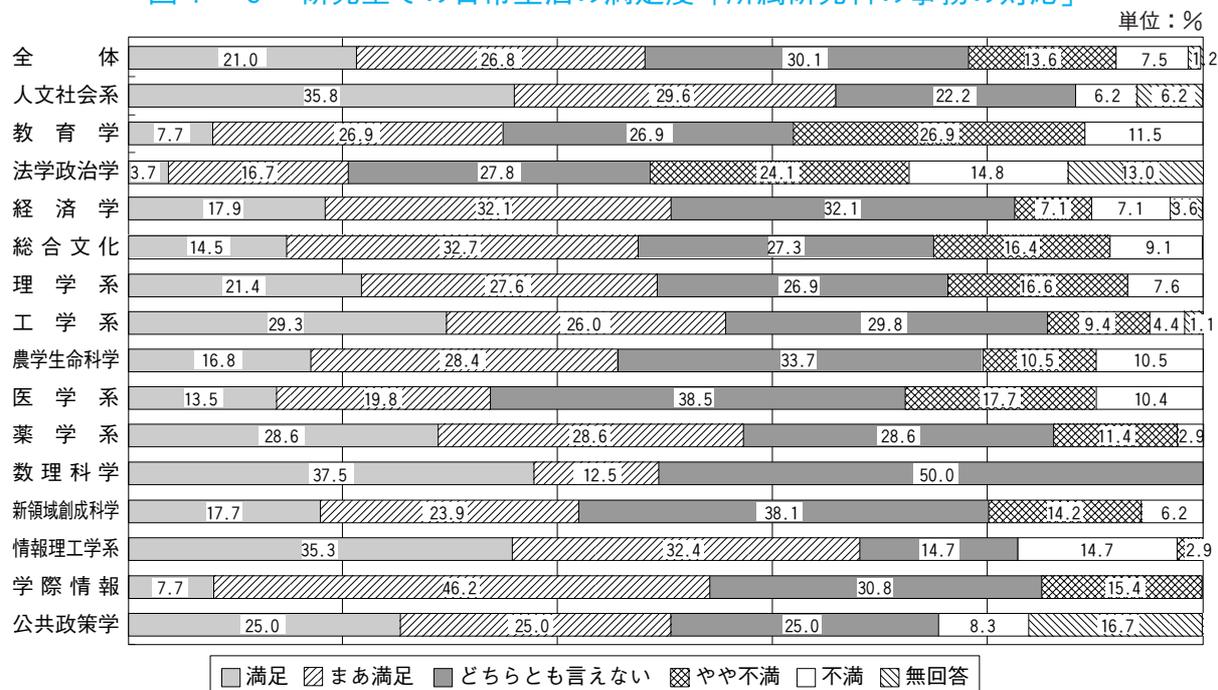


図4-5 研究室での日常生活の満足度「所属研究科の事務の対応」



「あなたの研究にあなた自身が負担しているお金は過去1年間でどれくらいですか」という問に、平均169,100円と回答されている。獣医学又は医学を履修する博士課程在籍者の負担額は、専門職学位課程在籍者、修士課程在籍者、博士課程在籍者の負担額より増えており、また、文科系は理科系に比べて負担額が多くなっている。特に文科系では、法学政治学研究科と公共政策学教育部を除き、各研究科とも「50万円以上」が多く、理科系は医学系研究科を除き「10万円未満」が多い。自分が負担した研究費のうち、「研究に必要な書籍類の購入経費」は平均64,700円、「研究に必要なコピー代、その他文房具の購入費」平均19,800円、「調査、実験等の費用」平均35,600円、「学会、学会旅費、参加費、学会に関する諸費用」平均42,700円、「その他」平均22,500円となっている（図5-1～5、資料1-3-8-1～2表）。

図5-1 過去1年間に自分自身が負担した研究費（全体）

単位：千円

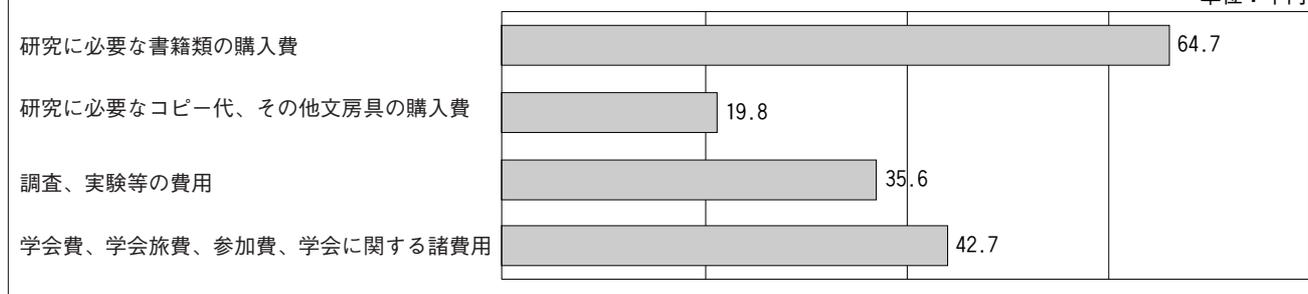


図5-2 過去1年間に自分自身が負担した研究費「研究に必要な書籍類の購入費」

単位：千円

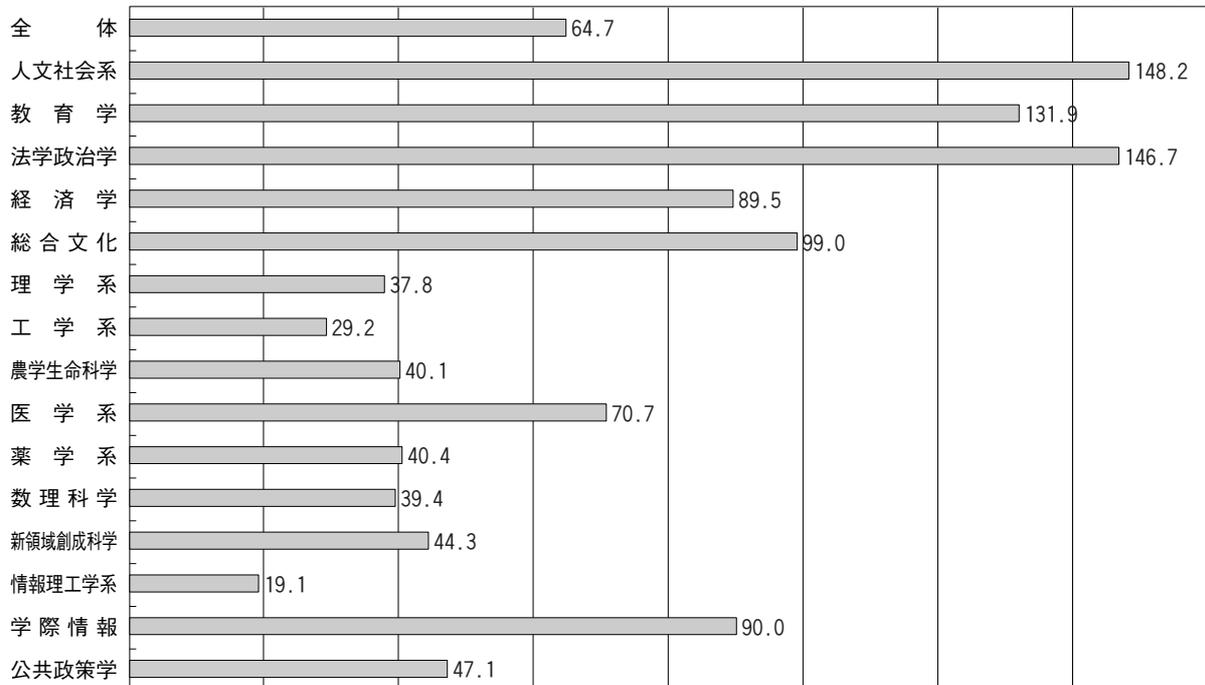


図5-3 過去1年間に自分自身が負担した研究費「研究に必要なコピー代、
その他文房具の購入費」

単位：千円

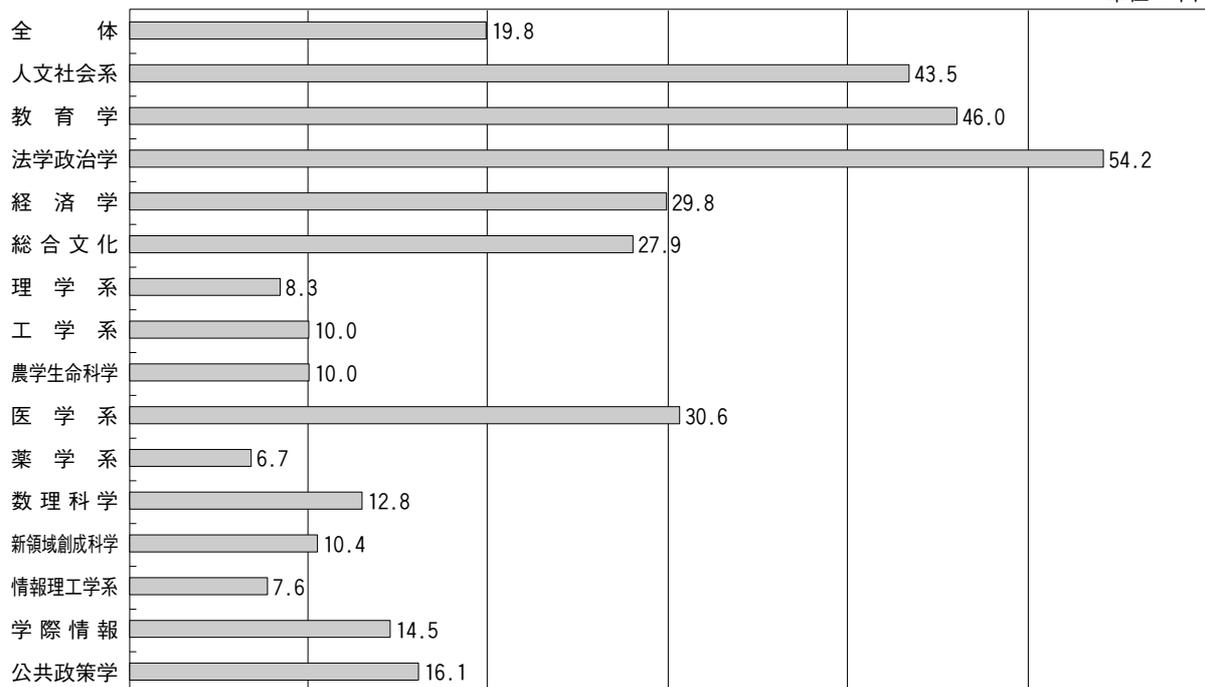


図5-4 過去1年間に自分自身が負担した研究費「調査、実験等の費用」

単位：千円

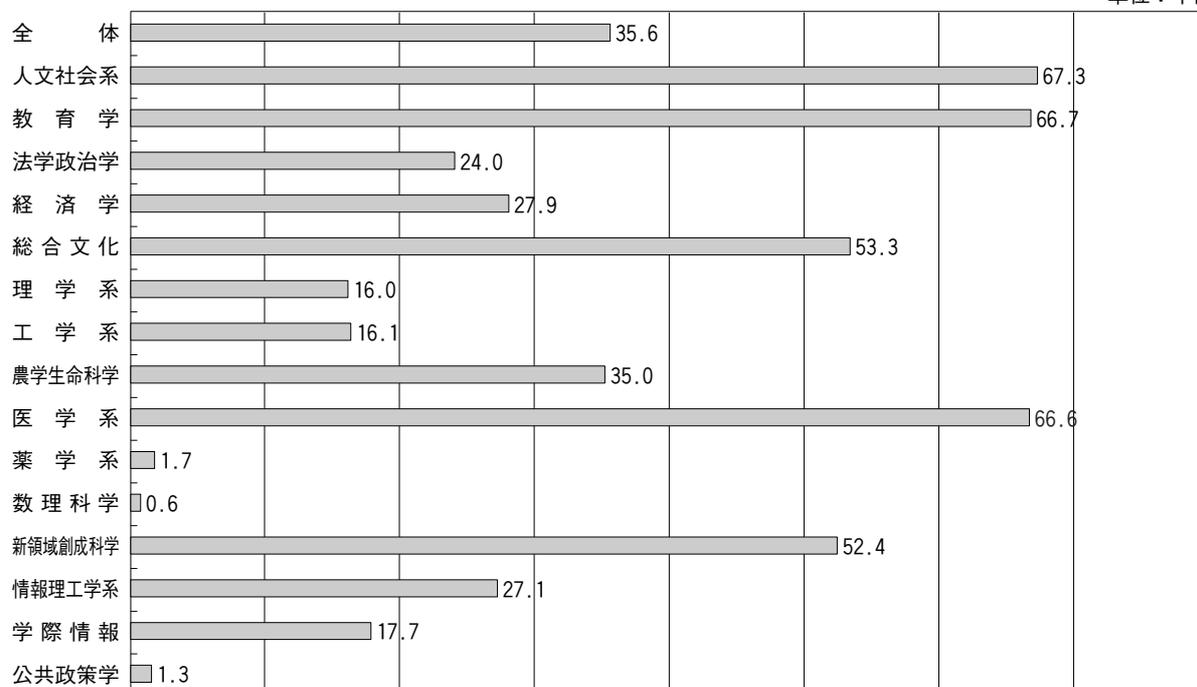
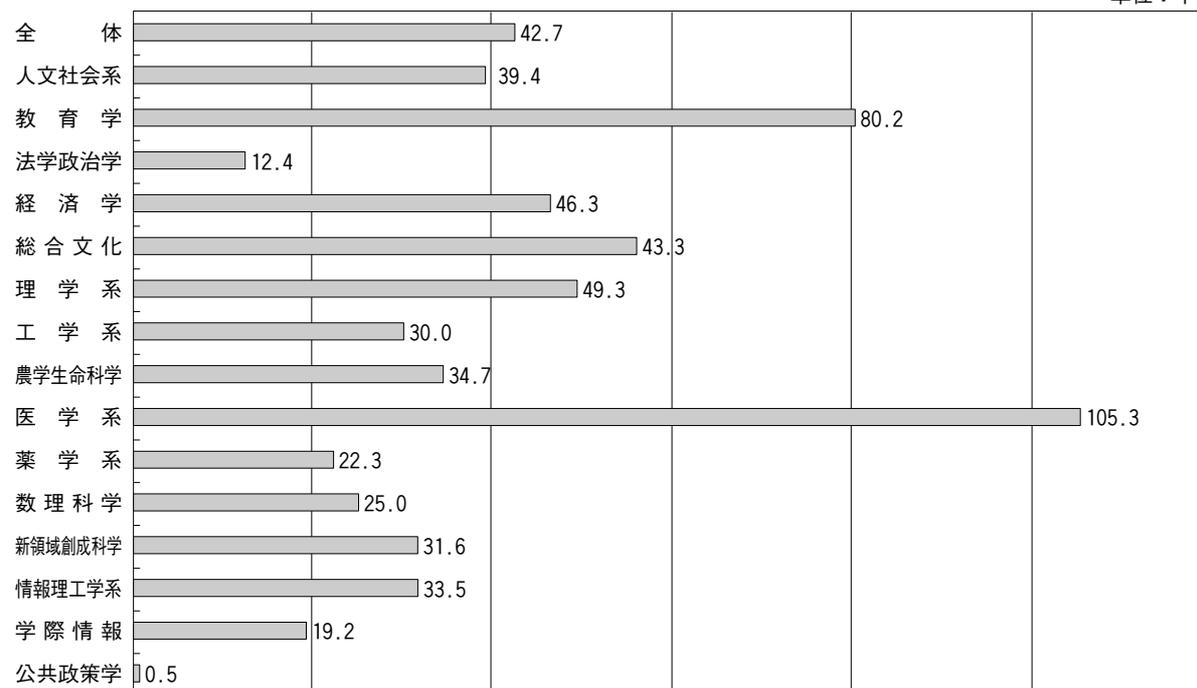


図5-5 過去1年間に自分自身が負担した研究費「学会費、学会旅費、参加費、学会に関する諸費用」

単位：千円



「大学、短大などの非常勤講師或いはTA、RAをしていますか」(「TA」はTeaching Assistantの略、「RA」はResearch Assistantの略)という問い、「していない(したことがない)」者が54.7%(前回調査60.3%)と多く、「過去にしたことがある」が18.2%となっている。「現在している」と回答があったのは26.7%で、前回調査よりも10.1ポイント増加した。また、男女別にみると男子の割合が多く、課程別では博士課程在籍者が占める割合が多めとなっている(資料1-3-9表)。

「研究室に、あなたの専用又は共用の机はありますか」の問い、「専用の机がある」74.0%、「共用の机がある」

11.5%と回答している。理科系では「専用の机がある」が93.6%を占めているが、文科系では「どちらもない」が42.8%となっており、文科系と理科系では状況はかなり異なっている（資料1-3-10表）。

「1週間に何日ぐらい大学に来ますか」との間に、「6日」30.0%、「5日」27.3%、「7日」13.2%の順で、総じて「5～7日」と回答する者が70.5%（文科系39.8%、理科系82.9%）となっている。なお、03年学部学生調査の結果では、「4～6日」と回答する者が多くっており、学部学生と大学院学生とでは、回答に若干の相違がみうけられる（資料1-3-11表）。

修士課程の者が修士論文を作成するのに要する期間として、「2年以内で書けると思う」が87.1%、「3年で書けると思う」が10.4%、「該当しない」が2.3%となった。文科系では「3年で書けると思う」を21.7%の者が回答しているが、理科系のこれは6.4%と少なめで、理科系では「2年以内で書けると思う」と92.3%の者が回答している（資料1-3-12表）。

博士課程の者が修士論文を作成するのに要した期間は、「2年以内で書いた」が73.6%、「3年で書いた」11.1%となっている。修士課程の者の作成予定期間とたがいに似通った傾向がみられ、「3年で書いた」が文科系23.1%に対し、理科系では6.7%と少なめとなっている（資料1-3-13表）。

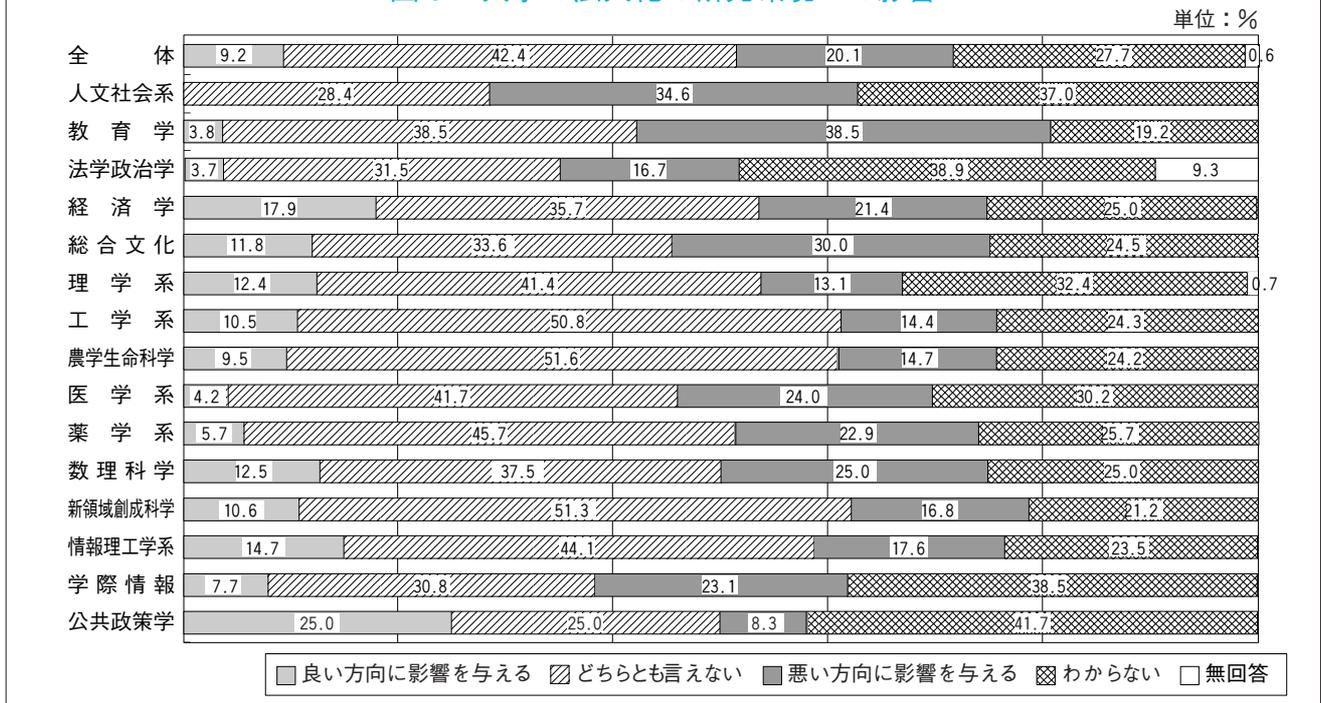
博士論文の執筆予定の間に、「在籍中に書く予定」と答える者が79.3%、「既に行った」5.3%、「在籍中に書く予定はないが、課程博士は取りたい」12.4%となっている。「既に行った」と答えた者は、理科系（6.7%）が文科系（1.7%）の4倍弱となっている（資料1-3-14表）。

「研究上（研究発表と論文作成等を含む）使用する主な言語はどれですか」（2項目選択）の間に、「日本語」93.9%、「英語」82.8%と回答する者が大部分を占めており、他を挙げる者は「仏語」2.3%、「独語」1.6%、「中国語」1.3%、と少ない。使用する外国語について、理科系は専ら「英語」（92.2%）に集中し、文科系は「英語」59.9%、「仏語」7.7%、「独語」5.4%、「中国語」4.3%と比較的多様になっている（資料1-3-15表）。

1日平均の研究時間は7.7（前回調査8.0）時間である。文科系は5.7（前回調査6.0）時間、理科系は8.4（前回調査8.7）時間で、理科系は文科系に比べ1日平均2.7時間多めとなっている。1週間平均の研究時間（新設）では43.3時間となっている。文科系は34.3時間、理科系は46.9時間で、理科系は文科系に比べ1週間平均12.6時間多めである（資料1-3-16-1～2表）。

「大学の法人化はあなたの研究環境にどのような影響を与えますか」の間に、「良い方向に影響を与える」9.2%、「どちらとも言えない」42.4%、「悪い方向に影響を与える」20.1%となっている。「どちらとも言えない」が文科系（32.4%）と理科系（46.4%）で高い割合を示す一方、「悪い方向に影響を与える」は文科系が28.8%、理科系は16.5%で、文科系は理科系に比べ、割合が高くなっている。特に、人文社会系、教育学、総合文化では「悪い方向に影響を与える」と考える大学院学生が3割ないしそれ以上に達している。一方、理科系でも「良い方向に影響を与える」と考える大学院学生が2割を超えるところはなかった（図6、資料1-3-17表）。

図6 大学の法人化の研究環境への影響



4. 就職

修士課程在籍者は大学院修了後、「同じ研究室の博士課程へ進学したい」40.3%、博士課程在籍者は「研究職に就職したい」26.9%が第1希望
 第1希望職種「大学の教育職、研究職」45.3%
 就職の見通しは「かなり厳しい」と「たたない」が文科系52.5%、理科系29.0%

修士課程修了後の進路の第1希望（第2希望まで選択）は、全体としては「修士課程と同じ研究室の博士課程へ進学したい」40.3%となっている。これを文科系、理科系別にみると、文科系は63.8%と集中しているが、理科系は「修士課程と同じ研究室の博士課程へ進学したい」32.0%が第1位ではあるが、「研究職に就職したい」29.7%、「研究職や専門職以外で就職したい」27.1%に分散している（資料1-4-1表）。

博士課程修了後の進路の第1希望（第2希望まで選択）は、「研究職に就職したい」26.9%となっている。また、「特別研究員などとして残りたい（研究生を除く）」の四つの選択肢を合せると、48.0%で半数近い者が研究員を希望している。研究者としての継続志向がうかがわれる（資料1-4-2表）。

将来の就職先としては、「大学（短大、附置研究所を含む）の教育職、研究職」が45.3%で、前回調査（1999年調査）同様もっとも多く、次いで「企業の研究職、技術職」19.4%「国公立研究機関（独立行政法人を含む）の研究職」10.8%と続いている。「大学の教育職、研究職」は、男子にも女子にも人気が高く、ともに第1位に挙げられている。また、専門職学位課程在籍者は「専門職（弁護士、公認会計士、税理士、医師等）」を希望する者が多くなっている（図7、資料1-4-3表）。

「就職の見通しについて、どのように考えていますか」という問いに、35.8%（前回調査33.7%）と約3分の1が「かなり厳しいと思っている」及び「見通しがたたない」、文科系は52.5%と多い（資料1-4-4表）。

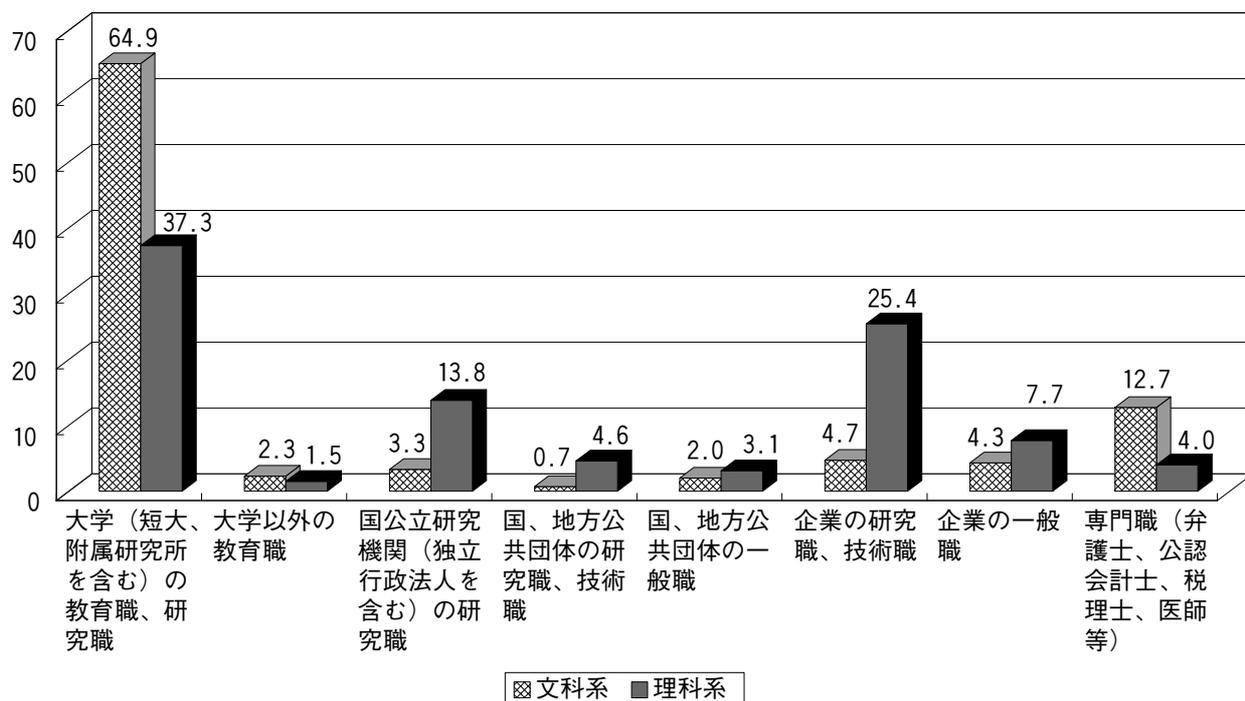
就職の情報について全体では、「自分で情報収集に努める」と答えた者が53.5%と過半数を占めており、特に修士課程者は62.0%、専門職学位課程者で73.1%とそれぞれ多くみられる（資料1-4-5表）。

教育職、研究職を目指している者に、「博士課程修了後、何年位で教育職、研究職に就けるとお考えですか」と尋ねたところ、「見通しが立たない」26.4%がもっとも多く、次いで「3～5年」23.6%と続いている（資料1-4-6表）。

「大学の法人化はあなたの就職にどのような影響を与えますか」との問いに、43.0%と約半分が「どちらとも言えない」と回答しているものの、専門職学位課程在籍者を除いて「よい方向に影響を与える」よりも「悪い方向へ影響を与える」と考えている学生がかなり多い（資料1-4-7表）。

図7 就職希望職種（第1希望のみ集計）

単位：%



5. 研究・学生生活のサポート体制

「通学所要時間」は平均45.9分

各キャンパス共通の不安、不便に感じることは、キャンパス内外の治安、夜間の暗さを上げる声が多い施設・設備の充実、整備が早急に必要な諸施設は「学内食堂」「寛げるスペース」が上位を占める

通学・住居に関する調査はこれまで数回行っているが、今回は3つのキャンパス（本郷、駒場、柏）とその他へそれぞれ通う大学院学生に、各キャンパスへのアクセスやキャンパス周辺の環境について、どう考えているのか、初めて聞いたものである。また、昨年度行った学部学生の調査項目（学生生活の満足度）の中で、学内諸施設に対する設問などを設けたが、今回調査で大学院学生に改めて聞いた。

5-1. キャンパスへのアクセスやキャンパスの周辺環境

通学に利用している交通機関（複数選択）は、前回調査（1999年（第49回））では主たるものを移動時間の多い順に2つまで選択可としていたが、結果は前回と同様に「電車」が70.4%でもっとも多く、次いで「自転車」42.8%、「徒歩のみ」10.1%、「バス」9.9%の順となっている。キャンパス別で見ると、「本郷」と「駒場」は同様な傾向にあるが、「柏」は「自転車」62.7%がもっとも多く、また「バス」「自家用車」「バイク」の利用が、他キャンパスよりも高いようである（資料1-5-1表）。

通学所用時間は、片道平均45.9分で前回調査（49.5分）より短くなっている。キャンパス別では、「柏」への所用時間が39.3分でもっとも短い（資料1-5-2表）。

今回ははじめての試みとして、日ごろ不安・不便に感じることと、それらに対する改善策・要望を具体的に聞いた。各キャンパスで共通な内容のうち、特に多かったものを以下にまとめる。

1. 不安・不便に感じること
 - ・キャンパス内外の治安
 - ・夜間の暗さ
 - ・車、バイク、自転車等のマナーの悪さ
 - ・寛げるスペースが少ない
 - ・ATMが少ない
2. 改善策・要望
 - ・キャンパス内外の警備の強化
 - ・街灯を増やす
 - ・学生寮、宿泊施設、仮眠室を作る

また、それぞれのキャンパスで多かった意見としては、

「工事が多い」（本郷）、「盗難が多い」（本郷）、「トイレが少ない」（本郷）、「禁煙・分煙の徹底」（本郷）、「道路の舗装・清掃」（本郷、駒場）、「食事する場所が少ない」（本郷以外）、「銀行、郵便局が遠い」（柏、その他）、「バスの増発」（柏）、「近くに喫茶店が欲しい」（柏）などがあった（資料1-5-3、資料1-5-4-1～4表）。

5-2. キャンパス内の諸施設

一般的な施設等の中でもっと整備が必要だと思う事項を「よく整備・美化されている」から「整備・美化が不足している」の4段階で、該当する番号を選択してもらった。「よく整備・美化されている」「ある程度整備・美化されている」を合わせると、前年学部調査と同様に「大学キャンパス内の樹木等の整備」が89.2%（前年学部89.5%）で最も高く、大学院学生の9割弱が回答している。次いで、「大学キャンパス内の清掃」が85.9%（前年学部71.1%）、「大学の建物内の清掃」が75.7%（前年学部58.0%）の順になっている。一方、「あまり整備・美化されていない」「整備・美化が不足している」を合わせると、「大学構内の不要となった廃棄物」が40.2%（前年学部50.1%）でもっとも高く、4割の大学院学生から回答された（図8、資料1-5-5表）。

本学の課外活動施設、福利厚生施設等の満足度を全12項目について聞いたところ、「学内食堂」を除いて「満足している」「まあ満足している」が「やや不満である」「不満である」を上回っている（資料1-5-6表）。

諸施設等の中で、施設・設備の充実・整備が早急に必要と思うものに対しては、前年学部調査の第1位と第2位が逆

転して、「学内食堂」43.5%（前年学部43.2%）が最も高く、次いで、「寛げるスペース」43.4%（前年学部44.6%）、「研究科内の学生控室等」39.2%の順であり、学部学生と同様に憩いの場を求める者が多い。特に、「柏」では「学内食堂」が70.7%と7割の者から回答を得た。また、新たな選択項目として、「託児所」と「学生相談所」を加えたが、いずれも5%を超えた（図9、資料1-5-7表）。

図8 一般的な施設で整備が必要だと思う事項

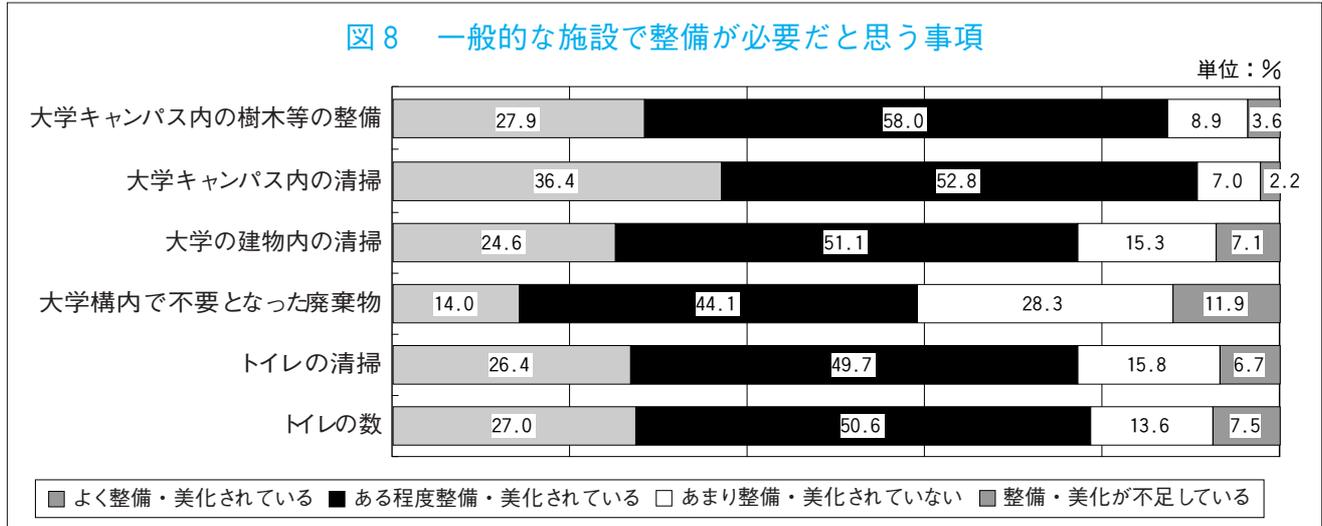
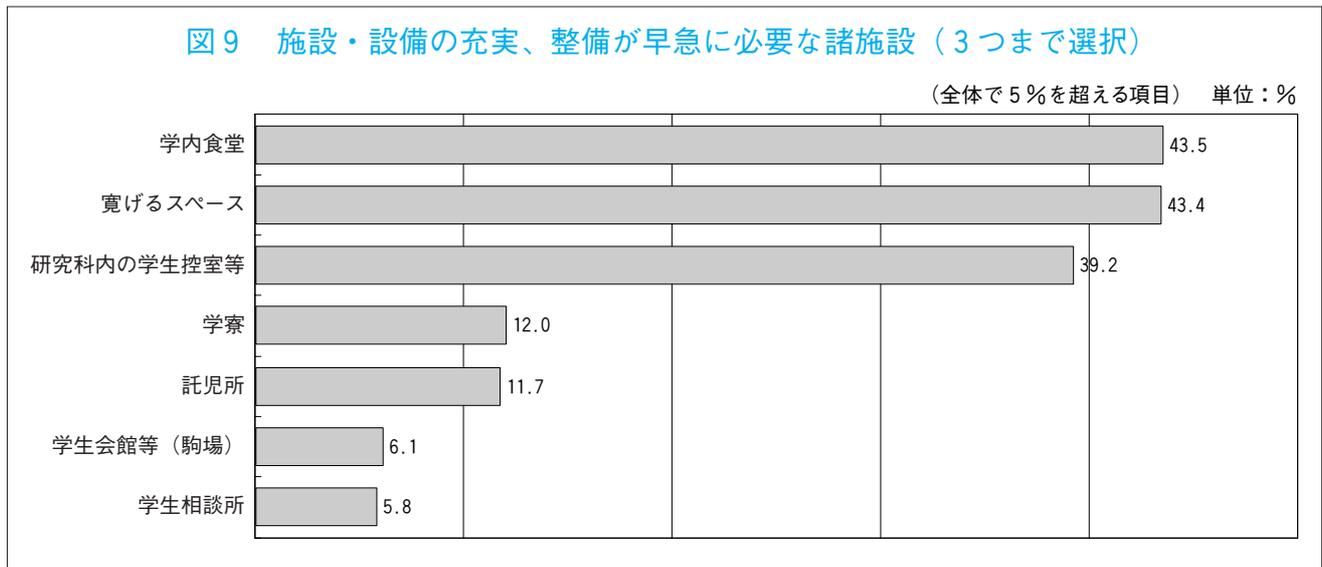


図9 施設・設備の充実、整備が早急に必要な諸施設（3つまで選択）



6. 大学への要望

大学の社会的貢献や国際化を推進するための関連事項は、基礎研究の充実、国際化のための研究者の交流・共同研究をより積極的に、さらに日本から外国への留学が重要と認識
 大学への要望として「オーバードクター問題やポストドク問題への対応」が第1位、「奨学金などの拡充や増額」が第2位、「教育スタッフの充実」「図書館の充実」「就職対策の充実」が続く

大学への要望は、これまで自由記述による調査を行ってきたが、今回は大学の法人化後、初めて大学院学生に対して行うことから、前年（2003年）に行った学部学生に対する設問と同様の内容とした。

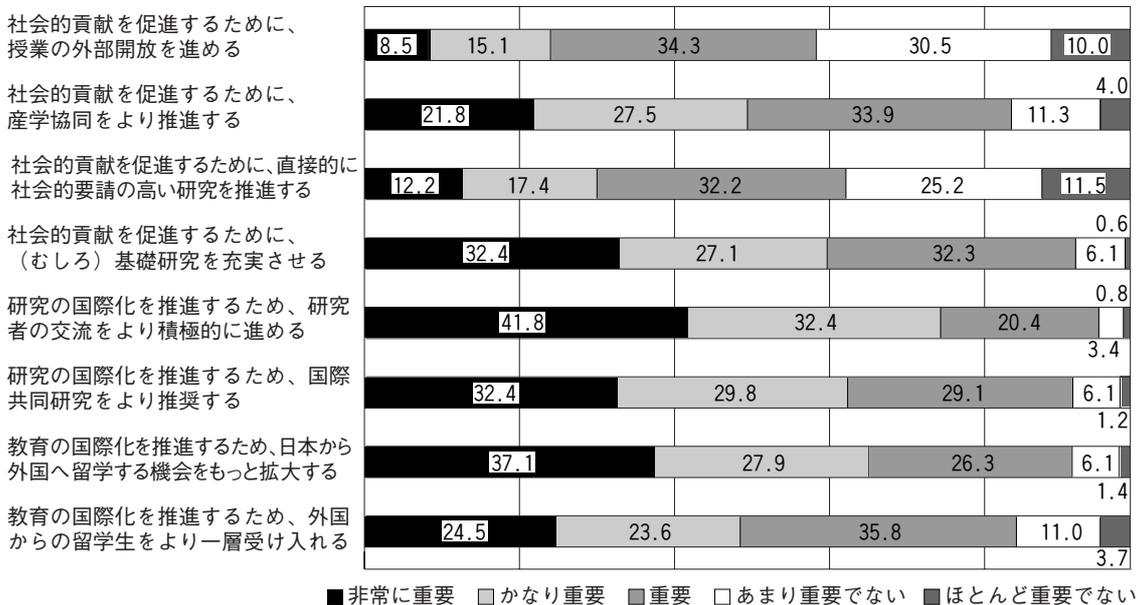
大学の社会的貢献や国際化を推進するための関連する事項は、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を総じてみると、社会的貢献を促進するための事項は、前年学部調査と同様に「基礎研究を充実させる」91.8%（前年学部88.0%）、「産学協同をより推進する」83.2%（前年学部79.7%）が前年の学部学生調査と同様に上位となっている。一方、「授業の外部開放を進める」は「あまり重要でない」「ほとんど重要でない」を合わせると、40.5%（前年学部39.8%）になっている。また、研究の国際化を推進するための事項も、前年学部調査と同様「非常に重要」「かなり重要」「重要」を合わせると、全4項目が8割を超えた。特に、「研究者の交流をより積極的に進める」94.6%（前年学部95.4%）、「国際共同研究をより推奨する」91.3%（前年学部92.8%）、「外国へ留学する機会をもっと拡大する」91.3%（前年学部92.2%）は9割を超える結果となっている（図10、資料1-6-1表）。

大学への要望や期待することは、「オーバードクター問題やポストドク問題への対応」が38.5%でもっとも多く、次いで「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」38.0%、「教育スタッフの充実」26.0%、「就職対策の充実」22.1%、「図書館の充実」22.1%が上位で20%以上を示している。前年に行った学部学生の調査結果の順位は、「授業の方法の工夫・改善」「カリキュラムの改革」「少人数教育の実施」「進学振分け制度」が上位であったのに比べると、大学院学生が大学への要望や期待することと大きく異なっている。

研究科別の第1位の要望項目は、総合文化研究科・理学系研究科・農学生命科学研究科・医学系研究科・数理解学研究科が「オーバードクター問題やポストドク問題への対応」を、人文社会系研究科・教育学研究科・工学系研究科・薬学系研究科・新領域創成科学研究科・情報理工学系研究科が「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」を、法学政治学研究科・学際情報学府が「図書館の充実」を、経済学研究科・公共政策学教育部が「留学・国際交流への支援」をそれぞれ第1位に挙げている（資料1-6-2表）。

図10 大学の社会的貢献や国際化を推進するための関連事項の重要度

単位：%



7. 特殊分析（東大生の人生観について）

担当 亀口憲治

7-1. 調査のねらい

これまでに実施された過去53回の調査では、東大生の「人生観」について直接に問いかける項目が設定されたことはなかった。そこで、今回は大学院生のみを対象とした調査ではあるものの、東大生の人生観を知る何らかの手がかりを得ることをねらいとした。また、調査の実施時期が法人化の初年度と重なった点でも、歴史的な意味を持つのではないだろうか。本調査を通じて東大生の人生観を知ることが、本学における学生生活のいっそうの改善を図る上でも、貴重な示唆を得ることが期待される。

7-2. 東大院生にとっての研究

大学院入学の目的は、前回調査（1999年）と同様に「高度の専門知識・技術を身につけるため」が75%でもっとも多く、ついで「大学等の研究・教育職をめざして」42%、「社会で貢献できる能力・資質を身につけるため」が30%、「学位を取得するため」が26%であった。

東大入学の動機としては、前回調査と同様「自分の志望した研究科があったから」が71%でもっとも多く、ついで「スタッフ・環境・設備が優れているから」70%、「将来の進路を考えて」41%と続き、前回調査と同じ傾向であった。

院生の本分とも言える「研究」の遂行についての調査結果では、国内学会の所属（66%）に比べて、国外の学会に所属する者は、わずか8%にも満たない現状であり、国際舞台への挑戦という観点からは、けっして積極的であると認めることはできないのではないだろうか。また、国外の学会への参加経験者は18%、発表経験のある者は、15%であり、いずれも多いとは言えない数字である。

大学院入学後の海外学術調査の経験については性差が認められ、女子（20%）が男子（13%）よりも多く経験していることが確認された。また、大学院在学中の留学の希望についても、女子（69%）が男子（57%）を上回っていることが注目される。

自身の研究成果については、思うように成果が上がらないと答えた者が54%、自分の能力や適性に不安があると答えた者が42%であった。いずれもけっして少ないとは言えない比率である。人間関係についての不満は、前回調査同様に20%程度であることを考慮すれば、自分の研究能力そのものに十分な自信が持てない状態の院生が半数近くいることは無視できない結果だと言えよう。

7-3. 東大院生にとっての職業

大学院修了後の進路については、修士課程在籍者は博士課程進学希望が40%、博士課程在籍者は研究職への就職希望が27%であった。また、第1志望職種は、「大学の教育職、研究職」が45%であった。一方で、就職の見通しについては、「かなり厳しい」、「見通しがたたない」が36%であった。

また、法人化が就職に与える影響について「よい方向に影響を与える」よりも「悪い方向へ影響を与える」と考えている院生がかなり多いことが確認された。

これらの結果からは、かなり多くの東大の院生が近い将来の自分の就職について、悲観的ともとれる見通しをもっていることが判明した。学内施設の改善要求の選択肢として今回初めて加えられた「学生相談所」を5%に達する院生が選択したこととも無縁ではない。これらの調査結果は、院生のなかにキャリア・カウンセリングへの潜在的希望がかなり多くあることを示唆している。

7-4. 東大院生にとっての人生目標

前回調査時には大学院重点化の弊害についての分析結果が出されていた。その問題点は、以下の3点に集約されていた。

- (1) 大学院定員の増加により、修了後の就職に過当競争が生じている。
- (2) 定員増に対し、設備が旧来のままであるため、さまざまな不便が生じている。以前から研究室に大学院生各人の机が欲しい等の要望が聞かれたが、定員増によりこのような状況はますます悪化しているものと思われる。
- (3) 学生の質が低下しており、研究室にやる気の無い大学院生がいるため、悪影響が出ている等の迷惑を指摘する声がある。教員の指導責任を問う指摘もあった。

今回の調査でも、就職の見通しは「かなり厳しい」、「見通しがたたない」が36%（前回34%）、研究室に専用又は共用の机の有無は「どちらも無い」が14%（前回12%）であり、ほぼ同様の傾向が認められた。したがって、法人化以後も大学院重点化の弊害はいまだ改善されないままであることが読みとれる。とりわけ、就職の見通しのなさから来る将来への不安感は、一部の大学院生に留まらないようだ。将来を楽観している大学院生の方が、むしろ少数派ではないか

との印象がぬぐえない。

今回の調査では、学内施設として託児所の設置を望む回答が12%もあることが判明した。女性の院生の増加から予想されることではあるものの、少子化への具体的対応と関連する課題であり、注目すべき調査結果である。具体的記述の中にも、以下のような女性の院生からの指摘があった。

「私にとって大学院生活は家事・アルバイト・学業という三立状態にある。少子化が叫ばれるなか、女性は将来の夢のために頑張っているかたわら、次の世代を産む役割も果たさなければいけない。女性のみにかかわらず、若い研究者(男性)のなかでも、共働きのところが多い。若い研究者たちが安心して子どもが産めるように、出産後も研究が続けられるように、一部の私立大学のように、ぜひ託児所を作って頂きたいと考えております。学生、研究者のみならず、東大全体で勤務している人たちもニーズがあるはずです。ぜひご検討願います」

また、研究活動に専念している院生の中には、日々の生活があまりに研究に偏りすぎるために、娯楽と無縁になり、自分でも社会への適応性を失うのではないかと、あるいは周囲からそのように見られるのではないかと不安に襲われている心境を率直に述べている例も、複数見受けられた。この他、すばらしい指導者との出会いに恵まれたことを喜びながらも、研究室での生活が狭く閉ざされたものになっていることへの戸惑いを吐露した記述もあった。この院生は、さらに閉鎖的な研究室での人間関係の問題を解決する目的でカウンセリングや学生相談所の活用を促す具体的な提言を行っていることも紹介しておきたい。

このほか、友人と始めたベンチャー企業と大学での研究の両立に苦勞している院生の記述が注目された。この院生は、高い専門性を身につけると同時に、社会と大学の架け橋になりたいとの夢を述べていた。また、自分の能力を社会に貢献可能なレベルにまで高めたいと考え、大学内に閉じこもることなく、積極的に留学等によって多くの人との交流を目指したいとの決意を語る記述もあった。

しかし、専門領域によっては、指導への不満や将来の不安を強く訴える内容の記述もかなり見受けられた。これらの記述からは、院生の人生設計を見通した指導体制の充実が急務であるとの印象を強く受けた。法人化後の本学にとっては、本調査によって見いだされた結果は、大学院生の人生設計やキャリア発達の課題に具体的対応が必要であることを示唆しているのではないだろうか。



第2部 学生生活の背景

1. 家庭の状況

実家の所在地は60.0%が関東、東京都の比率が減少
大学院学生のうち独身者は85.4%、既婚者率は14.5%、既婚者のうち子供がいるのは30%強
家計支持者の年収額は950万円未満が54.7%

実家の所在地は、「東京都」25.6%、東京都以外の「関東」が34.4%、合計すると60.0%で、前回調査（1999年（第49回））と比較して10.9ポイントの減少、特に「東京都」の減少が目立つ。男女別では、「東京都」と「関東」で男子の57.0%に対し、女子は67.4%で前回調査と同様男子を上回っている（図11-1～2、資料1-8-1表）。

大学院学生のうち、独身者は85.4%（前回調査84.2%）、既婚者は14.5%となっている（資料1-8-2表）。

子供がいると回答したのは既婚者の36.0%（男子36.2%、女子35.7%）を占め、前回調査（36.3%）とほぼ横ばいである。3人以上子供がいる者は女子ではみられないが、男子で4.3%が回答している（資料1-8-3表）。

「子供を保育所に預けていますか」の問い、「預けている」と35.2%が回答している。男女別で見ると、前回調査ではほとんど差がなかったが、今回は男子が17.6%に対して女子は65.0%で、大幅に女子が上回っている（資料1-8-4表）。

主として子供の世話をしている者は、配偶者が67.6%（前回調査50.0%）、自分17.6%（前回14.3%）である。これを男女別にみると、女子は85.7%（前回調査53.3%）が「自分」と答え、男子は前回調査と同様85.2%が「配偶者」と回答している。一方、従として世話をしている者は、男子では「自分」、女子では「配偶者」が多い（資料1-8-5-1～2表）。

「あなたの家族は、あなたを含めて何人ですか」の問い、概ね「3人～5人」が7割程で、「4人」が33.4%（前回調査32.5%）を占めもっとも多く、「3人」の21.7%（前回調査19.1%）を合すると半数を超える。これが既婚者のみでは、「2人」が31.3%ともっとも多くを占めている（資料1-8-6表）。

主たる家計支持者は「父」が66.0%（前回調査62.7%）、「本人」22.5%、「母」5.2%の順となっている。ただし、既婚者に限ってみると、「本人」38.7%、「配偶者」29.3%の順となっている。男子は50.0%が「本人」、女子は57.1%が「配偶者」と回答している（資料1-8-7表）。

主たる家計支持者（社会人入学者は自分）の職業は「専門的、技術的職業」がもっとも多く22.2%（前回調査17.4%）、次いで「管理的職業」17.7%（前回調査38.3%）、「教育的職業」10.1%（前回調査16.1%）と続いている（表3、資料1-8-8表）。

家計支持者の年収の分布は、中心となる「950万円以上1050万円未満」が23%を占めるが、「450万円未満」も19.8%存在する。「1,250万円以上」は14.3%（図12、図13-1,2、資料1-8-9-1～3表）。

図11-1 実家の所在地の推移（男子）

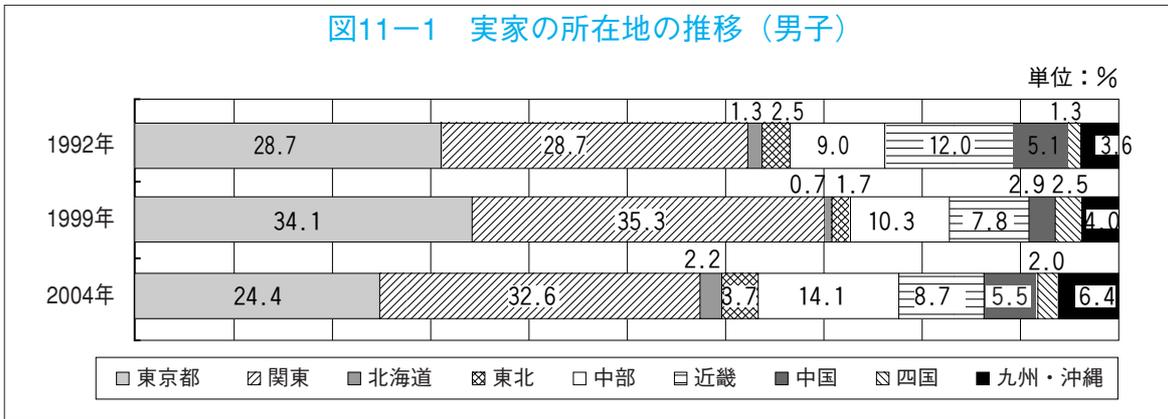


図11-2 実家の所在地の推移（女子）

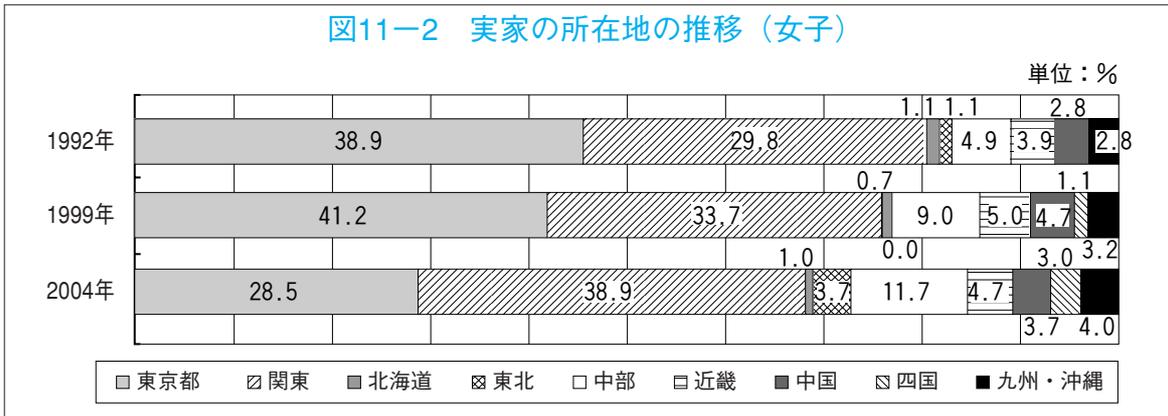


図12 主たる家計支持者の年収額分布

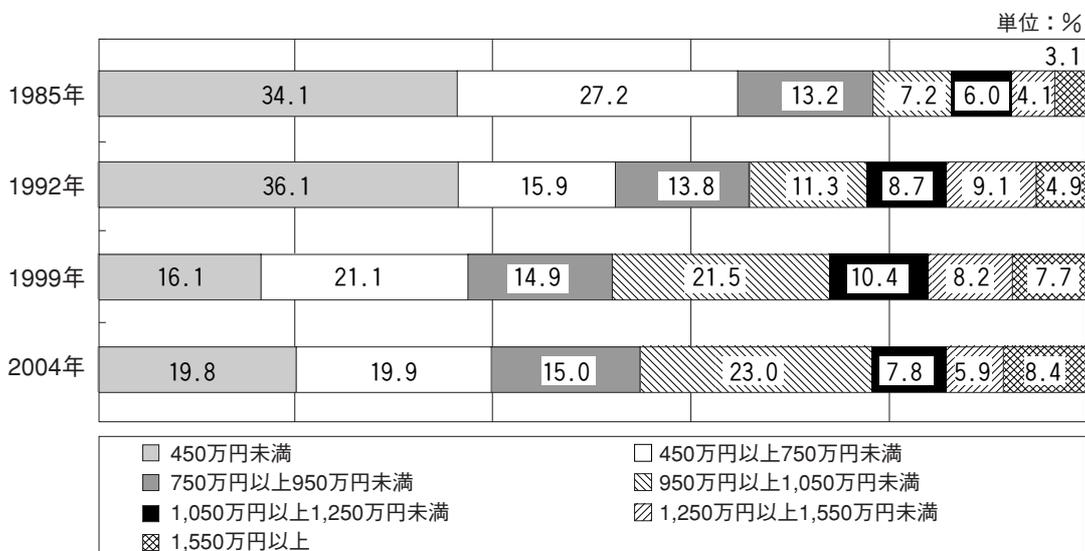


図13-1 主たる家計支持者の年収額分布（男子）

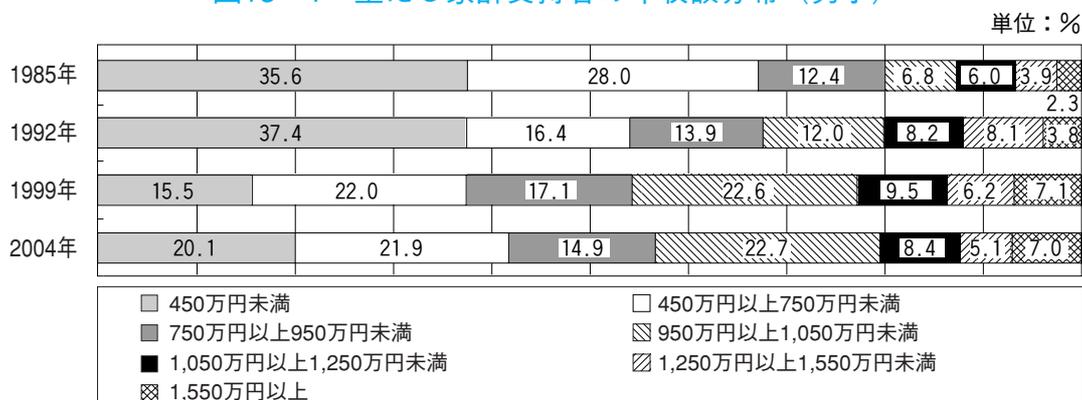
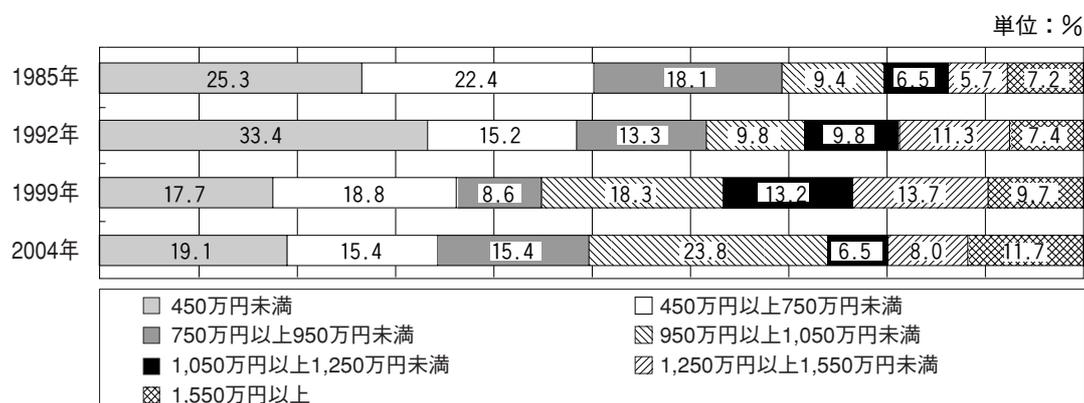


図13-2 主たる家計支持者の年収額分布（女子）



2. 生活費の状況

生活費は独身者133,500円、既婚者242,400円
 収入は独身者152,800円、既婚者317,400円
 助成金を収入源とするのは、独身者46.3%、既婚者28.1%
 アルバイト・定職のみで生活しているのは、独身者10.5%、既婚者41.1%

1か月当たりの「支出総額」（100円未満四捨五入）は月平均で149,100円。独身者133,500円、既婚者242,400円となっている。前回調査（1999年（第49回））と比較すると、独身者が3,200円減少、既婚者が1,000円増加している。独身者の場合、女子の方が男子より4,300円多く、既婚者の場合、男子の方が女子より18,700円多い。各費目の支出について独身者と既婚者を比較すると、既婚者は「住居費」で40,200円多いのをはじめ、「子供の養育・教育費」21,900円、「食費」・「光熱水費」の33,600円など各費目にわたって、独身者より出費が高んでいる（図14-1～2、資料1-9-1-1～3表）。

支出総額の分布を男女別にみると、男子は「15万円以上18万円未満」が19.6%、「12万円以上15万円未満」が16.5%で、女子では「15万円以上18万円未満」が16.8%、「21万円以上」が16.1%を占めている。また、獣医学又は医学を履修する博士課程在籍者では「21万円以上」と回答する者（男子54.3%、女子75.0%）が他の課程在籍者に比べ多く分布している（資料1-9-3表）。

一方、「収入総額」（100円未満四捨五入）は、月平均175,900円。独身者152,800円、既婚者317,400円となっている。前回調査と比較すると、独身者で2,700円、既婚者で7,800円減少している。独身者の場合、男子の方が女子より4,300円多く、既婚者の場合、女子の方が男子より17,900円多い。収入源としては、「助成金」54,600円、「家庭からの仕送り、小遣い」46,900円、「アルバイト」36,200円の順が多い。ただし、既婚者に限ってみると、「配偶者の収入」124,700円、「定職」81,500円の順が多い（図14-1～2、資料1-9-2-1～3表）。

収入形態の分布をみると、「仕送り+アルバイト・定職」の20.5%をはじめ、収入形態は多様となっている（資料1-9-4-1表）。

独身者は、助成金（日本学術振興会、日本学生支援機構、自治体、民間・外国の奨学団体を含む）を収入の一部又は全部としている者が全体で46.3%を占めている。中でも、博士課程在籍者に多くみられ、男子で64.1%、女子で54.9%を数える。また、「アルバイト・定職」のみで生計を立てている者は10.4%となっている（資料1-9-4-2表）。

一方、既婚者では助成金を収入の一部又は全部としている者は28.1%で、独身者に比べ18.2ポイント少ない。また、助成金又は仕送りを受けずに、アルバイト・定職・配偶者の収入のみで生計を立てている者が41.1%（男子32.9%、女子53.8%）となっている（資料1-9-4-1～3表）。

図14-1 生活費の状況（独身）

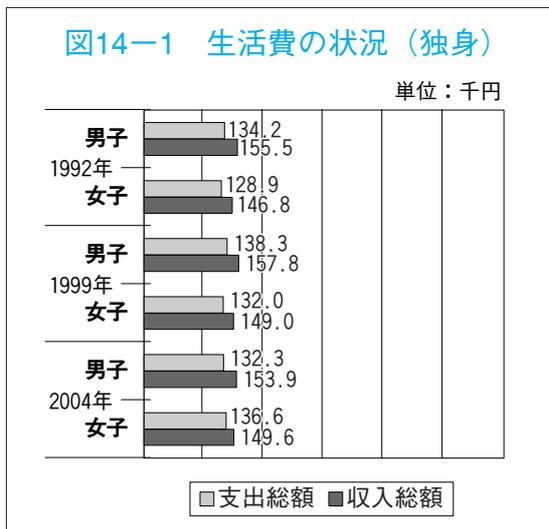
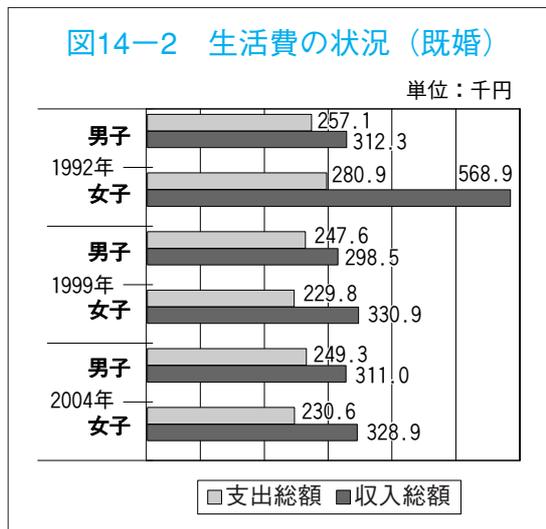


図14-2 生活費の状況（既婚）



3. 研究奨励金及び奨学金

学振の研究奨励金を受けたいが受けられなかった大学院学生が43.5%
 他の奨学金を受けたいが受けられなかった大学院学生が22.4%
 受領者のうち日本学生支援機構が74.6%、日本学術振興会が13.5%
 用途は「生活費」、「研究・勉学費」、「授業料」に集中

日本学術振興会の研究奨励金及び日本学生支援機構をはじめとする奨学的な資金の受領状況をみると、それぞれ14.3%及び31.7%が受領しており、男女別の受領率から女子は、男子に比較して低い傾向にある。また、日本学術振興会の研究奨励金を「受けたいが受けられなかった」が43.5%、日本学生支援機構を含む他の奨学金では22.4%となっている（図15-1～2、資料1-10-1～2表）。

「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した理由として、「出願はしたが採用されなかった」30.3%がもっとも多く、次いで、「貸与なので申請しなかった」23.9%、「書類を期限までに整えられなかった」13.5%の順となっている。前回調査（1999年調査）と同順であるが、「出願はしたが採用されなかった」が18.8ポイント減少して、その分が「貸与なので申請しなかった」が14.8ポイント、「書類を期限までに整えられなかった」が5.4ポイント増加している（資料1-10-3表）。

受領している奨学的な資金の内訳は、「日本学生支援機構」が74.6%でもっとも多く、次いで「日本学術振興会」13.5%となっている（資料1-10-4表）。

奨学的な資金の主たる支出目的（3つまで選択可）は、「生活費（衣・食・住居費）」86.5%、「研究・勉学費」52.8%、「授業料」46.4%、「教養・娯楽費」25.2%、「貯金」9.2%の順となっている。前回調査と比較すると、「授業料」が10.1ポイント増加し、「生活費（衣・食・住居費）」が2.6ポイント、「研究・勉学費」が13.9ポイント、「教養・娯楽費」が13.8ポイント、「貯金」が7.1ポイント減少している。また2003年（第53回）に行った学部学生の結果をみると、「勉学費」55.6%、「教養・娯楽費」40.4%となっており、学部学生は「勉学費」と「教養・娯楽費」の比率が4割以上であるのに対し、大学院学生は学部学生に比べて「教養・娯楽費」の比率が低く、「研究・勉学費」の2分の1以下である（資料1-10-5表）。

図15-1 奨学的資金受領状況（日本学術振興会）

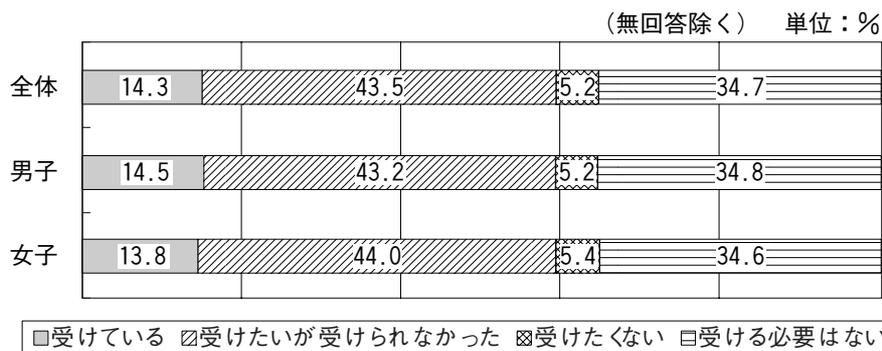
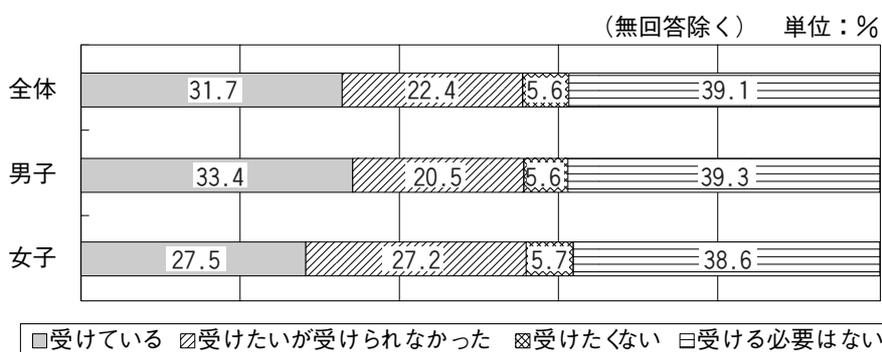


図15-2 奨学的資金受領状況（日本学生支援機構を含む他機関）



4. アルバイト

アルバイトをしている大学院学生が71.7%
 アルバイトの種類は「TA・RA」、「家庭教師」、「塾・予備校の講師」が多い
 週に12.3時間、月額で68,900円
 アルバイトの主な目的は「生活費を稼ぐため」が最も多い

過去1年間にアルバイトを経験していると71.7%が回答しており、「継続的」（1ヶ月以上）アルバイトをした者が多く、既婚者では「継続的」アルバイトの経験者が46.0%（前回調査（1999年（第49回））44.8%）となっている。男女別にみると、男子49.8%に対し、女子は49.7%で前回調査と同様若干ながら女子が男子を上回っている（資料1-11-1表）。

アルバイトの種類（2つまで選択可）は、「TA・RA」（新設、「TA」はTeaching Assistantの略、「RA」はResearch Assistantの略）は39.0%がもっとも多く、次いで「家庭教師」20.0%、「塾・予備校の講師」19.1%、「研究事務補助」（新設）13.9%の順となっている。男女別にみると、「TA・RA」は男子41.8%、女子32.1%でもっとも多く選択している。博士課程は特に依存度が高く6割に達している（図16、資料1-11-2表）。

アルバイトに費やした1週間当たりの平均時間は、12.3（男子12.4、女子11.9）時間で、1か月当たりの平均収入額は68,900（男子70,600、女子64,700）円となっており、男女別に時間単価をみると、男子の方が高い。なお、2003年に行った学部学生の調査では、1週間当たりの平均時間が、11.4（男子11.8、女子10.2）時間で、1か月当たりの平均収入額は45,800（男子47,300、女子41,500）円であった。また、独身者は週当たり11.9時間、月収59,600円であるが、既婚者はアルバイトに週14.4時間を費やし、月額129,300円の収入を得ている（資料1-11-3表）。

アルバイトの紹介者（2つまで選択可）は、「友人・知人等」35.7%、「指導教員」（新設）29.0%、「アルバイト先と直接」17.5%、「大学の担当事務」12.2%と続いている（資料1-11-4表）。

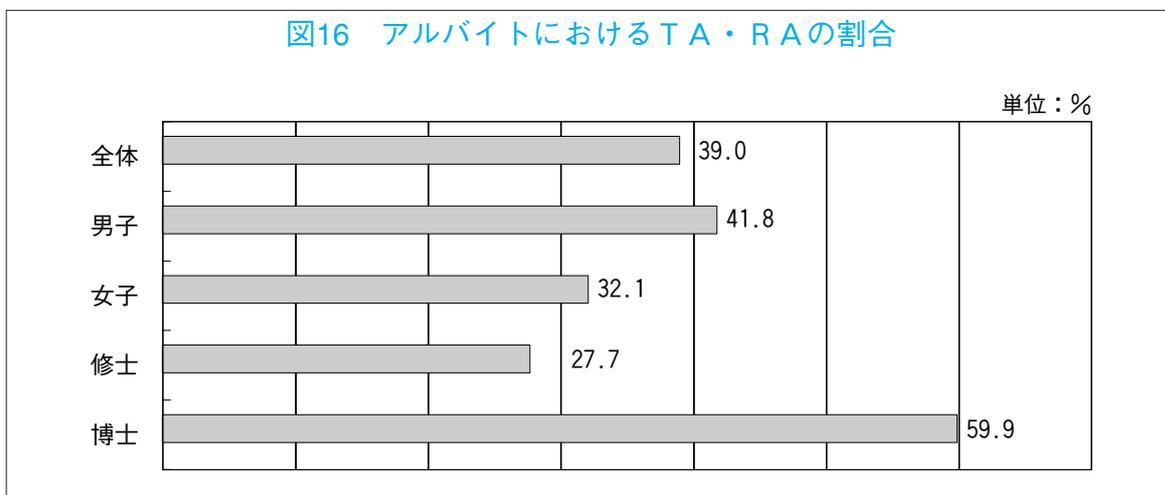
アルバイトをした理由では、「生活費を稼ぐため」と回答する者が過半数を占めており、また「奨学金を稼ぐため」16.9%を合せると、約7割を数える（資料1-11-5表）。

アルバイト収入の主たる使途（2つまで選択可）は、「生活費（衣・食・住居費）」が66.4%でもっとも多く、次いで、「教養・娯楽費」32.5%となっている。ちなみに、学部学生調査の結果をみると、例年「教養・娯楽費」（01年調査71.0%、02年調査68.7%、03年調査69.5%）がもっとも多くを占めている（資料1-11-6表）。

「継続的アルバイトが勉学の妨げになりませんでしたか」という間に、「多少妨げになった」43.3%（前回調査52.6%）、「かなり妨げになった」9.2%（前回調査12.8%）の回答があり、双方合せると52.5%（前回調査65.4%）を占めた。前回調査と比べて12.9ポイント減少したが、依然と勉学への影響を及ぼしているようである（資料1-11-7表）。

現在の暮らし向きについては、「かなり楽な方」及び「やや楽な方」と答えた者は31.1%で、「やや苦しい方」及び「大変苦しい方」と答えた者（以下、「苦しい」という）は28.5%である。独身者は「苦しい」が28.0%（前回調査27.3%）で、既婚者は32.0%（前回調査37.7%）と高い。また、この既婚者の中の10.7%が「大変苦しい」と回答している（資料1-11-8表）。

図16 アルバイトにおけるTA・RAの割合



集 計 表

ここでは、「調査票」のそれぞれの設問項目と、所要な基本項目とのクロス集計を行ったものを一括して順次掲載した。また、比較のため1999年（第49回）の大学院学生調査、2003年（第53回）の学部学生調査で、今回調査と同じ設定をしている調査項目の数値を、適宜、各集計表の中で（ ）内に示した。

表の見方

1. 百分率（パーセント）表示については、小数点第一位までを有効数字として算出した。
2. 平均値の算出は、無回答の者を除く該当者平均を求めた。
3. 作表の説明変数として用いた用語の定義は、次のとおりである。

「全体」………回答者全員の比率を示す。

「文科系」「理科系」…在籍する研究科等により二つの系に区分したものを示す。

1-1表 大学院に入学した目的

(2つまで選択)

区 分	高度の専門知識・技術を身につけるため %	大学等の研究・教育職をめざして %	企業の研究職をめざして %	学部卒業時点で就職の機会がなかったから %	現在の仕事に生かすため %	学位を取得するため %	社会に貢献できる能力・資質を身につけるため %	特に目的はない %	その他 %	無回答 人	事例数 人
1999年(49回)	(78.8)	(50.6)	(16.7)	(2.5)	(5.3)	(29.2)		(2.0)	(3.5)	(0.9)	(1,038)
全 体	75.2	41.7	10.9	3.4	3.1	25.8	29.5	1.6	2.3	0.7	1,031
男 子	75.2	42.3	10.9	3.4	2.3	25.5	30.4	1.9	2.2	0.4	733
女 子	75.2	40.3	10.7	3.4	5.0	26.5	27.2	0.7	2.7	1.3	298
修士課程	78.3	33.1	16.6	5.3	1.5	18.5	34.0	2.1	2.8	0.6	529
博士課程	71.0	59.2	5.4	1.2	2.2	31.7	21.8	1.2	1.2	0.7	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	58.7	30.4	2.2	—	26.1	60.9	17.4	—	—	—	46
専門職学位課程	90.4	3.8	1.9	3.8	5.8	23.1	53.8	—	7.7	1.9	52
文 科 系	73.9	61.5	2.0	3.3	2.0	21.4	21.4	1.0	3.3	1.7	299
理 科 系	75.7	33.6	14.5	3.4	3.6	27.6	32.8	1.8	1.9	0.3	732

2項目選択のため100%を越える。

1-2表 本学を選んだ理由

(3つまで選択)

区分	自分の志望した研究科(専攻分野)があったから %	スタッフ・環境・設備が優れているから %	東大の伝統や雰囲気は憧れていた %	実力相応と思ったから %	将来の進路を考えて %	社会的評価が高いから %	社会に貢献できる能力・資質を身につけるため %	経済的理由による %	地理的に自宅に近いから %	その他 %	無回答 %	合計 %	事例数 人
全体	70.8	69.3	16.3	13.1	40.8	21.5	12.5	15.0	15.7	4.0	—	100.0	1,031
男子	70.1	69.8	17.2	13.8	41.9	23.1	12.0	14.5	14.2	3.0	—	100.0	733
女子	72.5	67.8	14.1	11.4	38.3	17.8	13.8	16.4	19.5	6.4	—	100.0	298
修士課程	72.0	67.5	18.9	14.4	40.8	22.9	10.0	15.1	15.7	4.2	—	100.0	529
博士課程	71.5	73.8	13.4	12.1	41.1	19.3	14.9	14.1	15.1	2.2	—	100.0	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	69.6	56.5	10.9	10.9	32.6	8.7	26.1	4.3	19.6	17.4	—	100.0	46
専門職学位課程	53.8	63.5	17.3	9.6	46.2	36.5	7.7	30.8	17.3	3.8	—	100.0	52
文科系	71.9	71.2	17.1	12.0	41.1	21.1	14.7	19.7	16.1	1.7	—	100.0	299
理科系	70.4	68.4	16.0	13.5	40.7	21.7	11.6	13.1	15.6	4.9	—	100.0	732

1999年調査(49回)														
全体	第1位	47.6	28.4	3.2	3.1	6.7	2.9	3.1	1.3	1.0	2.5	0.3	100.0	1,038
	第2位	16.1	32.5	5.8	3.9	15.5	7.4	4.4	5.1	5.1	0.9	3.3	100.0	1,038
	第3位	5.4	10.9	6.6	4.9	21.2	10.8	6.1	9.9	11.1	1.6	11.6	100.0	1,038

前回調査では主たる理由を重視した順に第1位から第3位まで調査した。

1-3表 大学院を選ぶ際、他にどのような進路を考えましたか

(複数選択)

区分	東大内の現在所属する大学院以外の大学院 %	学部4年(あるいは修士課程)まで在籍した大学の大学院 %	学部4年(あるいは修士課程)まで在籍した大学以外の大学院(東大を除く) %	外国大学の大学院 %	就職 %	考えなかった %	無回答 %	合計 %	事例数 人
全体	26.9	23.7	20.8	11.2	22.2	30.8	0.1	100.0	1,031
男子	27.0	22.1	19.9	11.2	21.6	32.2	0.1	100.0	733
女子	26.5	27.5	22.8	11.1	23.8	27.5	—	100.0	298
修士課程	29.7	28.2	22.3	10.6	19.5	28.2	—	100.0	529
博士課程	26.5	18.8	16.3	12.4	24.8	34.2	—	100.0	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	10.9	8.7	8.7	6.5	39.1	45.7	—	100.0	46
専門職学位課程	15.4	28.8	50.0	11.5	15.4	19.2	1.9	100.0	52
文科系	22.4	22.1	28.4	12.0	19.1	32.1	0.3	100.0	299
理科系	28.7	24.3	17.6	10.8	23.5	30.3	—	100.0	732

1-4表 最終的に本学を選んだ理由

(2つまで選択)

区 分	希望専攻分野が 東大の方が充実して いた %	東大の方がネーム バリューがあると 思った %	経済的理由 %	外国で勉学・生活 するには語学の問題 があった %	希望地域の治安等 が良好でなかった %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
全 体	65.1	30.5	23.6	8.8	0.7	19.2	2.2	100.0	453
男 子	64.4	30.1	26.0	11.9	1.0	16.0	1.6	100.0	312
女 子	66.7	31.2	18.4	2.1	—	26.2	3.5	100.0	141
修士課程	66.8	34.7	19.3	8.9	0.8	18.5	1.5	100.0	259
博士課程	64.1	20.9	23.5	9.8	0.7	20.9	3.9	100.0	153
獣医学又は医学を 履修する博士課程	75.0	12.5	37.5	25.0	—	12.5	—	100.0	8
専門職学位課程	54.5	45.5	54.5	—	—	18.2	—	100.0	33
文 科 系	58.3	34.7	29.2	4.9	—	21.5	3.5	100.0	144
理 科 系	68.3	28.5	21.0	10.7	1.0	18.1	1.6	100.0	309

◎設問15で「2」または「3」または「4」と答えた方のみ

2-1表 現在所属している日本国内の学会数

区分	なし %	1学会 %	2学会 %	3学会 %	4学会 %	5学会 %	6学会 %	7学会 %	8学会 %	9学会以上 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(26.0)	(39.3)	(19.9)	(6.6)	(3.9)	(1.2)	(0.7)	(0.4)	(0.2)	(0.1)	(1.8)	(100.0)	(1,038)	
全体	31.1	36.9	18.5	7.4	2.1	0.9	0.2	0.1	0.1	0.1	2.6	100.0	1,031	1.2
男子	31.7	38.1	17.2	7.1	2.0	0.8	0.1	-	0.1	0.1	2.7	100.0	733	1.1
女子	29.9	33.9	21.8	8.1	2.3	1.0	0.3	0.3	-	-	2.3	100.0	298	1.2
修士課程	45.6	39.5	10.0	1.5	0.2	0.2	-	-	-	-	3.0	100.0	529	0.7
博士課程	7.7	39.9	31.4	15.3	3.2	1.0	0.5	-	0.2	0.2	0.5	100.0	404	1.7
獣医学又は医学を履修する博士課程	17.4	19.6	23.9	13.0	15.2	8.7	-	2.2	-	-	-	100.0	46	2.3
専門職学位課程	78.8	1.9	-	-	1.9	-	-	-	-	-	17.3	100.0	52	0.1
文系	40.8	25.8	14.7	9.7	2.3	1.0	0.3	-	-	0.3	5.0	100.0	299	1.1
理系	27.2	41.4	20.1	6.4	2.0	0.8	0.1	0.1	0.1	-	1.6	100.0	732	1.2

2-2表 現在所属している日本国外の学会数

区分	なし %	1学会 %	2学会 %	3学会 %	4学会 %	5学会 %	6学会 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(86.9)	(7.0)	(0.8)	-	(0.3)	-	-	(92.6)	(100.0)	(894)	
全体	80.5	7.9	1.0	0.1	0.1	0.1	0.1	10.3	100.0	1,031	0.1
男子	81.2	7.9	1.0	0.1	-	0.1	0.1	9.5	100.0	733	0.1
女子	78.9	7.7	1.0	-	0.3	-	-	12.1	100.0	298	0.1
修士課程	86.2	3.0	0.8	-	-	-	-	10.0	100.0	529	0.1
博士課程	74.3	14.1	1.2	0.2	-	0.2	0.2	9.7	100.0	404	0.2
獣医学又は医学を履修する博士課程	67.4	17.4	2.2	-	2.2	-	-	10.9	100.0	46	0.3
専門職学位課程	82.7	-	-	-	-	-	-	17.3	100.0	52	0.0
文系	80.3	6.4	1.0	-	-	-	0.3	12.0	100.0	299	0.1
理系	80.6	8.5	1.0	0.1	0.1	0.1	-	9.6	100.0	732	0.1

2-3表 国内の学会過去1年間の参加回数

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	6回 %	7回 %	8回 %	9回以上 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(23.8)	(28.4)	(23.5)	(10.7)	(5.8)	(2.8)	(0.9)	(0.3)	(0.4)	(0.2)	(3.3)	(100.0)	(1,038)	
全体	25.7	27.5	24.3	10.5	4.4	2.6	1.0	0.3	0.7	0.2	2.8	100.0	1,031	1.6
男子	24.8	28.4	24.3	9.7	4.5	2.7	1.2	0.4	0.8	0.1	3.0	100.0	733	1.6
女子	27.9	25.5	24.5	12.4	4.0	2.3	0.3	-	0.3	0.3	2.3	100.0	298	1.5
修士課程	31.0	33.3	19.7	8.3	1.7	1.5	0.8	-	0.4	0.2	3.2	100.0	529	1.3
博士課程	11.9	25.5	32.9	14.1	7.9	4.2	1.2	0.5	1.0	0.2	0.5	100.0	404	2.1
獣医学又は医学を履修する博士課程	26.1	10.9	28.3	15.2	8.7	4.3	2.2	2.2	2.2	-	-	100.0	46	2.2
専門職学位課程	78.8	-	1.9	-	-	-	-	-	-	-	19.2	100.0	52	0.0
文科学系	36.8	20.1	21.1	8.0	2.3	2.0	2.0	0.3	0.7	0.3	6.4	100.0	299	1.4
理科学系	21.2	30.6	25.7	11.5	5.2	2.9	0.5	0.3	0.7	0.1	1.4	100.0	732	1.7

2-4表 国内の学会過去1年間の発表件数

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	6回 %	7回 %	8回 %	9回以上 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(44.0)	(30.5)	(13.8)	(5.0)	(2.3)	(0.9)	(0.3)	(0.4)	(0.1)	-	(2.7)	(100.0)	(1,038)	
全体	47.6	27.0	13.3	5.2	2.0	1.2	0.3	0.1	0.1	0.1	3.1	100.0	1,031	0.9
男子	45.3	28.4	13.4	5.3	2.3	1.2	0.3	0.1	0.1	0.1	3.4	100.0	733	0.9
女子	53.4	23.5	13.1	5.0	1.3	1.0	0.3	-	-	-	2.3	100.0	298	0.8
修士課程	59.4	24.6	8.3	2.5	0.4	1.1	-	-	-	-	3.8	100.0	529	0.6
博士課程	29.0	33.2	21.0	9.2	4.2	1.5	0.7	0.2	0.2	0.2	0.5	100.0	404	1.4
獣医学又は医学を履修する博士課程	41.3	28.3	17.4	8.7	4.3	-	-	-	-	-	-	100.0	46	1.1
専門職学位課程	78.8	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	19.2	100.0	52	0.0
文科学系	66.9	16.4	6.0	2.3	1.3	0.7	-	-	-	-	6.4	100.0	299	0.5
理科学系	39.8	31.3	16.3	6.4	2.3	1.4	0.4	0.1	0.1	0.1	1.8	100.0	732	1.1

2-5表 国外の学会過去1年間の参加回数

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(77.8)	(11.8)	(2.5)	(0.3)	(0.2)	(0.1)	(7.2)	(100.0)	(1,038)	
全体	72.9	14.3	3.4	0.7	0.3	0.3	8.4	100.0	1,031	0.3
男子	72.9	13.6	3.8	1.0	0.4	0.4	8.3	100.0	733	0.3
女子	73.2	15.8	2.3	—	—	—	8.7	100.0	298	0.2
修士課程	83.6	6.6	0.8	—	0.2	—	8.9	100.0	529	0.1
博士課程	59.2	24.8	7.2	1.7	0.5	—	6.7	100.0	404	0.5
獣医学又は医学を 履修する博士課程	63.0	26.1	4.3	—	—	—	6.5	100.0	46	0.4
専門職学位課程	80.8	—	—	—	—	—	19.2	100.0	52	0.0
文科系	78.9	6.7	1.3	0.3	0.3	—	12.4	100.0	299	0.1
理科系	70.5	17.3	4.2	0.8	0.3	—	6.8	100.0	732	0.3

2-6表 国外の学会過去1年間の発表件数

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(79.4)	(10.6)	(2.1)	(0.4)	(0.1)	(—)	(7.4)	(100.0)	(1,038)	
全体	75.5	12.6	2.3	0.9	0.2	0.1	8.4	100.0	1,031	0.2
男子	75.4	11.7	2.9	1.2	0.3	0.1	8.3	100.0	733	0.3
女子	75.5	14.8	1.0	—	—	—	8.7	100.0	298	0.2
修士課程	84.9	5.9	0.2	0.2	—	0.2	8.7	100.0	529	0.1
博士課程	63.4	22.0	5.4	2.0	0.5	—	6.7	100.0	404	0.4
獣医学又は医学を 履修する博士課程	67.4	21.7	2.2	—	—	—	8.7	100.0	46	0.3
専門職学位課程	80.8	—	—	—	—	—	19.2	100.0	52	0.0
文科系	80.9	6.0	0.3	—	0.3	0.3	12.0	100.0	299	0.1
理科系	73.2	15.3	3.1	1.2	0.1	—	7.0	100.0	732	0.3

2-7表 大学院入学後の海外学術調査経験

区 分	ある %	ない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(13.3)	(85.7)	(1.0)	(100.0)	(1,038)
全 体	15.1	83.3	1.6	100.0	1,031
男 子	13.2	85.4	1.4	100.0	733
女 子	19.8	78.2	2.0	100.0	298
修 士 課 程	9.8	88.8	1.3	100.0	529
博 士 課 程	24.8	74.5	0.7	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	6.5	89.1	4.3	100.0	46
専門職学位課程	1.9	90.4	7.7	100.0	52
文 科 系	17.1	81.3	1.7	100.0	299
理 科 系	14.3	84.2	1.5	100.0	732

2-8表 大学院入学後の海外留学経験

区 分	ある %	ない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(2.8)	(96.3)	(0.9)	(100.0)	(1,038)
全 体	3.6	94.8	1.6	100.0	1,031
男 子	2.3	95.8	1.9	100.0	733
女 子	6.7	92.3	1.0	100.0	298
修 士 課 程	2.1	96.0	1.9	100.0	529
博 士 課 程	6.2	93.6	0.2	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	2.2	93.5	4.3	100.0	46
専門職学位課程	—	92.3	7.7	100.0	52
文 科 系	5.4	93.0	1.7	100.0	299
理 科 系	2.9	95.5	1.6	100.0	732

2-9表 外国の大学との交換留学希望

区 分	条件によっては 留学したい %	留学したいとは 思わない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(78.3)	(21.2)	(0.5)	(100.0)	(1,038)
全 体	77.9	21.9	0.2	100.0	1,031
男 子	75.3	24.4	0.3	100.0	733
女 子	84.2	15.8	—	100.0	298
修 士 課 程	76.4	23.4	0.2	100.0	529
博 士 課 程	81.2	18.8	—	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	82.6	17.4	—	100.0	46
専門職学位課程	63.5	34.6	1.9	100.0	52
文 科 系	78.3	21.4	0.3	100.0	299
理 科 系	77.7	22.1	0.1	100.0	732

2-10表 留学希望地域

(2つまで選択)

区 分	アジア	中近東	アフリカ	北米	中南米	西 ヨーロッパ	旧ソ連 ・東欧	オセアニア	その他	無回答	合 計	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全 体	12.6	1.4	1.5	79.6	1.2	78.3	3.5	5.6	0.6	—	100.0	803
男 子	12.3	1.1	0.9	81.0	0.7	80.4	3.6	4.5	0.7	—	100.0	552
女 子	13.1	2.0	2.8	76.5	2.4	73.7	3.2	8.0	0.4	—	100.0	251
修 士 課 程	12.6	1.0	1.2	79.7	1.2	79.0	4.5	5.7	0.7	—	100.0	404
博 士 課 程	13.7	1.8	1.5	76.5	1.5	77.1	3.0	5.8	0.6	—	100.0	328
獣医学又は医学を 履修する博士課程	—	—	5.3	92.1	—	89.5	—	2.6	—	—	100.0	38
専門職学位課程	15.2	3.0	—	93.9	—	69.7	—	6.1	—	—	100.0	33
文 科 系	20.5	3.0	1.3	67.9	1.7	74.4	5.1	4.7	—	—	100.0	234
理 科 系	9.3	0.7	1.6	84.4	1.1	80.0	2.8	6.0	0.9	—	100.0	569

1999年調査(49回)													
全	第1位	4.0	—	—	59.3	—	33.1	—	1.0	0.5	0.7	100.0	405
体	第2位	5.9	—	1.2	26.2	3.0	55.3	—	2.5	0.2	5.7	100.0	405

◎設問21で「1」と答えた方のみ。前回調査では主たる地域を重視した順に第1位と第2位を調査した。

2-11表 大学院在学中の海外留学希望

区 分	留学したい	どちらかといえば 留学したい	どちらとも いえない	どちらかといえば 留学したくない	留学したくない	無回答	合 計	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	人
1999年(49回)	(40.0)	(25.0)	(19.1)	(8.4)	(7.3)	(0.3)	(100.0)	(1,038)
全 体	35.5	25.2	19.3	10.5	8.8	0.7	100.0	1,031
男 子	32.9	24.3	20.5	11.2	10.6	0.5	100.0	733
女 子	41.9	27.5	16.4	8.7	4.4	1.0	100.0	298
修 士 課 程	31.9	26.3	22.1	9.8	9.5	0.4	100.0	529
博 士 課 程	40.6	25.2	15.8	10.6	6.9	0.7	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	45.7	23.9	13.0	2.2	15.2	—	100.0	46
専門職学位課程	23.1	15.4	23.1	23.1	11.5	3.8	100.0	52
文 科 系	44.5	18.4	16.4	11.0	8.0	1.7	100.0	299
理 科 系	31.8	28.0	20.5	10.2	9.2	0.3	100.0	732
人文社会系研究科	51.9	16.0	12.3	11.1	8.6	—	100.0	81
教育学研究科	46.2	30.8	19.2	3.8	—	—	100.0	26
法学政治学研究科	22.2	14.8	14.8	27.8	14.8	5.6	100.0	54
経済学研究科	32.1	25.0	25.0	3.6	10.7	3.6	100.0	28
総合文化研究科	52.7	17.3	17.3	6.4	5.5	0.9	100.0	110
理学系研究科	32.4	26.2	20.7	13.8	6.9	—	100.0	145
工学系研究科	27.6	27.6	23.2	12.2	8.8	0.6	100.0	181
農学生命科学研究科	42.1	31.6	13.7	9.5	3.2	—	100.0	95
医学系研究科	38.5	25.0	16.7	6.3	13.5	—	100.0	96
薬学系研究科	34.3	22.9	22.9	5.7	14.3	—	100.0	35
数理科学研究科	25.0	12.5	37.5	—	25.0	—	100.0	8
新領域創成科学研究科	26.5	34.5	22.1	6.2	9.7	0.9	100.0	113
情報理工学系研究科	20.6	32.4	14.7	14.7	17.6	—	100.0	34
学際情報学府	30.8	23.1	15.4	30.8	—	—	100.0	13
公共政策学教育部	33.3	8.3	50.0	—	8.3	—	100.0	12

3-1表 これまでの研究結果

区 分	満足 ←—————→ 不満					無回答	合 計	事例数	平均値
	5	4	3	2	1				
	%	%	%	%	%				
1999年(49回)	(2.5)	(13.3)	(30.6)	(28.5)	(23.9)	(1.2)	(100.0)	(1,038)	
全 体	4.5	19.7	35.3	28.6	11.2	0.8	100.0	1,031	2.8
男 子	5.0	20.6	34.7	27.4	11.7	0.5	100.0	733	2.8
女 子	3.0	17.4	36.9	31.5	9.7	1.3	100.0	298	2.7
修 士 課 程	4.9	17.6	34.6	29.3	13.2	0.4	100.0	529	2.7
博 士 課 程	4.5	23.3	34.9	29.0	7.7	0.7	100.0	404	2.9
獣医学又は医学を 履修する博士課程	4.3	15.2	30.4	30.4	19.6	—	100.0	46	2.5
専門職学位課程	—	17.3	50.0	17.3	9.6	5.8	100.0	52	2.8
文 科 系	4.0	18.1	38.1	27.8	9.7	2.3	100.0	299	2.8
理 科 系	4.6	20.4	34.2	29.0	11.7	0.1	100.0	732	2.8

3-2表 これまでの研究成果についての不満

(3つまで選択)

区分	思うように研究成果が上げられない	今やっている研究の意義がつかめない	研究テーマがはっきりしていない	研究の見通しが、たたない	自分の能力や適性に不安がある	研究時間を十分に取れない	自分の研究に指導を受けられない教員が少ない	教員の指導が十分である	指導教員と意見が合わない	論文発表の機会が少ない	関連講義が十分でない	研究設備が不備である	図書設備が不備である	研究上の経費が不足している	研究室の雑用で自分の研究ができない	その他	無回答	合計
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1999年(49回)	(-)	(27.9)	(22.8)	(52.2)	(-)	(16.9)	(11.8)	(16.9)	(8.1)	(10.1)	(9.2)	(8.1)	(8.8)	(11.2)	(3.9)	(17.6)	(14.9)	(100.0)
全体	54.4	17.3	18.5	33.4	42.2	18.3	13.2	15.9	5.1	5.6	6.6	6.1	2.9	7.6	3.4	4.1	0.2	100.0
男子	57.5	18.8	19.2	33.1	37.6	19.5	10.8	11.8	4.9	7.0	5.6	6.3	2.4	6.6	3.8	9.1	0.3	100.0
女子	47.2	13.8	17.1	34.1	52.8	15.4	18.7	25.2	5.7	2.4	8.9	5.7	4.1	9.8	2.4	6.5	-	100.0
修士課程	49.3	21.3	24.0	39.6	42.2	14.2	9.8	17.3	4.9	4.4	8.4	6.2	2.2	9.3	3.6	7.1	0.4	100.0
博士課程	64.9	10.8	10.8	27.0	43.2	20.3	17.6	15.5	5.4	7.4	3.4	6.8	4.1	4.7	3.4	10.1	-	100.0
獣医学又は医学を履修する博士課程	56.5	13.0	4.3	30.4	39.1	30.4	21.7	8.7	8.7	4.3	-	4.3	-	4.3	4.3	13.0	-	100.0
専門職学位課程	21.4	28.6	35.7	7.1	35.7	42.9	7.1	7.1	-	7.1	21.4	-	7.1	14.3	-	-	-	100.0
文科系	50.0	21.4	28.6	26.8	45.5	20.5	14.3	15.2	0.9	4.5	10.7	8.0	6.3	11.6	3.6	2.7	1.8	100.0
理科系	56.0	15.8	14.8	35.9	40.9	17.4	12.8	16.1	6.7	6.0	5.0	5.4	1.7	6.0	3.4	10.4	0.3	100.0
人文社会系研究科	52.6	18.4	26.3	36.8	52.6	23.7	15.8	7.9	-	2.6	7.9	2.6	5.3	18.4	5.3	-	2.6	100.0
教育学研究科	20.0	30.0	40.0	30.0	20.0	30.0	-	20.0	-	10.0	10.0	30.0	10.0	30.0	10.0	10.0	-	100.0
法学政治学研究科	54.5	27.3	9.1	18.2	63.6	27.3	-	-	-	-	9.1	-	9.1	9.1	-	-	9.1	100.0
経済学研究科	69.2	15.4	15.4	15.4	46.2	7.7	15.4	15.4	7.7	7.7	15.4	15.4	-	7.7	-	-	-	100.0
総合文化研究科	47.5	22.5	37.5	22.5	40.0	17.5	20.0	25.0	-	5.0	12.5	7.5	7.5	2.5	2.5	5.0	-	100.0
理学系研究科	52.5	16.9	10.2	37.3	49.2	18.6	15.3	8.5	5.1	6.8	3.4	3.4	1.7	1.7	1.7	8.5	-	100.0
工学系研究科	53.8	11.3	22.5	33.8	47.5	17.5	10.0	11.3	3.8	3.8	3.8	6.3	-	7.5	6.3	12.5	1.3	100.0
農学生命科学研究科	65.0	20.0	10.0	52.5	40.0	5.0	15.0	30.0	12.5	2.5	-	2.5	-	7.5	2.5	10.0	2.5	100.0
医学系研究科	52.8	11.1	8.3	27.8	27.8	25.0	16.7	25.0	5.6	2.8	2.8	5.6	2.8	11.1	2.8	11.1	13.9	100.0
薬学系研究科	81.8	9.1	9.1	27.3	27.3	-	18.2	27.3	9.1	36.4	-	-	-	-	-	27.3	9.1	100.0
数理学系研究科	66.7	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	33.3	-	33.3	-	-	-	-	100.0
新領域創成科学研究科	58.5	19.5	2.4	34.1	41.5	9.8	14.6	17.1	9.8	7.3	9.8	14.6	2.4	7.3	4.9	9.8	2.4	100.0
情報理工学系研究科	64.3	35.7	21.4	50.0	35.7	21.4	-	7.1	14.3	-	-	-	-	-	-	7.1	-	100.0
学際情報学府	50.0	-	37.5	25.0	25.0	62.5	-	12.5	-	12.5	25.0	-	12.5	-	-	-	-	100.0
公共政策学教育部	-	33.3	66.7	-	16.7	66.7	16.7	16.7	-	16.7	33.3	-	-	16.7	-	-	-	100.0

◎設問24で「2」または「1」と答えた方のみ

3-3表 大学院入学以来の研究実績「学術的な著書数」

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	6回 %	7回 %	8回 %	9回 %	15回 %	20回以上 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
全体	75.9	7.8	3.3	1.4	0.8	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	9.7	100.0	1,031	0.3
男子	76.3	8.2	2.9	1.0	1.0	0.4	0.3	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	9.3	100.0	733	0.4
女子	75.2	6.7	4.4	2.3	0.3	-	0.3	-	-	-	-	-	10.7	100.0	298	0.3
修士課程	81.5	4.9	1.7	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	11.5	100.0	529	0.1
博士課程	71.0	10.9	5.9	3.2	1.2	0.5	0.7	0.2	0.5	0.2	0.2	0.2	5.0	100.0	404	0.6
獣医学又は医学を履修する博士課程	63.0	21.7	2.2	2.2	2.2	2.2	-	-	-	-	-	-	6.5	100.0	46	0.6
専門職学位課程	69.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30.8	100.0	52	0.0
文科系	74.6	6.4	3.0	1.7	-	-	0.3	-	0.3	0.3	-	-	13.4	100.0	299	0.3
理科系	76.5	8.3	3.4	1.2	1.1	0.4	0.3	0.1	0.1	-	0.1	0.1	8.2	100.0	732	0.4

3-4表 大学院入学以来の研究実績「査読つき学術論文数」

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	6回 %	7回 %	8回 %	9回 %	10回以上 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(56.3)	(19.8)	(9.1)	(6.3)	(1.5)	(0.8)	(1.1)	(0.6)	(0.2)	(0.4)	(0.8)	(3.3)	(100.0)	(1,038)	
全体	56.7	15.4	6.3	3.4	1.5	1.1	0.8	0.6	0.4	-	0.4	13.5	100.0	1,031	0.8
男子	56.2	15.4	6.8	3.4	1.4	1.2	1.0	0.8	0.5	-	0.5	12.7	100.0	733	0.8
女子	58.1	15.4	5.0	3.4	1.7	0.7	0.3	-	-	-	-	15.4	100.0	298	0.6
修士課程	71.8	9.8	2.3	0.8	-	-	-	-	-	-	0.2	15.1	100.0	529	0.2
博士課程	33.9	24.5	13.1	7.7	3.5	2.5	2.0	1.5	1.0	-	0.7	9.7	100.0	404	1.5
獣医学又は医学を履修する博士課程	69.6	17.4	-	-	2.2	2.2	-	-	-	-	-	8.7	100.0	46	0.4
専門職学位課程	69.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30.8	100.0	52	0.0
文科系	58.9	13.7	4.0	3.0	1.3	-	-	1.0	-	-	0.3	17.7	100.0	299	0.6
理科系	55.9	16.1	7.2	3.6	1.5	1.5	1.1	0.4	0.5	-	0.4	11.7	100.0	732	0.8

1999年(49回)調査は「学術論文数」として調査した。

3-5表 大学院入学以来の研究実績「査読なし学術論文数」

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	6回 %	7回 %	8回 %	9回 %	12回 %	13回以上 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(56.3)	(19.8)	(9.1)	(6.3)	(1.5)	(0.8)	(1.1)	(0.6)	(0.2)	(0.4)	(0.5)	(0.3)	(3.3)	(100.0)	(1,038)	
全体	66.9	9.0	3.5	1.8	1.2	0.5	0.2	0.3	0.5	0.1	0.3	0.2	15.5	100.0	1,031	0.5
男子	67.3	8.6	3.8	2.3	1.1	0.3	-	0.4	0.7	0.1	0.3	0.3	14.9	100.0	733	0.6
女子	66.1	10.1	2.7	0.7	1.3	1.0	0.7	-	-	-	0.3	-	17.1	100.0	298	0.4
修士課程	75.0	5.1	2.6	0.6	0.6	-	-	-	-	-	-	-	16.1	100.0	529	0.2
博士課程	55.4	14.6	5.4	3.7	2.2	1.2	0.5	0.7	1.2	0.2	0.7	0.5	13.4	100.0	404	1.1
獣医学又は医学を履修する博士課程	71.7	15.2	-	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	10.9	100.0	46	0.2
専門職学位課程	69.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30.8	100.0	52	0.0
文科系	65.2	9.0	2.0	1.3	1.3	0.3	0.3	0.3	-	-	0.3	-	19.7	100.0	299	0.4
理科系	67.6	9.0	4.1	2.0	1.1	0.5	0.1	0.3	0.7	0.1	0.3	0.3	13.8	100.0	732	0.6

1999年(49回)調査は「学術論文数」として調査した。

3-6表 大学院入学以来の研究実績「その他の研究成果」

区分	なし %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	6回 %	7回 %	8回 %	9回 %	10回 %	11回 %	20回 %	無回答 %	合計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(69.5)	(11.7)	(4.1)	(2.9)	(1.0)	(1.3)	(0.5)	(0.1)	(0.5)	(-)	(0.2)	(0.2)	(0.1)	(8.1)	(100.0)	(1,038)	
全体	68.4	6.0	4.7	2.0	0.3	0.4	0.2	0.4	-	-	0.2	-	-	17.5	100.0	1,031	0.4
男子	70.0	5.5	4.1	1.8	0.4	0.5	0.3	0.5	-	-	0.1	-	-	16.8	100.0	733	0.4
女子	64.4	7.4	6.0	2.7	-	-	-	-	-	-	0.3	-	-	19.1	100.0	298	0.4
修士課程	75.6	2.8	3.2	0.9	-	-	-	0.2	-	-	0.2	-	-	17.0	100.0	529	0.2
博士課程	58.7	10.6	7.2	3.7	0.5	1.0	0.5	0.7	-	-	0.2	-	-	16.8	100.0	404	0.6
獣医学又は医学を履修する博士課程	69.6	8.7	4.3	2.2	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	13.0	100.0	46	0.4
専門職学位課程	69.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30.8	100.0	52	0.0
文科系	61.9	6.7	6.4	3.0	-	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-	21.4	100.0	299	0.4
理科系	71.0	5.7	4.0	1.6	0.4	0.4	0.1	0.5	-	-	0.3	-	-	15.8	100.0	732	0.4

3-7表 研究室での日常生活の満足感

区 分	満足 ←————→ 不満					無回答 %	合 計 %	事例数 人	平均値
	5	4	3	2	1				
	%	%	%	%	%				
1999年(49回)	(20.9)	(21.4)	(18.3)	(20.9)	(17.4)	(1.1)	(100.0)	(1,038)	
全 体	21.1	26.8	19.6	19.0	12.3	1.2	100.0	1,031	3.3
男 子	22.6	27.7	20.1	16.6	12.1	0.8	100.0	733	3.3
女 子	17.4	24.5	18.5	24.8	12.8	2.0	100.0	298	3.1
修 士 課 程	21.4	29.5	20.0	17.0	11.9	0.2	100.0	529	3.3
博 士 課 程	23.5	25.5	17.8	20.0	12.4	0.7	100.0	404	3.3
獣医学又は医学を履修する博士課程	19.6	26.1	23.9	13.0	17.4	—	100.0	46	3.2
専門職学位課程	1.9	9.6	25.0	36.5	11.5	15.4	100.0	52	2.5
文 科 系	8.4	15.7	24.1	27.8	21.4	2.7	100.0	299	2.6
理 科 系	26.4	31.3	17.8	15.4	8.6	0.5	100.0	732	3.5
人文社会系研究科	8.6	12.3	28.4	29.6	21.0	—	100.0	81	2.6
教育学研究科	11.5	15.4	23.1	19.2	30.8	—	100.0	26	2.6
法学政治学研究科	1.9	14.8	25.9	33.3	11.1	13.0	100.0	54	2.6
経済学研究科	17.9	25.0	25.0	21.4	7.1	3.6	100.0	28	3.3
総合文化研究科	8.2	16.4	20.0	27.3	28.2	—	100.0	110	2.5
理学系研究科	33.1	33.8	15.2	13.8	4.1	—	100.0	145	3.8
工学系研究科	28.7	33.1	16.0	14.9	6.1	1.1	100.0	181	3.6
農学生命科学研究科	20.0	30.5	18.9	22.1	8.4	—	100.0	95	3.3
医学系研究科	15.6	27.1	29.2	14.6	13.5	—	100.0	96	3.2
薬学系研究科	22.9	31.4	8.6	20.0	17.1	—	100.0	35	3.2
数理科学研究科	37.5	37.5	12.5	—	12.5	—	100.0	8	3.9
新領域創成科学研究科	29.2	27.4	17.7	15.9	9.7	—	100.0	113	3.5
情報理工学系研究科	35.3	47.1	5.9	5.9	5.9	—	100.0	34	4.0
学際情報学府	15.4	30.8	30.8	—	23.1	—	100.0	13	3.2
公共政策学教育部	8.3	—	25.0	33.3	16.7	16.7	100.0	12	2.4

研究設備・スペースについて

区 分	満足 ←————→ 不満					無回答 %	合 計 %	事例数 人	平均値	
	5	4	3	2	1					
	%	%	%	%	%					
研究上の経費について	全 体	29.1	20.5	22.2	15.2	11.2	1.8	100.0	1,031	3.4
	男 子	31.5	22.1	21.7	13.6	9.5	1.5	100.0	733	3.5
	女 子	23.2	16.4	23.5	19.1	15.1	2.7	100.0	298	3.1
	修 士 課 程	30.1	21.9	22.3	15.3	9.6	0.8	100.0	529	3.5
	博 士 課 程	30.9	20.3	19.6	15.6	12.9	0.7	100.0	404	3.4
	獣医学又は医学を履修する博士課程	34.8	28.3	13.0	13.0	10.9	—	100.0	46	3.6
	専門職学位課程	—	—	50.0	13.5	13.5	23.1	100.0	52	2.5
	文 科 系	6.7	11.4	30.8	23.7	22.4	5.0	100.0	299	2.5
	理 科 系	38.3	24.2	18.7	11.7	6.6	0.5	100.0	732	3.8
	人文社会系研究科	4.9	9.9	27.2	30.9	25.9	1.2	100.0	81	2.4
	教育学研究科	3.8	15.4	23.1	34.6	23.1	—	100.0	26	2.4
	法学政治学研究科	—	—	44.4	18.5	14.8	22.2	100.0	54	2.4
	経済学研究科	3.6	17.9	28.6	28.6	17.9	3.6	100.0	28	2.6
	総合文化研究科	12.7	15.5	29.1	17.3	24.5	0.9	100.0	110	2.7
	理学系研究科	46.2	27.6	15.2	9.0	2.1	—	100.0	145	4.1
	工学系研究科	42.0	22.7	17.1	13.3	3.9	1.1	100.0	181	3.9
	農学生命科学研究科	32.6	26.3	20.0	11.6	9.5	—	100.0	95	3.6
	医学系研究科	21.9	20.8	27.1	18.8	11.5	—	100.0	96	3.2
	薬学系研究科	45.7	25.7	17.1	5.7	5.7	—	100.0	35	4.0
	数理科学研究科	25.0	25.0	25.0	25.0	—	—	100.0	8	3.5
	新領域創成科学研究科	44.2	20.4	12.4	12.4	—	—	100.0	113	3.8
	情報理工学系研究科	44.1	41.2	11.8	—	2.9	—	100.0	34	4.2
	学際情報学府	15.4	23.1	46.2	7.7	7.7	—	100.0	13	3.3
公共政策学教育部	—	—	58.3	8.3	16.7	16.7	100.0	12	2.5	

区 分	満足 ←————→ 不満					無回答 %	合 計 %	事例数 人	平均値
	5	4	3	2	1				
	%	%	%	%	%				
1999年(49回)	(19.7)	(28.9)	(28.9)	(14.9)	(6.4)	(1.3)	(100.0)	(1,038)	
全 体	20.1	31.7	27.6	13.1	6.3	1.2	100.0	1,031	3.5
男 子	21.6	34.0	26.5	11.9	5.3	0.8	100.0	733	3.6
女 子	16.4	26.2	30.5	16.1	8.7	2.0	100.0	298	3.3
修 士 課 程	23.4	31.2	25.5	14.4	5.3	0.2	100.0	529	3.5
博 士 課 程	17.8	31.7	30.0	12.1	7.7	0.7	100.0	404	3.4
獣医学又は医学を履修する博士課程	17.4	37.0	21.7	15.2	8.7	—	100.0	46	3.4
専門職学位課程	5.8	32.7	36.5	5.8	3.8	15.4	100.0	52	3.4
文 科 系	13.0	31.4	35.5	11.7	5.7	2.7	100.0	299	3.4
理 科 系	23.0	31.8	24.5	13.7	6.6	0.5	100.0	732	3.5
人間関係について	18.5	37.0	35.8	6.2	2.5	—	100.0	81	3.6
人文社会系研究科	7.7	42.3	34.6	7.7	7.7	—	100.0	26	3.3
教育学研究科	5.6	29.6	35.2	9.3	7.4	13.0	100.0	54	3.2
法学政治学研究科	14.3	21.4	42.9	14.3	3.6	3.6	100.0	28	3.3
経済学研究科	13.6	28.2	33.6	17.3	7.3	—	100.0	110	3.2
総合文化研究科	22.8	33.1	20.7	14.5	9.0	—	100.0	145	3.5
理学系研究科	25.4	35.9	23.2	9.4	5.0	1.1	100.0	181	3.7
工学系研究科	17.9	27.4	26.3	17.9	10.5	—	100.0	95	3.2
農学生命科学研究科	18.8	30.2	27.1	16.7	7.3	—	100.0	96	3.4
医学系研究科	8.6	28.6	40.0	14.3	8.6	—	100.0	35	3.1
薬学系研究科	25.0	12.5	37.5	12.5	12.5	—	100.0	8	3.3
数理科学研究科	25.7	27.4	26.5	15.9	4.4	—	100.0	113	3.5
新領域創成科学研究科	44.1	38.2	8.8	8.8	—	—	100.0	34	4.2
情報理工学系研究科	23.1	30.8	30.8	15.4	—	—	100.0	13	3.6
学際情報学府	16.7	50.0	16.7	—	—	16.7	100.0	12	4.0
公共政策学教育部									

区 分	満足 ←————→ 不満					無回答 %	合 計 %	事例数 人	平均値
	5	4	3	2	1				
	%	%	%	%	%				
1999年(49回)	(20.9)	(27.9)	(28.1)	(13.3)	(8.7)	(1.1)	(100.0)	(1,038)	
全 体	21.0	28.6	25.0	14.9	9.0	1.4	100.0	1,031	3.4
男 子	20.7	29.1	26.9	14.1	8.2	1.1	100.0	733	3.4
女 子	21.8	27.5	20.5	17.1	11.1	2.0	100.0	298	3.3
修 士 課 程	21.7	28.0	25.7	14.2	10.2	0.2	100.0	529	3.4
博 士 課 程	23.3	29.0	23.5	15.1	8.4	0.7	100.0	404	3.4
獣医学又は医学を 履修する博士課程	17.4	30.4	19.6	23.9	8.7	—	100.0	46	3.2
専 門 職 学 位 課 程	—	30.8	34.6	13.5	1.9	19.2	100.0	52	3.2
文 科 系	22.7	31.8	23.1	12.0	7.0	3.3	100.0	299	3.5
理 科 系	20.4	27.3	25.8	16.1	9.8	0.5	100.0	732	3.3
人文社会系研究科	28.4	29.6	27.2	12.3	2.5	—	100.0	81	3.7
教育学研究科	19.2	38.5	23.1	15.4	3.8	—	100.0	26	3.5
法学政治学研究科	16.7	31.5	25.9	9.3	—	16.7	100.0	54	3.7
経済学研究科	35.7	21.4	25.0	7.1	7.1	3.6	100.0	28	3.7
総合文化研究科	19.1	34.5	18.2	13.6	14.5	—	100.0	110	3.3
理学系研究科	24.1	30.3	25.5	10.3	9.7	—	100.0	145	3.5
工学系研究科	20.4	30.9	25.4	14.9	7.2	1.1	100.0	181	3.4
農学生命科学研究科	10.5	24.2	22.1	31.6	11.6	—	100.0	95	2.9
医学系研究科	16.7	29.2	22.9	20.8	10.4	—	100.0	96	3.2
薬学系研究科	8.6	17.1	34.3	20.0	20.0	—	100.0	35	2.7
数理科学研究科	50.0	12.5	25.0	12.5	—	—	100.0	8	4.0
新領域創成科学研究科	27.4	24.8	27.4	9.7	10.6	—	100.0	113	3.5
情報理工学系研究科	29.4	29.4	29.4	—	11.8	—	100.0	34	3.6
学際情報学府	23.1	23.1	23.1	30.8	—	—	100.0	13	3.4
公共政策学教育部	—	8.3	41.7	25.0	8.3	16.7	100.0	12	2.6

指導教員の研究指導方法について

区 分	満足 ←————→ 不満					無回答 %	合 計 %	事例数 人	平均値
	5	4	3	2	1				
	%	%	%	%	%				
1999年(49回)	(22.1)	(27.2)	(31.0)	(11.6)	(7.1)	(1.1)	(100.0)	(1,038)	
全 体	21.0	26.8	30.1	13.6	7.5	1.2	100.0	1,031	3.4
男 子	21.3	27.7	31.5	12.8	5.9	0.8	100.0	733	3.5
女 子	20.1	24.5	26.5	15.4	11.4	2.0	100.0	298	3.3
修 士 課 程	22.5	26.8	31.8	11.7	7.0	0.2	100.0	529	3.5
博 士 課 程	21.8	29.5	26.5	14.4	7.2	0.7	100.0	404	3.4
獣医学又は医学を履修する博士課程	13.0	15.2	43.5	17.4	10.9	—	100.0	46	3.0
専 門 職 学 位 課 程	5.8	15.4	28.8	23.1	11.5	15.4	100.0	52	2.8
文 科 系	18.1	28.4	26.4	15.1	9.4	2.7	100.0	299	3.3
理 科 系	22.1	26.1	31.6	13.0	6.7	0.5	100.0	732	3.4
所属研究科の事務の対応について									
人文社会系研究科	35.8	29.6	22.2	6.2	6.2	—	100.0	81	3.8
教育学研究科	7.7	26.9	26.9	26.9	11.5	—	100.0	26	2.9
法学政治学研究科	3.7	16.7	27.8	24.1	14.8	13.0	100.0	54	2.7
経済学研究科	17.9	32.1	32.1	7.1	7.1	3.6	100.0	28	3.5
総合文化研究科	14.5	32.7	27.3	16.4	9.1	—	100.0	110	3.3
理学系研究科	21.4	27.6	26.9	16.6	7.6	—	100.0	145	3.4
工学系研究科	29.3	26.0	29.8	9.4	4.4	1.1	100.0	181	3.7
農学生命科学研究科	16.8	28.4	33.7	10.5	10.5	—	100.0	95	3.3
医学系研究科	13.5	19.8	38.5	17.7	10.4	—	100.0	96	3.1
薬学系研究科	28.6	28.6	28.6	11.4	2.9	—	100.0	35	3.7
数理科学研究科	37.5	12.5	50.0	—	—	—	100.0	8	3.9
新領域創成科学研究科	17.7	23.9	38.1	14.2	6.2	—	100.0	113	3.3
情報理工学系研究科	35.3	32.4	14.7	14.7	2.9	—	100.0	34	3.8
学際情報学府	7.7	46.2	30.8	15.4	—	—	100.0	13	3.5
公共政策学教育部	25.0	25.0	25.0	—	8.3	16.7	100.0	12	3.7

3-8-1表 過去1年間に自分自身が負担した研究費

区 分	研究に必要な 書籍類の購入費		研究に必要なコピー代、 その他文房具の購入費		調査、実験等の費用		学会費、学会旅費、参加費、 学会に関する諸費用		その他		合計		
	平均額	事例数	平均額	事例数	平均額	事例数	平均額	事例数	平均額	事例数	平均額	事例数	
	千円	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円	人	
1999年(49回)	(75.9)	(1,038)	(26.6)	(1,038)	(44.8)	(1,038)	(46.1)	(1,038)	(14.8)	(1,038)	(208.3)	(1,038)	
全 体	64.7	1,031	19.8	1,031	35.6	1,031	42.7	1,031	22.5	1,031	169.1	1,031	
男 子	62.7	733	18.5	733	24.1	733	39.7	733	22.2	733	153.0	733	
女 子	69.8	298	23.1	298	65.3	298	50.4	298	23.4	298	208.7	298	
修 士 課 程	50.8	529	14.5	529	31.7	529	26.0	529	14.0	529	125.9	529	
博 士 課 程	77.9	404	25.1	404	47.6	404	60.7	404	22.1	404	217.6	404	
獣医学又は医学を 履修する博士課程	64.4	46	16.6	46	11.4	46	114.1	46	137.3	46	268.7	46	
専 門 職 学 位 課 程	106.0	52	36.3	52	2.1	52	0.3	52	20.0	52	144.7	52	
文 科 系	122.7	299	38.6	299	50.6	299	40.6	299	32.5	299	254.1	299	
理 科 系	41.5	732	12.3	732	29.9	732	43.6	732	18.8	732	134.4	732	
文 科 系	修 士 課 程	107.1	138	32.1	138	52.2	138	30.1	138	27.7	138	221.9	138
	博 士 課 程	139.5	121	44.8	121	64.3	121	64.0	121	40.5	121	319.3	121
	獣医学又は医学を 履修する博士課程	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	専 門 職 学 位 課 程	125.7	40	43.0	40	2.4	40	0.3	40	24.1	40	167.4	40
理 科 系	修 士 課 程	31.2	391	8.3	391	24.9	391	24.7	391	10.1	391	92.0	391
	博 士 課 程	51.9	283	16.9	283	41.0	283	59.4	283	14.5	283	174.1	283
	獣医学又は医学を 履修する博士課程	64.4	46	16.6	46	11.4	46	114.1	46	137.3	46	268.7	46
	専 門 職 学 位 課 程	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
人文社会系研究科	148.2	81	43.5	81	67.3	81	39.4	81	13.6	81	286.5	81	
教育学研究科	131.9	26	46.0	26	66.7	26	80.2	26	85.0	26	355.0	26	
法学政治学研究科	146.7	54	54.2	54	24.0	54	12.4	54	18.3	54	228.7	54	
経済学研究科	89.5	28	29.8	28	27.9	28	46.3	28	93.3	28	238.5	28	
総合文化研究科	99.0	110	27.9	110	53.3	110	43.3	110	26.5	110	222.7	110	
理学系研究科	37.8	145	8.3	145	16.0	145	49.3	145	10.3	145	115.5	145	
工学系研究科	29.2	181	10.0	181	16.1	181	30.0	181	9.6	181	89.1	181	
農学生命科学研究科	40.1	95	10.0	95	35.0	95	34.7	95	32.1	95	133.0	95	
医学系研究科	70.7	96	30.6	96	66.6	96	105.3	96	77.4	96	297.7	96	
薬学系研究科	40.4	35	6.7	35	1.7	35	22.3	35	0.0	35	71.1	35	
数理科学研究科	39.4	8	12.8	8	0.6	8	25.0	8	0.0	8	77.8	8	
新領域創成科学研究科	44.3	113	10.4	113	52.4	113	31.6	113	6.6	113	138.9	113	
情報理工学系研究科	19.1	34	7.6	34	27.1	34	33.5	34	13.1	34	87.3	34	
学際情報学府	90.0	13	14.5	13	17.7	13	19.2	13	0.0	13	130.5	13	
公共政策学教育部	47.1	12	16.1	12	1.3	12	0.5	12	7.1	12	69.0	12	

3-8-2表 過去1年間に自分自身が負担した研究費総額の分布

区分	5万円未満	5万円 ～ 10万円	10万円 ～ 15万円	15万円 ～ 20万円	20万円 ～ 25万円	25万円 ～ 30万円	30万円 ～ 35万円	35万円 ～ 40万円	40万円 ～ 45万円	45万円 ～ 50万円	50万円 以上	無回答	合計	事例数	平均値
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%				
1999年(49回)	(29.7)	(19.7)	(10.8)	(8.6)	(5.3)	(4.4)	(2.9)	(3.7)	(2.2)	(2.0)	(10.7)	—	(100.0)	(1,038)	
全体	36.7	18.7	12.2	6.0	5.1	3.5	3.8	2.6	1.5	1.7	8.1	—	100.0	1,031	169.1
男子	39.8	19.1	12.8	5.5	4.2	3.5	3.1	2.3	1.2	1.4	7.0	—	100.0	733	153.0
女子	28.9	17.8	10.7	7.4	7.4	3.4	5.4	3.4	2.0	2.7	11.1	—	100.0	298	208.7
修士課程	47.3	19.3	10.6	4.2	4.7	2.5	2.6	2.1	0.8	0.8	5.3	—	100.0	529	125.9
博士課程	27.5	16.8	11.9	8.2	4.5	4.7	5.0	3.7	2.5	3.0	12.4	—	100.0	404	217.6
獣医学又は医学を履修する博士課程	23.9	13.0	17.4	8.7	8.7	8.7	4.3	2.2	—	2.2	10.9	—	100.0	46	268.7
専門職学位課程	11.5	32.7	26.9	5.8	11.5	—	5.8	—	1.9	1.9	1.9	—	100.0	52	144.7
文系	15.1	13.4	17.7	10.0	7.7	6.7	4.7	5.4	2.7	1.7	15.1	—	100.0	299	254.1
理系	45.5	20.9	10.0	4.4	4.1	2.2	3.4	1.5	1.0	1.8	5.3	—	100.0	732	134.4
人文社会科学系	11.1	11.1	17.3	17.3	4.9	8.6	3.7	3.7	2.5	1.2	18.5	—	100.0	81	286.5
教育学研究科	3.8	11.5	—	7.7	19.2	11.5	3.8	11.5	3.8	—	26.9	—	100.0	26	355.0
法学政治学研究科	9.3	18.5	29.6	5.6	11.1	1.9	7.4	1.9	3.7	3.7	7.4	—	100.0	54	228.7
経済学研究科	21.4	10.7	14.3	7.1	7.1	10.7	3.6	7.1	—	3.6	14.3	—	100.0	28	238.5
総合文化研究科	21.8	13.6	17.3	8.2	5.5	5.5	4.5	6.4	2.7	0.9	13.6	—	100.0	110	222.7
理学系研究科	44.1	23.4	11.0	4.1	3.4	0.7	4.8	2.1	1.4	2.1	2.8	—	100.0	145	115.5
工学系研究科	59.1	17.1	7.2	4.4	3.3	2.2	2.2	0.6	—	0.6	3.3	—	100.0	181	89.1
農学生命科学研究科	40.0	24.2	10.5	2.1	5.3	3.2	4.2	3.2	—	3.2	4.2	—	100.0	95	133.0
医学系研究科	20.8	15.6	10.4	9.4	5.2	7.3	6.3	2.1	3.1	3.1	16.7	—	100.0	96	297.7
薬学系研究科	40.0	34.3	20.0	2.9	—	2.9	—	—	—	—	—	—	100.0	35	71.1
数理学系研究科	37.5	50.0	—	—	12.5	—	—	—	—	—	—	—	100.0	8	77.8
新領域創成科学研究科	52.2	15.9	8.0	5.3	4.4	—	2.7	1.8	1.8	0.9	7.1	—	100.0	113	138.9
情報理工学系研究科	67.6	11.8	8.8	—	5.9	—	—	—	—	2.9	2.9	—	100.0	34	87.3
学際情報学	23.1	30.8	23.1	—	7.7	—	7.7	—	—	7.7	—	—	100.0	13	130.5
公共政策学部	16.7	66.7	16.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	12	69.0

3-9表 大学、短大などの非常勤講師或いはT A、R Aをしているか

区 分	現在している したことがある %	過去に したことがある %	していない (したことがない) %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(16.6)	(22.5)	(60.3)	(0.6)	(100.0)	(1,038)
全 体	26.7	18.2	54.7	0.4	100.0	1,031
男 子	27.8	18.7	53.1	0.4	100.0	733
女 子	23.8	17.1	58.7	0.3	100.0	298
修 士 課 程	16.3	14.4	69.0	0.4	100.0	529
博 士 課 程	44.1	25.7	30.2	—	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	23.9	15.2	60.9	—	100.0	46
専 門 職 学 位 課 程	—	1.9	94.2	3.8	100.0	52
文 科 系	22.4	14.4	62.2	1.0	100.0	299
理 科 系	28.4	19.8	51.6	0.1	100.0	732

3-10表 研究室に専用又は共用の机の有無

区 分	専用の机がある %	共用の机がある %	どちらもない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(75.6)	(11.8)	(12.3)	(0.3)	(100.0)	(1,038)
全 体	74.0	11.5	13.9	0.6	100.0	1,031
男 子	77.6	9.5	12.4	0.4	100.0	733
女 子	65.1	16.4	17.4	1.0	100.0	298
修 士 課 程	77.1	10.8	11.9	0.2	100.0	529
博 士 課 程	77.7	12.1	9.7	0.5	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	89.1	6.5	4.3	—	100.0	46
専 門 職 学 位 課 程	—	19.2	75.0	5.8	100.0	52
文 科 系	26.1	29.1	42.8	2.0	100.0	299
理 科 系	93.6	4.4	2.0	—	100.0	732

3-11表 一週間の登校数

区 分	0回 %	1回 %	2回 %	3回 %	4回 %	5回 %	6回 %	7回 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人	平均値 回
1999年(49回)	(0.5)	(4.6)	(5.2)	(8.8)	(8.5)	(25.5)	(29.9)	(16.5)	(0.6)	(100.0)	(1,038)	
全 体	0.6	4.2	5.7	8.6	10.2	27.3	30.0	13.2	0.3	100.0	1,031	4.9
男 子	0.7	4.4	4.8	7.4	9.3	26.7	32.6	13.8	0.4	100.0	733	5.0
女 子	0.3	3.7	8.1	11.7	12.4	28.5	23.5	11.7	—	100.0	298	4.7
修 士 課 程	0.4	2.6	4.9	8.7	11.0	32.9	28.5	10.6	0.4	100.0	529	4.9
博 士 課 程	0.5	6.7	8.2	10.4	8.4	16.6	33.4	15.8	—	100.0	404	4.8
獣医学又は医学を 履修する博士課程	4.3	4.3	—	2.2	10.9	13.0	34.8	30.4	—	100.0	46	5.4
専 門 職 学 位 課 程	—	—	—	—	15.4	65.4	13.5	3.8	1.9	100.0	52	5.1
文 科 系	0.7	7.7	13.7	20.1	17.7	25.4	10.7	3.7	0.3	100.0	299	3.8
理 科 系	0.5	2.7	2.5	4.0	7.1	28.0	37.8	17.1	0.3	100.0	732	5.4

3-12表 修士論文作成予定期間

区 分	2年以内で 書けると思う %	3年で 書けると思う %	該当しない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(85.1)	(12.8)	(-)	(2.0)	(100.0)	(545)
全 体	87.1	10.4	2.3	0.2	100.0	529
男 子	87.7	9.3	2.9	-	100.0	375
女 子	85.7	13.0	0.6	0.6	100.0	154
文 科 系	72.5	21.7	5.1	0.7	100.0	138
理 科 系	92.3	6.4	1.3	-	100.0	391

◎修士課程の方のみ

3-13表 修士論文作成期間

区 分	2年以内で 書いた %	3年で書いた %	該当しない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(73.8)	(13.4)	(-)	(12.8)	(100.0)	(493)
全 体	73.6	11.1	14.4	0.9	100.0	450
男 子	75.7	10.0	13.1	1.2	100.0	321
女 子	68.2	14.0	17.8	-	100.0	129
文 科 系	65.3	23.1	11.6	-	100.0	121
理 科 系	76.6	6.7	15.5	1.2	100.0	329

◎博士課程の方のみ

3-14表 博士論文執筆予定

区 分	既に書いた %	在籍中に書く 予定 %	在籍中に書く 予定はない が、課程博士 は取りたい %	課程博士の期 間内には書か ない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(28.4)	(49.7)	(11.4)	(3.9)	(6.7)	(100.0)	(493)
全 体	5.3	79.3	12.4	2.7	0.2	100.0	450
男 子	6.2	80.7	10.3	2.5	0.3	100.0	321
女 子	3.1	76.0	17.8	3.1	—	100.0	129
文 科 系	1.7	61.2	34.7	2.5	—	100.0	121
理 科 系	6.7	86.0	4.3	2.7	0.3	100.0	329
人文社会系研究科	—	29.4	70.6	—	—	100.0	34
教育学研究科	—	78.6	14.3	7.1	—	100.0	14
法学政治学研究科	—	88.9	11.1	—	—	100.0	9
経済学研究科	—	38.5	53.8	7.7	—	100.0	13
総合文化研究科	3.9	78.4	15.7	2.0	—	100.0	51
理学系研究科	6.6	84.2	5.3	3.9	—	100.0	76
工学系研究科	3.0	93.9	—	3.0	—	100.0	66
農学生命科学研究科	4.7	81.4	9.3	4.7	—	100.0	43
医学系研究科	12.3	80.2	3.7	2.5	1.2	100.0	81
薬学系研究科	6.7	93.3	—	—	—	100.0	15
数理科学研究科	—	100.0	—	—	—	100.0	2
新領域創成科学研究科	—	94.1	5.9	—	—	100.0	34
情報理工学系研究科	22.2	77.8	—	—	—	100.0	9
学際情報学府	—	66.7	33.3	—	—	100.0	3
公共政策学教育部	—	—	—	—	—	—	—

◎博士課程の方のみ

3-15表 研究上使用する主な言語

(2つまで選択)

区 分	日本語 %	英語 %	中国語 %	独語 %	仏語 %	その他 %	無回答 %	事例数 人
1999年(49回)	(90.4)	(88.5)	(2.2)	(3.4)	(2.1)	(1.3)	(0.2)	(1,038)
全 体	93.9	82.8	1.3	1.6	2.3	1.6	0.9	1,031
男 子	94.4	83.9	0.7	1.2	1.9	1.6	0.7	733
女 子	92.6	80.2	2.7	2.3	3.4	1.7	1.3	298
修 士 課 程	95.5	82.0	1.3	1.1	2.5	1.5	—	529
博 士 課 程	94.1	86.4	1.5	2.5	2.7	2.2	—	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	87.0	97.8	—	—	—	—	—	46
専 門 職 学 位 課 程	82.7	50.0	—	—	—	—	17.3	52
未 婚	94.4	83.2	1.3	1.5	2.5	1.7	0.6	880
既 婚	91.3	80.7	1.3	2.0	1.3	1.3	2.7	150
文 科 系	91.6	59.9	4.3	5.4	7.7	5.4	3.0	299
理 科 系	94.8	92.2	—	—	0.1	0.1	—	732

3-16-1表 一日平均の研究時間

区 分	平均値	事例数
	時間	人
1999年(49回)	(8.0)	(1,028)
全 体	7.7	1,031
男 子	7.8	733
女 子	7.2	298
修 士 課 程	7.4	529
博 士 課 程	8.1	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	8.3	46
専 門 職 学 位 課 程	6.4	52
文 科 系	5.7	299
理 科 系	8.4	732

3-16-2表 一週間平均の研究時間

区 分	平均値	事例数
	時間	人
全 体	43.3	1,031
男 子	44.6	733
女 子	40.1	298
修 士 課 程	41.2	529
博 士 課 程	46.0	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	47.5	46
専 門 職 学 位 課 程	38.3	52
文 科 系	34.3	299
理 科 系	46.9	732

3-17表 大学の法人化は研究環境に影響を与えたか

区 分	良い方向に影響を与える	どちらとも言えない	悪い方向に影響を与える	わからない	無回答	合 計	事例数
	%	%	%	%	%	%	人
全 体	9.2	42.4	20.1	27.7	0.6	100.0	1,031
男 子	10.0	41.3	21.1	27.1	0.4	100.0	733
女 子	7.4	45.0	17.4	29.2	1.0	100.0	298
修 士 課 程	8.9	44.8	17.8	28.5	—	100.0	529
博 士 課 程	9.9	42.1	23.3	24.5	0.2	100.0	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	6.5	34.8	28.3	30.4	—	100.0	46
専 門 職 学 位 課 程	9.6	26.9	11.5	42.3	9.6	100.0	52
文 科 系	7.0	32.4	28.8	30.1	1.7	100.0	299
理 科 系	10.1	46.4	16.5	26.8	0.1	100.0	732
人文社会系研究科	—	28.4	34.6	37.0	—	100.0	81
教育学研究科	3.8	38.5	38.5	19.2	—	100.0	26
法学政治学研究科	3.7	31.5	16.7	38.9	9.3	100.0	54
経済学研究科	17.9	35.7	21.4	25.0	—	100.0	28
総合文化研究科	11.8	33.6	30.0	24.5	—	100.0	110
理学系研究科	12.4	41.4	13.1	32.4	0.7	100.0	145
工学系研究科	10.5	50.8	14.4	24.3	—	100.0	181
農学生命科学研究科	9.5	51.6	14.7	24.2	—	100.0	95
医学系研究科	4.2	41.7	24.0	30.2	—	100.0	96
薬学系研究科	5.7	45.7	22.9	25.7	—	100.0	35
数理科学研究科	12.5	37.5	25.0	25.0	—	100.0	8
新領域創成科学研究科	10.6	51.3	16.8	21.2	—	100.0	113
情報理工学系研究科	14.7	44.1	17.6	23.5	—	100.0	34
学際情報学府	7.7	30.8	23.1	38.5	—	100.0	13
公共政策学教育部	25.0	25.0	8.3	41.7	—	100.0	12

4-1表 修士課程修了後の進路(第1志望)

区分	修士課程と同じ研究室の博士課程へ進学したい	東京大学の他の研究室の博士課程へ進学したい	他大学の博士課程へ進学したい	修士入学したい	留学したい(博士課程進学の留学を含む)	研究職に就職したい	研究職や専門職以外で就職したい	社会人入学の方のみ		その他	無回答	合計	事例数
								現在の職場に戻りたい	現在の職場から新しい職場へ移りたい				
								%	%				
全体	40.3	3.8	0.9	0.6	3.8	23.4	23.4	0.8	0.4	2.1	0.6	100.0	529
男子	39.2	3.7	0.5	0.5	2.9	22.9	27.2	0.5	0.3	1.6	0.5	100.0	375
女子	42.9	3.9	1.9	0.6	5.8	24.7	14.3	1.3	0.6	3.2	0.6	100.0	154
文科系	63.8	3.6	-	0.7	5.8	5.8	13.0	1.4	1.4	4.3	-	100.0	138
理科系	32.0	3.8	1.3	0.5	3.1	29.7	27.1	0.5	-	1.3	0.8	100.0	391
全体(第2志望)	4.9	4.2	3.4	1.3	14.7	17.0	17.6	0.4	0.8	1.5	34.2	100.0	529

◎修士課程の方のみ

4-2表 博士課程修了後の進路(第1志望)

区分	研究生を除く			修士入学したい	留学したい	研究職に就職したい	研究職や研究職以外で就職したい	社会人入学の方のみ		その他	無回答	合計	事例数
	博士課程と同じ研究室に特別研究員などとして残りたくない	東京大学の他の研究室に特別研究員などとして残りたくない	他大学の研究室に特別研究員などとして残りたくない										
	%	%	%										
全体	15.3	7.6	10.7	0.4	13.1	26.9	3.8	3.1	0.2	3.3	1.1	100.0	450
男子	15.9	7.2	11.5	-	14.0	25.9	4.0	3.4	0.3	2.8	0.9	100.0	321
女子	14.0	8.5	8.5	1.6	10.9	29.5	3.1	2.3	-	4.7	1.6	100.0	129
文科系	18.2	9.1	9.1	-	6.6	42.1	-	-	-	3.3	1.7	100.0	121
理科系	14.3	7.0	11.2	0.6	15.5	21.3	5.2	4.3	0.3	3.3	0.9	100.0	329
全体(第2志望)	5.8	4.4	8.0	0.2	8.2	31.1	8.0	0.7	1.3	2.4	16.7	100.0	450

◎博士課程の方のみ

4-3表 就職希望職種（第1志望）

区分	大学（短大、 附置研究所を 含む）の教育 職、研究職	大学以外の 教育職	国立研究機 関（独立行政 法人を含む） の研究職	国、地方公共 団体の研究職、 技術職	国、地方公共 団体の一般職	企業の研究職、 技術職	企業の一般職	専門職（弁護 士、公認会計 士、税理士、 医師等）	その他	無回答	合計	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
1999年(49回)	(43.3)	(1.3)	(14.6)	(2.7)	(2.1)	(23.9)	(4.1)	(4.8)	(1.3)	(1.8)	(100.0)	(1,038)
全体	45.3	1.7	10.8	3.5	2.8	19.4	6.7	6.5	2.3	1.0	100.0	1,031
男子	45.7	0.8	10.1	3.7	2.9	20.6	7.2	6.5	1.8	0.7	100.0	733
女子	44.3	4.0	12.4	3.0	2.7	16.4	5.4	6.4	3.7	1.7	100.0	298
修士課程	34.6	2.5	9.5	4.7	4.2	29.5	10.4	1.9	2.1	0.8	100.0	529
博士課程	63.9	1.2	13.4	2.5	0.5	10.4	1.7	2.5	3.2	0.7	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	50.0	—	13.0	2.2	—	4.3	—	28.3	—	2.2	100.0	46
専門職学位課程	5.8	—	1.9	—	9.6	—	13.5	65.4	—	3.8	100.0	52
文科系	64.9	2.3	3.3	0.7	2.0	4.7	4.3	12.7	3.0	2.0	100.0	299
理科系	37.3	1.5	13.8	4.6	3.1	25.4	7.7	4.0	2.0	0.5	100.0	732
全体(第2志望)	5.7	4.9	26.6	7.1	2.6	13.9	8.6	5.9	2.9	21.7	100.0	1,031

4-4表 就職の見通し

区分	既に就職が 決まっている %	決まっていな いが、見通し は明るい %	何とかなると 思っている %	かなり厳しい と思っ ている %	見通しが 立たない %	あまり考 えて いない %	その他 %	無回答 %	合計 %	事例数 人
1999年(49回)	(16.8)	(5.4)	(31.9)	(19.2)	(14.5)	(9.3)	(1.5)	(1.3)	(100.0)	(1,038)
全体	18.5	5.7	32.1	22.9	12.9	5.8	1.1	1.0	100.0	1,031
男子	18.8	5.6	34.8	20.7	11.7	6.3	1.1	1.0	100.0	733
女子	17.8	6.0	25.5	28.2	15.8	4.7	1.0	1.0	100.0	298
修士課程	27.0	4.5	30.1	19.1	11.2	7.0	0.6	0.6	100.0	529
博士課程	10.4	5.9	34.2	28.2	14.4	4.7	1.5	0.7	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	8.7	15.2	32.6	13.0	23.9	2.2	-	4.3	100.0	46
専門職学位課程	3.8	7.7	36.5	28.8	9.6	5.8	3.8	3.8	100.0	52
文科系	8.4	2.7	25.8	32.8	19.7	6.7	2.0	2.0	100.0	299
理科系	22.7	7.0	34.7	18.9	10.1	5.5	0.7	0.5	100.0	732

4-5表 就職の情報

区 分	公募で探す %	所属する研究室の 関係者(教授、先輩 等)の斡旋に頼る %	自分で情報 収集に努める %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(26.9)	(17.4)	(49.5)	(3.7)	(2.5)	(100.0)	(1,038)
全 体	26.5	16.3	53.5	2.3	1.4	100.0	1,031
男 子	25.8	16.9	53.8	2.3	1.2	100.0	733
女 子	28.2	14.8	53.0	2.3	1.7	100.0	298
修 士 課 程	25.5	10.6	62.0	1.3	0.6	100.0	529
博 士 課 程	32.4	23.3	40.3	2.5	1.5	100.0	404
獣医学又は医学を履 修する博士課程	2.2	39.1	50.0	4.3	4.3	100.0	46
専 門 職 学 位 課 程	11.5	—	73.1	9.6	5.8	100.0	52
文 科 系	38.8	10.4	44.8	3.3	2.7	100.0	299
理 科 系	21.4	18.7	57.1	1.9	0.8	100.0	732

4-6表 博士課程修了後、何年位で教育職・研究職に就けますか

区 分	直ちに %	1～2年 %	3～5年 %	5～10年 %	見通しが 立たない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
全 体	12.3	19.3	23.6	4.7	26.4	13.8	100.0	535
男 子	13.1	20.3	24.3	4.8	24.3	13.1	100.0	374
女 子	10.6	16.8	21.7	4.3	31.1	15.5	100.0	161
修 士 課 程	10.0	17.1	20.4	1.3	25.4	25.8	100.0	240
博 士 課 程	14.0	22.1	26.6	7.4	26.2	3.7	100.0	271
獣医学又は医学を履 修する博士課程	17.4	8.7	21.7	8.7	34.8	8.7	100.0	23
専 門 職 学 位 課 程	—	—	—	—	100.0	—	100.0	1
文 科 系	3.9	23.2	25.2	5.2	36.8	5.8	100.0	155
理 科 系	15.8	17.6	22.9	4.5	22.1	17.1	100.0	380

◎教育職、研究職を目指している大学院生にお尋ねします。

4-7表 大学の法人化はあなたの就職にどのような影響を与えますか

区 分	良い方向に 影響を与える %	悪い方向に 影響を与える %	どちらとも 言えない %	わからない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
全 体	6.8	16.1	43.0	30.6	3.6	100.0	1,031
男 子	7.6	17.5	43.0	28.5	3.4	100.0	733
女 子	4.7	12.8	43.0	35.6	4.0	100.0	298
修 士 課 程	7.6	11.9	44.6	32.3	3.6	100.0	529
博 士 課 程	5.9	22.3	42.6	27.5	1.7	100.0	404
獣医学又は医学を履 修する博士課程	4.3	26.1	32.6	28.3	8.7	100.0	46
専 門 職 学 位 課 程	7.7	1.9	38.5	38.5	13.5	100.0	52
文 科 系	6.0	24.7	31.8	33.8	3.7	100.0	299
理 科 系	7.1	12.6	47.5	29.2	3.6	100.0	732

5-1表 通学に利用している交通機関

(複数選択)

区 分	電車	バス	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他	無回答	合 計	事例数
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全 体	70.4	9.9	4.7	4.8	42.8	10.1	0.2	0.7	100.0	1,031
男 子	67.3	8.0	3.8	5.9	46.9	10.5	0.1	0.7	100.0	733
女 子	78.2	14.4	6.7	2.0	32.6	9.1	0.3	0.7	100.0	298
本郷キャンパス	69.9	8.8	2.9	4.0	43.7	11.1	0.3	0.7	100.0	701
駒場キャンパス	88.2	5.9	1.6	4.3	30.5	9.1	—	—	100.0	187
柏キャンパス	37.3	29.3	20.0	12.0	62.7	1.3	—	—	100.0	75
そ の 他	64.2	10.4	15.0	6.0	46.3	11.9	—	1.5	100.0	67

1999年度調査 (第49回)

		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位	事例数
全 体	第 1 位	64.2	0.9	0.9	3.3	21.7	8.2	—	1.0	100.0	1,038	
	第 2 位	11.6	9.5	1.7	2.0	18.1	17.6	0.7	38.7	100.0	1,038	

5-2表 片道の通学所要時間

区 分	平均時間	事例数
	分	人
1999年(49回)	(49.5)	(1038)
全 体	45.9	1,031
男 子	43.8	733
女 子	51.2	298
本郷キャンパス	46.1	701
駒場キャンパス	47.4	187
柏キャンパス	39.3	75
そ の 他	48.4	67

5-3表 キャンパスへのアクセスに不便を感じますか

区 分	はい	いいえ	無回答	合 計	事例数
	%	%	%	%	人
全 体	21.7	76.9	1.4	100.0	1,031
男 子	20.1	79.0	1.0	100.0	733
女 子	25.8	71.8	2.3	100.0	298
本郷キャンパス	19.8	79.2	1.0	100.0	701
駒場キャンパス	14.4	83.4	2.1	100.0	187
柏キャンパス	54.7	45.3	—	100.0	75
そ の 他	25.4	71.6	3.0	100.0	67

5-4-1表 A. キャンパス内や通学路の安全性に関して不安を感じることがありますか。

区 分	はい	いいえ	無回答	合 計	事例数 人
	%	%	%	%	
全 体	21.0	78.0	1.0	100.0	1,031
男 子	15.7	83.4	1.0	100.0	733
女 子	34.2	64.8	1.0	100.0	298
本郷キャンパス	22.0	77.5	0.6	100.0	701
駒場キャンパス	11.2	86.1	2.7	100.0	187
柏キャンパス	29.3	70.7	—	100.0	75
そ の 他	29.9	68.7	1.5	100.0	67

5-4-2表 B. 生活面で不便を感じますか。
(銀行、郵便局、コンビニエンスストアなど)

区 分	不便と感じる	特に不便とは思わない	無回答	合 計	事例数 人
	%	%	%	%	
全 体	30.8	68.1	1.1	100.0	1,031
男 子	29.9	69.0	1.1	100.0	733
女 子	33.2	65.8	1.0	100.0	298
本郷キャンパス	26.7	72.6	0.7	100.0	701
駒場キャンパス	33.2	64.2	2.7	100.0	187
柏キャンパス	58.7	41.3	—	100.0	75
そ の 他	37.3	61.2	1.5	100.0	67

5-4-3表 C. リラックスできる環境に関して要望はありますか。
(公園、喫茶店など)

区 分	ある	ない	無回答	合 計	事例数 人
	%	%	%	%	
全 体	26.7	71.8	1.6	100.0	1,031
男 子	22.9	75.7	1.4	100.0	733
女 子	35.9	62.1	2.0	100.0	298
本郷キャンパス	24.1	74.6	1.3	100.0	701
駒場キャンパス	30.5	66.3	3.2	100.0	187
柏キャンパス	38.7	61.3	—	100.0	75
そ の 他	29.9	68.7	1.5	100.0	67

5-4-4表 D. 日常生活に不便を感じますか。

区 分	不便と感じる %	特に不便とは思わない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
全 体	5.2	30.6	64.2	100.0	1,031
男 子	6.1	33.8	60.0	100.0	733
女 子	3.0	22.5	74.5	100.0	298
本郷キャンパス	4.0	30.1	65.9	100.0	701
駒場キャンパス	3.7	24.6	71.7	100.0	187
柏キャンパス	21.3	41.3	37.3	100.0	75
そ の 他	4.5	38.8	56.7	100.0	67

◎キャンパス周辺に下宿している方に伺います。

5-5表 一般的な施設等の中で、もっと整備が必要だと思う事はどれですか

区 分		よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	合 計	事例数	平均値
		4	3	2	1				
		%	%	%	%				
大学キャンパス内の清掃	全 体	27.9	58.0	8.9	3.6	1.6	100.0	1,031	3.1
	男 子	29.7	57.6	8.6	2.7	1.4	100.0	733	3.2
	女 子	23.5	59.1	9.7	5.7	2.0	100.0	298	3.0
	本郷キャンパス	26.8	60.3	8.6	3.0	1.3	100.0	701	3.1
	駒場キャンパス	22.5	56.1	12.3	7.5	1.6	100.0	187	3.0
	柏キャンパス	53.3	38.7	6.7	—	1.3	100.0	75	3.5
	そ の 他	25.4	61.2	6.0	3.0	4.5	100.0	67	3.1
	2003年(第53回)学部学生	(19.7)	(51.4)	(20.5)	(7.7)	(0.7)	(100.0)	(1,501)	(2.8)

区 分		よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	合 計	事例数	平均値
		4	3	2	1				
		%	%	%	%				
大学キャンパス内の樹木等の整備	全 体	36.4	52.8	7.0	2.2	1.6	100.0	1,031	3.3
	男 子	38.2	51.4	7.0	1.9	1.5	100.0	733	3.3
	女 子	31.9	56.0	7.0	3.0	2.0	100.0	298	3.2
	本郷キャンパス	35.5	54.4	7.6	1.1	1.4	100.0	701	3.3
	駒場キャンパス	36.4	52.4	5.9	3.7	1.6	100.0	187	3.2
	柏キャンパス	49.3	33.3	5.3	10.7	1.3	100.0	75	3.2
	そ の 他	29.9	59.7	6.0	—	4.5	100.0	67	3.3
	2003年(第53回)学部学生	(31.1)	(58.4)	(7.4)	(2.4)	(0.7)	(100.0)	(1,501)	(3.2)

区 分		よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	合 計	事例数	平均値
		4	3	2	1				
		%	%	%	%				
大学の建物内の清掃	全 体	24.6	51.1	15.3	7.1	1.8	100.0	1,031	3.0
	男 子	27.6	50.1	15.4	5.3	1.6	100.0	733	3.0
	女 子	17.4	53.7	15.1	11.4	2.3	100.0	298	2.8
	本郷キャンパス	22.7	51.6	17.0	7.1	1.6	100.0	701	2.9
	駒場キャンパス	21.4	50.3	16.0	10.7	1.6	100.0	187	2.8
	柏キャンパス	53.3	40.0	4.0	1.3	1.3	100.0	75	3.5
	そ の 他	20.9	61.2	9.0	3.0	6.0	100.0	67	3.1
	2003年(第53回)学部学生	(13.6)	(44.4)	(28.9)	(12.4)	(0.7)	(100.0)	(1,501)	(2.6)

区 分		よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	合 計	事例数	平均値
		4	3	2	1				
		%	%	%	%				
大学構内で不要となった 廃棄物	全 体	14.0	44.1	28.3	11.9	1.6	100.0	1,031	2.6
	男 子	16.2	43.7	27.7	10.9	1.5	100.0	733	2.7
	女 子	8.4	45.3	29.9	14.4	2.0	100.0	298	2.5
	本郷キャンパス	11.1	41.5	32.2	13.8	1.3	100.0	701	2.5
	駒場キャンパス	16.6	48.7	23.0	9.6	2.1	100.0	187	2.7
	柏キャンパス	37.3	50.7	8.0	2.7	1.3	100.0	75	3.2
	そ の 他	10.4	52.2	23.9	9.0	4.5	100.0	67	2.7
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(13.6)	(35.3)	(41.6)	(8.5)	(1.1)	(100.0)	(1,501)	(2.5)

区 分		よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	合 計	事例数	平均値
		4	3	2	1				
		%	%	%	%				
トイレの清掃	全 体	26.4	49.7	15.8	6.7	1.5	100.0	1,031	3.0
	男 子	27.7	49.8	15.6	5.6	1.4	100.0	733	3.0
	女 子	23.2	49.3	16.4	9.4	1.7	100.0	298	2.9
	本郷キャンパス	23.5	51.8	16.3	7.1	1.3	100.0	701	2.9
	駒場キャンパス	24.1	44.9	21.4	8.6	1.1	100.0	187	2.9
	柏キャンパス	58.7	34.7	5.3	—	1.3	100.0	75	3.5
	そ の 他	25.4	58.2	7.5	4.5	4.5	100.0	67	3.1
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(12.4)	(25.8)	(46.2)	(15.0)	(0.6)	(100.0)	(1,501)	(2.6)

区 分		よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	合 計	事例数	平均値
		4	3	2	1				
		%	%	%	%				
トイレの数	全 体	27.0	50.6	13.6	7.5	1.4	100.0	1,031	3.0
	男 子	30.2	51.7	11.6	5.2	1.4	100.0	733	3.1
	女 子	19.1	48.0	18.5	13.1	1.3	100.0	298	2.7
	本郷キャンパス	24.7	53.9	14.0	6.3	1.1	100.0	701	3.0
	駒場キャンパス	24.1	44.4	16.6	13.9	1.1	100.0	187	2.8
	柏キャンパス	57.3	29.3	6.7	5.3	1.3	100.0	75	3.4
	そ の 他	23.9	58.2	9.0	4.5	4.5	100.0	67	3.1
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(13.6)	(23.8)	(47.0)	(14.9)	(0.8)	(100.0)	(1,501)	(2.6)

5-6表 本学の課外活動施設、福利厚生施設等のうち、
あなたは右の諸施設の現状をどう思いますか。

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
研究科内の学生控室・ 談話室・ラウンジ	全 体	10.7	22.3	14.8	13.9	18.9	17.2	2.2	100.0	1,031
	男 子	12.6	22.9	14.9	13.1	17.7	16.6	2.2	100.0	733
	女 子	6.0	20.8	14.8	15.8	21.8	18.5	2.3	100.0	298
	本郷キャンパス	9.7	21.4	15.3	14.0	20.5	17.5	1.6	100.0	701
	駒場キャンパス	9.6	27.8	15.5	15.0	19.3	10.7	2.1	100.0	187
	柏キャンパス	22.7	22.7	9.3	10.7	13.3	17.3	4.0	100.0	75
	そ の 他	10.4	16.4	14.9	13.4	7.5	31.3	6.0	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(9.6)	(20.0)	(24.9)	(10.7)	(10.9)	(22.5)	(1.5)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
学生会館、課外活動共用施設、 キャンパスプラザ(駒場)	全 体	4.2	11.3	21.9	7.2	4.4	47.8	3.3	100.0	1,031
	男 子	5.0	12.4	21.8	7.1	4.8	45.7	3.1	100.0	733
	女 子	2.0	8.4	22.1	7.4	3.4	53.0	3.7	100.0	298
	本郷キャンパス	4.1	10.8	23.0	7.6	4.9	46.8	2.9	100.0	701
	駒場キャンパス	3.2	15.0	18.2	7.0	4.8	49.2	2.7	100.0	187
	柏キャンパス	4.0	10.7	25.3	1.3	2.7	50.7	5.3	100.0	75
	そ の 他	7.5	6.0	17.9	10.4	—	52.2	6.0	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(6.5)	(18.9)	(30.2)	(15.3)	(13.5)	(14.2)	(1.4)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
学生相談所	全 体	3.5	5.3	16.1	2.0	1.5	68.8	2.8	100.0	1,031
	男 子	3.7	4.9	17.1	2.2	1.4	68.2	2.6	100.0	733
	女 子	3.0	6.4	13.8	1.7	1.7	70.1	3.4	100.0	298
	本郷キャンパス	3.7	4.7	16.8	2.3	1.1	69.2	2.1	100.0	701
	駒場キャンパス	2.7	8.0	15.5	2.1	2.1	66.8	2.7	100.0	187
	柏キャンパス	4.0	5.3	13.3	—	1.3	70.7	5.3	100.0	75
	そ の 他	3.0	4.5	13.4	1.5	3.0	68.7	6.0	100.0	67

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
屋内体育施設 (駒場)	全 体	4.7	10.5	18.6	4.1	2.1	56.2	3.9	100.0	1,031
	男 子	5.3	10.0	21.1	4.4	2.6	53.2	3.4	100.0	733
	女 子	3.0	11.7	12.4	3.4	1.0	63.4	5.0	100.0	298
	本郷キャンパス	5.4	10.8	19.5	4.0	1.6	54.9	3.7	100.0	701
	駒場キャンパス	2.1	7.0	18.2	6.4	5.3	58.3	2.7	100.0	187
	柏キャンパス	4.0	14.7	14.7	—	1.3	58.7	6.7	100.0	75
	そ の 他	4.5	11.9	14.9	3.0	—	61.2	4.5	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(10.3)	(26.6)	(30.8)	(5.9)	(3.4)	(21.3)	(1.7)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
屋外体育施設(野球場、テニ スコート等を含む) (駒場)	全 体	5.9	11.7	15.1	3.2	1.7	58.5	3.8	100.0	1,031
	男 子	6.4	13.0	17.2	3.5	2.2	54.3	3.4	100.0	733
	女 子	4.7	8.7	10.1	2.3	0.7	68.8	4.7	100.0	298
	本郷キャンパス	6.4	11.4	15.4	3.3	1.0	58.9	3.6	100.0	701
	駒場キャンパス	4.8	11.8	16.6	3.7	4.8	55.6	2.7	100.0	187
	柏キャンパス	4.0	14.7	10.7	2.7	1.3	60.0	6.7	100.0	75
	そ の 他	6.0	11.9	13.4	1.5	1.5	61.2	4.5	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(9.1)	(23.8)	(27.6)	(5.1)	(3.3)	(29.4)	(1.7)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
屋内体育施設(御殿下記念館、 二食ホール) (本郷)	全 体	18.7	25.7	11.8	2.7	1.2	37.2	2.6	100.0	1,031
	男 子	20.2	25.9	12.7	1.8	1.2	35.6	2.6	100.0	733
	女 子	15.1	25.2	9.7	5.0	1.0	41.3	2.7	100.0	298
	本郷キャンパス	22.1	31.2	11.8	3.3	1.4	28.4	1.7	100.0	701
	駒場キャンパス	9.1	13.9	11.2	2.1	0.5	59.9	3.2	100.0	187
	柏キャンパス	14.7	16.0	12.0	—	1.3	49.3	6.7	100.0	75
	そ の 他	14.9	11.9	13.4	1.5	—	53.7	4.5	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(17.8)	(18.2)	(14.2)	(3.3)	(0.8)	(43.2)	(2.5)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
ド、野球場、 屋外体育施設 (御殿下グラウンド、農学部グラ ド、野球場、テニスコート等を含む) (本郷)	全 体	10.5	14.8	13.6	5.6	2.2	50.3	2.9	100.0	1,031
	男 子	11.6	15.8	15.0	6.0	2.6	46.0	3.0	100.0	733
	女 子	7.7	12.4	10.1	4.7	1.3	61.1	2.7	100.0	298
	本郷キャンパス	12.7	16.8	14.4	7.3	2.4	44.4	2.0	100.0	701
	駒場キャンパス	3.2	9.6	12.8	2.7	2.7	65.2	3.7	100.0	187
	柏キャンパス	10.7	12.0	9.3	—	1.3	60.0	6.7	100.0	75
	そ の 他	7.5	11.9	11.9	3.0	—	61.2	4.5	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(8.6)	(12.8)	(18.9)	(3.3)	(1.9)	(51.8)	(2.8)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
二 食内ホール、サークル 部室等 (本郷)	全 体	3.4	7.1	14.7	3.8	2.4	66.0	2.6	100.0	1,031
	男 子	3.3	7.8	16.0	2.9	2.7	64.8	2.6	100.0	733
	女 子	3.7	5.4	11.7	6.0	1.7	68.8	2.7	100.0	298
	本郷キャンパス	3.7	6.7	15.3	3.9	2.6	66.2	1.7	100.0	701
	駒場キャンパス	1.1	5.9	15.5	3.2	1.6	69.5	3.2	100.0	187
	柏キャンパス	4.0	13.3	8.0	2.7	4.0	61.3	6.7	100.0	75
	そ の 他	6.0	7.5	14.9	6.0	1.5	59.7	4.5	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(4.5)	(8.9)	(21.2)	(3.5)	(2.1)	(56.8)	(3.1)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
検見川総合運動場、検見川 セミナーハウス	全 体	5.7	11.6	12.1	2.0	1.0	64.1	3.4	100.0	1,031
	男 子	6.5	13.4	12.8	2.0	1.1	61.0	3.1	100.0	733
	女 子	3.7	7.4	10.4	2.0	0.7	71.8	4.0	100.0	298
	本郷キャンパス	6.3	11.6	11.6	2.1	0.9	64.8	2.9	100.0	701
	駒場キャンパス	3.7	10.2	13.9	2.7	1.1	64.7	3.7	100.0	187
	柏キャンパス	5.3	20.0	14.7	1.3	2.7	50.7	5.3	100.0	75
	そ の 他	6.0	7.5	10.4	—	—	71.6	4.5	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(12.7)	(12.7)	(14.9)	(3.6)	(1.4)	(51.8)	(2.9)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
スポーツ 下賀茂、谷川、乗鞍 （戸田、山中、	全 体	2.5	4.0	10.5	0.8	1.0	77.4	3.9	100.0	1,031
	男 子	2.9	4.5	11.2	0.5	1.0	76.3	3.7	100.0	733
	女 子	1.7	2.7	8.7	1.3	1.0	80.2	4.4	100.0	298
	本郷キャンパス	2.7	4.0	10.0	1.1	1.1	77.7	3.3	100.0	701
	駒場キャンパス	2.1	3.7	12.8	—	0.5	75.9	4.8	100.0	187
	柏キャンパス	2.7	4.0	9.3	—	1.3	77.3	5.3	100.0	75
	そ の 他	1.5	4.5	10.4	—	—	79.1	4.5	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(4.3)	(4.3)	(15.7)	(1.5)	(1.1)	(69.6)	(3.4)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
学内食堂	全 体	8.1	27.4	18.4	23.1	16.5	3.4	3.1	100.0	1,031
	男 子	8.2	28.9	19.0	21.0	16.9	3.0	3.0	100.0	733
	女 子	8.1	23.5	17.1	28.2	15.4	4.4	3.4	100.0	298
	本郷キャンパス	9.6	29.2	20.7	22.4	13.6	2.4	2.1	100.0	701
	駒場キャンパス	4.3	21.4	14.4	24.0	24.1	7.0	4.8	100.0	187
	柏キャンパス	4.0	16.0	16.0	21.0	34.7	2.7	5.3	100.0	75
	そ の 他	9.0	37.3	9.0	30.0	6.0	4.5	4.5	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(8.3)	(31.1)	(18.9)	(21.2)	(17.9)	(1.3)	(1.3)	(100.0)	(1,501)

区 分		満足 している	まあ満足 している	どちらとも 言えない	やや不満 である	不満である	利用した ことがない	無回答	合 計	事例数
		1	2	3	4	5	6			
		%	%	%	%	%	%			
学寮（豊島、井の頭、白金、 三鷹国際学生宿舎）	全 体	1.6	2.2	7.4	0.5	1.6	81.7	4.9	100.0	1,031
	男 子	2.0	2.6	8.5	0.4	1.5	80.8	4.2	100.0	733
	女 子	0.7	1.3	4.7	0.7	2.0	83.9	6.7	100.0	298
	本郷キャンパス	1.7	2.3	7.3	0.4	1.4	82.6	4.3	100.0	701
	駒場キャンパス	1.6	2.7	8.6	1.1	2.1	78.1	5.9	100.0	187
	柏キャンパス	2.7	—	4.0	—	1.3	85.3	6.7	100.0	75
	そ の 他	—	3.0	9.0	—	3.0	79.1	6.0	100.0	67
	2003年(第53回) 学 部 学 生	(2.7)	(3.9)	(14.1)	(1.8)	(2.3)	(71.2)	(3.9)	(100.0)	(1,501)

5-7表 諸施設等の中で、施設・設備の充実・整備が早急に必要と思うものは何ですか。

(3つまで選択)

区分	研究科内の 学生控 室等	学生会館 等(駒場)	学生 相談所	屋内体 育施設 (駒場)	屋外体 育施設 (駒場)	屋内体 育施設 (本郷)	屋外体 育施設 (本郷)	二食内 ホール 等(本郷)	検見川 総合運 動場等	スポー ステイ ア	学内食 堂	学寮	寛げる スパー ス	託児所	その他	無回答	合計	事例数 人
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
全 体	39.2	6.1	5.8	2.8	1.7	3.1	3.2	3.6	0.9	2.1	43.5	12.0	43.4	11.7	5.7	14.3	100.0	1,031
男 子	37.4	6.7	5.2	3.4	1.9	3.5	3.8	3.7	1.2	2.5	45.6	12.4	41.3	6.8	6.1	14.7	100.0	733
女 子	43.6	4.7	7.4	1.3	1.3	2.0	1.7	3.4	-	1.3	38.6	11.1	48.3	23.8	4.7	13.1	100.0	298
修 士 課 程	40.3	8.7	5.9	3.4	3.2	3.8	3.4	3.2	0.8	2.1	45.6	11.3	42.7	7.4	6.4	12.9	100.0	529
博 士 課 程	37.1	4.0	6.2	2.5	0.2	3.0	2.0	3.5	0.5	2.7	42.8	14.1	42.8	15.6	4.2	16.1	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	32.6	-	4.3	-	-	-	6.5	4.3	4.3	-	21.7	8.7	32.6	23.9	15.2	21.7	100.0	46
専門職学位課程	50.0	1.9	3.8	1.9	-	-	7.7	7.7	1.9	-	48.1	5.8	63.5	15.4	1.9	7.7	100.0	52
本郷キャンパス	42.8	5.8	5.6	0.9	0.4	4.1	4.3	4.6	0.9	2.0	40.9	10.4	45.9	14.7	5.3	13.7	100.0	701
駒場キャンパス	38.0	9.1	5.9	12.3	7.0	0.5	-	0.5	1.1	1.1	44.4	16.0	43.3	3.7	3.7	12.8	100.0	187
柏キャンパス	25.3	2.7	8.0	-	1.3	-	2.7	1.3	1.3	4.0	70.7	16.0	29.3	5.3	9.3	14.7	100.0	75
そ の 他	20.9	4.5	6.0	-	1.5	3.0	1.5	4.5	-	4.5	38.8	13.4	32.8	10.4	11.9	22.4	100.0	67
2003年(第53回) 学 部 学 生	(25.7)	(34.1)	-	(8.6)	(6.7)	(2.0)	(5.0)	(5.9)	(2.2)	(2.3)	(43.2)	(13.5)	(44.6)	-	(6.0)	(11.3)	(100.0)	(1,501)

6-1表 現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
社会的貢献を促進するために、 授業の外部開放を進める	全 体	8.5	15.1	34.3	30.5	10.0	1.6	100.0	1,031	2.8
	男 子	8.7	16.1	31.9	29.9	11.9	1.5	100.0	733	2.8
	女 子	8.1	12.8	40.3	31.9	5.4	1.7	100.0	298	2.9
	修士課程	8.9	16.3	33.3	30.2	9.8	1.5	100.0	529	2.8
	博士課程	8.4	14.6	36.4	29.2	10.1	1.2	100.0	404	2.8
	獣医学又は医学を履修する博士課程	13.0	15.2	30.4	26.1	10.9	4.3	100.0	46	2.9
	専門職学位課程	1.9	7.7	32.7	46.2	9.6	1.9	100.0	52	2.5
2003年(第53回)学部学生	(9.9)	(16.1)	(33.0)	(32.7)	(7.1)	(1.1)	(100.0)	(1,501)	(2.9)	

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
社会的貢献を促進するために、 産学協同をより推進する	全 体	21.8	27.5	33.9	11.3	4.0	1.5	100.0	1,031	3.5
	男 子	23.5	28.6	30.7	11.2	4.6	1.4	100.0	733	3.6
	女 子	17.8	24.8	41.9	11.4	2.3	1.7	100.0	298	3.5
	修士課程	23.4	28.2	32.3	11.5	3.0	1.5	100.0	529	3.6
	博士課程	19.6	27.2	36.1	9.9	5.7	1.5	100.0	404	3.5
	獣医学又は医学を履修する博士課程	26.1	23.9	30.4	13.0	4.3	2.2	100.0	46	3.6
	専門職学位課程	19.2	26.9	36.5	17.3	—	—	100.0	52	3.5
2003年(第53回)学部学生	(17.0)	(29.9)	(32.8)	(15.1)	(3.6)	(1.6)	(100.0)	(1,501)	(3.4)	

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
社会的貢献を促進するために、 直接的に社会的要請の高い研究を推進する	全 体	12.2	17.4	32.2	25.2	11.5	1.5	100.0	1,031	2.9
	男 子	12.0	16.6	31.2	25.6	13.1	1.4	100.0	733	2.9
	女 子	12.8	19.1	34.6	24.2	7.7	1.7	100.0	298	3.1
	修士課程	14.4	16.6	33.1	24.4	10.0	1.5	100.0	529	3.0
	博士課程	9.2	15.8	31.7	28.0	13.9	1.5	100.0	404	2.8
	獣医学又は医学を履修する博士課程	17.4	28.3	26.1	17.4	8.7	2.2	100.0	46	3.3
	専門職学位課程	9.6	26.9	32.7	19.2	11.5	—	100.0	52	3.0
2003年(第53回)学部学生	(10.2)	(19.8)	(33.2)	(26.7)	(8.7)	(1.4)	(100.0)	(1,501)	(3.0)	

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
(むしろ) 社会的貢献を促進するために、基礎研究を充実させる	全 体	32.4	27.1	32.3	6.1	0.6	1.6	100.0	1,031	3.9
	男 子	34.4	26.7	30.3	6.1	0.8	1.6	100.0	733	3.9
	女 子	27.5	27.9	37.2	6.0	—	1.3	100.0	298	3.8
	修士課程	28.7	25.9	35.0	7.9	0.8	1.7	100.0	529	3.8
	博士課程	37.1	28.2	29.0	4.0	0.2	1.5	100.0	404	4.0
	獣医学又は医学を履修する博士課程	45.7	21.7	26.1	4.3	—	2.2	100.0	46	4.1
	専門職学位課程	21.2	34.6	36.5	5.8	1.9	—	100.0	52	3.7
2003年(第53回)学部学生	(18.3)	(25.5)	(44.2)	(9.3)	(1.4)	(1.2)	(100.0)	(1,501)	(3.5)	

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
研究者の国際化をより積極的に進める	全 体	41.8	32.4	20.4	3.4	0.8	1.3	100.0	1,031	4.1
	男 子	43.8	30.4	19.5	3.8	1.1	1.4	100.0	733	4.1
	女 子	36.9	37.2	22.5	2.3	—	1.0	100.0	298	4.1
	修士課程	41.8	31.2	20.8	4.2	0.6	1.5	100.0	529	4.1
	博士課程	44.6	32.9	18.6	2.2	0.7	1.0	100.0	404	4.2
	獣医学又は医学を履修する博士課程	37.0	28.3	28.3	4.3	—	2.2	100.0	46	4.0
	専門職学位課程	25.0	44.2	23.1	3.8	3.8	—	100.0	52	3.8
2003年(第53回)学部学生	(37.5)	(36.2)	(21.7)	(2.5)	(0.9)	(1.2)	(100.0)	(1,501)	(4.1)	

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
国際共同研究をより推奨するため、	全 体	32.4	29.8	29.1	6.1	1.2	1.5	100.0	1,031	3.9
	男 子	32.6	28.1	29.2	7.0	1.5	1.6	100.0	733	3.8
	女 子	31.9	33.9	28.9	4.0	0.3	1.0	100.0	298	3.9
	修士課程	32.3	29.1	27.8	7.9	1.5	1.3	100.0	529	3.8
	博士課程	34.9	29.7	28.5	4.2	1.0	1.7	100.0	404	3.9
	獣医学又は医学を履修する博士課程	30.4	30.4	30.4	6.5	—	2.2	100.0	46	3.9
	専門職学位課程	15.4	36.5	46.2	1.9	—	—	100.0	52	3.7
2003年(第53回)学部学生	(30.9)	(35.2)	(26.7)	(4.9)	(0.9)	(1.3)	(100.0)	(1,501)	(3.9)	

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
から 教育の国際化を推進するため、日本か ら外国へ留学する機会をもっと拡大する	全 体	37.1	27.9	26.3	6.1	1.4	1.3	100.0	1,031	3.9
	男 子	37.8	26.5	25.6	6.8	1.8	1.5	100.0	733	3.9
	女 子	35.2	31.5	27.9	4.4	0.3	0.7	100.0	298	4.0
	修 士 課 程	36.5	28.5	25.7	7.2	0.8	1.3	100.0	529	3.9
	博 士 課 程	37.6	27.7	26.5	4.5	2.5	1.2	100.0	404	3.9
	獣医学又は医学を履修する博士課程	39.1	23.9	19.6	15.2	—	2.2	100.0	46	3.9
	専門職学位課程	36.5	26.9	36.5	—	—	—	100.0	52	4.0
2003年(第53回)学部学生	(40.6)	(30.0)	(21.6)	(5.9)	(0.8)	(1.1)	(100.0)	(1,501)	(4.0)	

区 分		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	合 計	事例数	平均値
		5	4	3	2	1				
		%	%	%	%	%				
から 教育の国際化を推進するため、外国 からの留学生をより一層受け入れる	全 体	24.5	23.6	35.8	11.0	3.7	1.5	100.0	1,031	3.6
	男 子	26.7	22.0	33.8	11.2	4.6	1.6	100.0	733	3.6
	女 子	19.1	27.5	40.6	10.4	1.3	1.0	100.0	298	3.5
	修 士 課 程	24.4	24.8	34.8	11.7	3.0	1.3	100.0	529	3.6
	博 士 課 程	25.0	21.5	36.9	10.1	4.7	1.7	100.0	404	3.5
	獣医学又は医学を履修する博士課程	28.3	19.6	32.6	13.0	4.3	2.2	100.0	46	3.6
	専門職学位課程	19.2	30.8	40.4	7.7	1.9	—	100.0	52	3.6
2003年(第53回)学部学生	(25.6)	(30.2)	(29.8)	(11.0)	(2.3)	(1.1)	(100.0)	(1,501)	(3.7)	

6-2表 大学への要望や期待

(3つまで選択)

区分	改革	カリキュラムの	教室の充実	実験 充実	実験室や 実習室	の充実	教育スタッフ	施設 の充実	学生生活 関連	の改善	進学 振分け	制度	の	小人数 教育	工夫 改善	の方法	授業	試験を 緩やか	試験を 厳しく	単位 認定や 学年	拡大・ 移転・ 総合	キャンパス	の	図書 館	の	充実	サービス の	充実	カウ ンセ リン グ	の	適切 な	学生 自治 に	対 する	学生 自治 の	尊重	貸付 金な どの	充実 や	増額	奨学 基金 等	の	充実	就職 対 策	の	充 実	交 流 へ の	支 援	ポ ス ト ク ラ ド 問 題 へ の	対 応	の	ハ ラ ス メ ン ト へ	の	対 応	そ 他	無 回 答	合 計	事 例 数
全	17.1	8.5	14.3	26.0	10.6	5.7	8.1	17.6	3.2	6.8	3.1	22.1	4.2	0.5	1.6	38.0	22.1	18.2	38.5	4.8	4.3	1.6	100.0	1,031																																
男	17.1	7.9	16.1	24.7	10.8	5.9	8.6	17.3	3.5	7.4	3.4	21.6	3.8	0.7	1.9	38.6	21.0	17.1	37.8	3.8	4.0	2.0	100.0	733																																
女	17.1	10.1	9.7	29.2	10.1	5.4	7.0	18.1	2.3	5.4	2.3	23.5	5.0	-	1.0	36.6	24.8	21.1	40.3	7.0	5.0	0.7	100.0	298																																
修士課程	21.4	7.6	14.2	22.9	12.3	7.2	7.4	21.0	3.8	8.3	2.8	22.1	4.0	0.8	1.3	36.1	25.5	15.7	30.6	4.3	4.9	1.7	100.0	529																																
博士課程	11.9	7.9	13.4	29.7	6.9	4.7	7.7	12.1	1.2	5.7	3.7	20.8	4.7	0.2	2.2	43.1	20.0	21.5	51.7	5.7	3.5	1.2	100.0	404																																
医学又は医学を履修する博士課程	8.7	6.5	26.1	43.5	8.7	4.3	2.2	4.3	4.3	6.5	4.3	15.2	4.3	-	-	30.4	8.7	23.9	47.8	6.5	6.5	2.2	100.0	46																																
専門職学位課程	21.2	25.0	11.5	13.5	23.1	-	25.0	36.5	11.5	-	-	38.5	1.9	-	1.9	25.0	15.4	13.5	7.7	-	1.9	3.8	100.0	52																																
本郷キャンパス	19.0	8.3	14.4	28.8	10.3	6.6	8.7	18.4	3.4	6.4	2.3	21.3	4.3	0.6	1.9	35.7	20.7	18.1	35.4	5.1	5.0	1.9	100.0	701																																
駒場キャンパス	13.9	10.2	12.8	22.5	11.2	4.3	5.9	15.0	2.7	7.0	4.8	27.3	4.3	-	1.6	40.1	26.7	20.3	43.9	3.7	2.7	0.5	100.0	187																																
柏キャンパス	12.0	8.0	12.0	12.0	12.0	4.0	12.0	22.7	5.3	6.7	5.3	25.3	5.3	1.3	-	44.0	21.3	12.0	37.3	4.0	1.3	4.0	100.0	75																																
その他	11.9	7.5	19.4	22.4	10.4	3.0	4.5	10.4	-	10.4	4.5	11.9	1.5	-	1.5	49.3	25.4	20.9	56.7	4.5	4.5	-	100.0	67																																
人文社会系研究科	11.1	8.6	9.9	12.3	17.3	4.9	6.2	12.3	1.2	1.2	2.5	37.0	2.5	-	1.2	49.4	19.8	29.6	42.0	6.2	9.9	-	100.0	81																																
教育学研究科	7.7	15.4	7.7	42.3	7.7	3.8	-	7.7	-	-	-	15.4	3.8	3.8	19.2	65.4	19.2	19.2	46.2	-	3.8	-	100.0	26																																
法学政治学研究科	18.5	20.4	9.3	11.1	16.7	1.9	25.9	29.6	11.1	-	-	46.3	7.4	-	-	35.2	7.4	7.4	16.7	3.7	3.7	3.7	100.0	54																																
経済学研究科	17.9	-	7.1	32.1	7.1	-	14.3	10.7	3.6	10.7	-	21.4	3.6	-	3.6	39.3	21.4	42.9	39.3	3.6	-	-	100.0	28																																
総合文化研究科	12.7	15.5	14.5	20.0	9.1	5.5	3.6	10.9	0.9	4.5	1.8	33.6	2.7	-	1.8	42.7	22.7	22.7	49.1	3.6	5.5	0.9	100.0	110																																
理学系研究科	15.9	5.5	16.6	31.0	8.3	4.1	8.3	11.0	-	7.6	2.1	11.7	4.1	0.7	0.7	40.0	24.1	12.4	53.1	6.2	3.4	2.1	100.0	145																																
工学系研究科	25.4	5.0	14.9	25.4	9.9	9.4	7.7	27.6	5.0	9.9	5.5	17.1	3.9	0.6	1.1	28.2	24.3	15.5	27.6	2.2	2.8	2.8	100.0	181																																
農学生命科学研究科	8.4	2.1	16.8	40.0	7.4	10.5	6.3	15.8	3.2	11.6	2.1	10.5	5.3	-	-	40.0	32.6	14.7	41.1	9.5	3.2	-	100.0	95																																
医学系研究科	16.7	12.5	14.6	38.5	8.3	4.2	4.2	14.6	3.1	6.3	1.0	24.0	3.1	-	-	28.1	8.3	18.8	44.8	5.2	6.3	3.1	100.0	96																																
薬学研究科	11.4	5.7	20.0	37.1	5.7	8.6	8.6	14.3	-	5.7	-	8.6	11.4	-	-	54.3	28.6	25.7	37.1	2.9	5.7	-	100.0	35																																
数理科学研究科	25.0	-	-	12.5	12.5	-	-	12.5	-	37.5	-	12.5	-	-	-	37.5	37.5	25.0	75.0	-	-	-	100.0	8																																
新領域創成科学研究科	20.4	6.2	19.5	14.2	13.3	4.4	9.7	20.4	3.5	6.2	8.0	23.0	3.5	0.9	1.8	42.5	23.9	11.5	32.7	3.5	5.3	1.8	100.0	113																																
情報理工学系研究科	17.6	5.9	8.8	23.5	11.8	5.9	17.6	26.5	8.8	8.8	5.9	14.7	5.9	2.9	2.9	32.4	20.6	23.5	23.5	14.7	-	2.9	100.0	34																																
学際情報学府	23.1	23.1	-	30.8	15.4	-	-	7.7	15.4	-	7.7	53.8	7.7	-	7.7	23.1	23.1	15.4	15.4	-	-	-	100.0	13																																
公共政策学部	41.7	33.3	8.3	16.7	25.0	-	8.3	33.3	-	-	-	25.0	-	-	8.3	-	33.3	50.0	16.7	-	-	-	100.0	12																																
2003年(第53回)学部学生	(30.8)	(19.4)	(10.9)	(20.3)	-	(23.6)	(25.2)	(41.1)	(13.8)	(5.7)	(5.5)	(21.2)	-	(3.7)	(3.7)	(19.9)	(21.1)	-	-	(4.2)	(1.9)	(100.0)	(1,501)																																	

7-1表 課程

区分	修士課程		博士課程		獣医学又は医学を履修する博士課程		専門職学位課程		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
男子	375	51.2	283	38.6	38	5.2	37	5.0	733	100.0
女子	154	51.7	121	40.6	8	2.7	15	5.0	298	100.0
合計	529	51.3	404	39.2	46	4.5	52	5.0	1,031	100.0

7-2表 学年

区分	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
男子	315	43.0	286	39.0	94	12.8	28	3.8	10	1.4	—	—	733	100.0	
女子	119	39.9	121	40.6	42	14.1	12	4.0	2	0.7	1	0.3	298	100.0	
男子	修士課程	170	45.3	190	50.7	15	4.0	—	—	—	—	—	—	375	100.0
	博士課程	101	35.7	84	29.7	68	24.0	21	7.4	9	3.2	—	—	283	100.0
	獣医学又は医学を履修する博士課程	10	26.3	9	23.7	11	28.9	7	18.4	1	2.6	—	—	38	100.0
	専門職学位課程	37	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37	100.0
女子	修士課程	68	44.2	83	53.9	3	1.9	—	—	—	—	—	—	154	100.0
	博士課程	36	29.8	36	29.8	35	28.9	12	9.9	1	0.8	—	—	121	100.0
	獣医学又は医学を履修する博士課程	—	—	2	25.0	4	50.0	—	—	1	12.5	1	12.5	8	100.0
	専門職学位課程	15	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	100.0
合計	434	42.1	407	39.5	136	13.2	40	3.9	12	1.2	1	0.1	1,031	100.0	

7-3表 年齢構成分布

区分	22歳	24歳	26歳	28歳	30歳	32歳	34歳	36歳	38歳以上	無回答	合計	事例数
	23歳	25歳	27歳	29歳	31歳	33歳	35歳	37歳				
	%	%	%	%	%	%	%	%				
1999年(第49回)	(18.1)	(33.0)	(24.4)	(10.6)	(4.2)	(2.8)	(1.3)	(1.7)	(3.8)	(0.1)	(100.0)	(1,038)
全体	19.6	36.4	20.7	8.2	5.2	3.2	1.6	1.0	3.8	0.3	100.0	1,031
男子	20.7	38.2	20.6	8.3	4.4	2.9	1.6	0.5	2.7	—	100.0	733
女子	16.8	31.9	20.8	8.1	7.4	4.0	1.7	2.0	6.4	1.0	100.0	298
文科系	16.4	31.1	20.1	10.7	7.7	4.0	2.3	0.7	6.4	0.7	100.0	299
理科系	20.9	38.5	20.9	7.2	4.2	2.9	1.4	1.1	2.7	0.1	100.0	732
修士課程	35.0	51.4	6.0	1.5	0.9	0.9	0.6	0.4	2.8	0.4	100.0	529
博士課程	0.2	22.0	40.6	16.3	8.4	4.5	2.2	1.0	4.5	0.2	100.0	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	—	2.2	23.9	17.4	23.9	17.4	6.5	2.2	6.5	—	100.0	46
専門職学位課程	30.8	25.0	11.5	5.8	7.7	3.8	3.8	5.8	5.8	—	100.0	52

7-4表 大学院入学前の出身大学等について

区 分	本学の 学部学生 %	他大学の 学部学生 %	本学の 他研究科の 大学院生 %	他大学の 大学院生 %	社会人 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(第49回)	(55.0)	(25.1)	(1.7)	(7.6)	(9.2)	(-)	(0.8)	(100.0)	(1,038)
全 体	52.5	36.5	0.9	2.1	6.4	1.0	0.7	100.0	581
男 子	58.5	31.8	1.0	1.9	5.1	1.0	0.7	100.0	412
女 子	37.9	47.9	0.6	2.4	9.5	1.2	0.6	100.0	169
未 婚	55.1	36.9	0.6	1.7	3.9	1.0	0.8	100.0	515
既 婚	31.8	33.3	3.0	4.5	25.8	1.5	-	100.0	66
文 科 系	48.3	29.8	1.1	5.6	12.4	2.2	0.6	100.0	178
理 科 系	54.3	39.5	0.7	0.5	3.7	0.5	0.7	100.0	403

◎修士課程及び専門職学位課程の方のみ。1999年（第49回）調査は全員を対象とした。

7-5表 社会人経験を経て入学

区 分	いいえ %	社会人経験はあるが、 現在は学業に専念し ている %	現在は社会人生活と 学業を両立させている %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(第49回)	(83.4)	(9.6)	(6.2)	(0.6)	(100.0)	(1,038)
全 体	88.3	8.4	2.4	0.9	100.0	581
男 子	92.2	5.3	1.7	0.7	100.0	412
女 子	78.7	16.0	4.1	1.2	100.0	169
未 婚	93.2	5.0	1.0	0.8	100.0	515
既 婚	50.0	34.8	13.6	1.5	100.0	66
文 科 系	76.4	18.5	3.9	1.1	100.0	178
理 科 系	93.5	4.0	1.7	0.7	100.0	403

◎修士課程及び専門職学位課程の方のみ。1999年（第49回）調査は全員を対象とした。

7-6表 大学院入学前の出身大学等について

区 分	本学の 大学院生 %	本学の 他研究科の 大学院生 %	他大学の 大学院生 %	社会人 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(第49回)								
全 体	68.7	4.0	12.4	11.8	2.7	0.4	100.0	450
男 子	68.5	4.4	12.1	11.8	2.8	0.3	100.0	321
女 子	69.0	3.1	13.2	11.6	2.3	0.8	100.0	129
未 婚	72.9	4.9	12.3	7.7	1.9	0.3	100.0	365
既 婚	51.2	-	13.1	28.6	6.0	1.2	100.0	84
文 科 系	76.9	2.5	14.9	5.0	0.8	-	100.0	121
理 科 系	65.7	4.6	11.6	14.3	3.3	0.6	100.0	329

◎博士課程の方のみ。1999年（第49回）調査は全員を対象とした。

7-7表 社会人経験を経て入学

区 分	いいえ %	社会人経験はあるが、 現在は学業に 専念している %	現在は社会人生活と 学業を両立させて いる %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(第49回)	(83.4)	(9.6)	(6.2)	(0.6)	(100.0)	(1,038)
全 体	74.9	14.7	9.3	1.1	100.0	450
男 子	78.8	11.2	8.4	1.6	100.0	321
女 子	65.1	23.3	11.6	—	100.0	129
未 婚	83.3	10.4	5.5	0.8	100.0	365
既 婚	39.3	33.3	25.0	2.4	100.0	84
文 科 系	81.8	14.0	3.3	0.8	100.0	121
理 科 系	72.3	14.9	11.6	1.2	100.0	329

◎博士課程の方のみ。1999年（第49回）調査は全員を対象とした。

7-8表 現在主に研究に従事している場所

区 分	所属する研究科 %	それ以外の学内の研 究科、学内の研究所 %	学外の研究機関 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(79.9)	(12.2)	(3.5)	(6.8)	(100.0)	(894)
全 体	84.2	11.2	4.5	0.2	100.0	1,031
男 子	83.6	12.7	3.5	0.1	100.0	733
女 子	85.6	7.4	6.7	0.3	100.0	298
修 士 課 程	85.6	10.0	4.2	0.2	100.0	529
博 士 課 程	81.7	13.1	5.0	0.2	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	73.9	17.4	8.7	—	100.0	46
専門職学位課程	98.1	1.9	—	—	100.0	52
文 科 系	96.7	1.0	1.7	0.7	100.0	299
理 科 系	79.1	15.3	5.6	—	100.0	732

◎博士課程の方のみ。1999年（第49回）調査は全員を対象とした。

7-9表 主に通っているキャンパス

区 分	本郷 %	駒場Ⅰ %	駒場Ⅱ %	柏 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
全 体	68.0	11.5	6.6	7.3	6.5	0.1	100.0	1,031
男 子	67.0	11.1	8.0	8.0	5.9	—	100.0	733
女 子	70.5	12.8	3.0	5.4	8.1	0.3	100.0	298
文 科 系	63.5	35.8	—	—	0.3	0.3	100.0	299
理 科 系	69.8	1.6	9.3	10.2	9.0	—	100.0	732

8-1表 実家の所在地

区分	東京都 %	関東 %	北海道 %	東北 %	中部 %	近畿 %	中国 %	四国 %	九州 %	外国 %	無回答 %	合計 %	事例数 人
1999年(49回)	(36.0)	(34.9)	(7.0)	(1.3)	(9.9)	(7.0)	(3.4)	(2.1)	(3.8)	(-)	(1.0)	(100.0)	(1038)
全体	25.6	34.4	1.8	3.7	13.4	7.6	4.9	2.3	5.7	0.4	0.1	100.0	1,031
男子	24.4	32.6	2.2	3.7	14.1	8.7	5.5	2.0	6.4	0.3	0.1	100.0	733
女子	28.5	38.9	1.0	3.7	11.7	4.7	3.7	3.0	4.0	0.7	-	100.0	298
修士課程	24.2	35.9	1.3	4.5	14.0	6.8	4.0	2.3	6.8	0.2	-	100.0	529
博士課程	25.0	32.2	2.7	3.2	14.1	8.9	6.7	3.0	3.5	0.7	-	100.0	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	32.6	37.0	-	-	10.9	-	2.2	-	15.2	-	2.2	100.0	46
専門職学位課程	38.5	34.6	1.9	1.9	3.8	11.5	3.8	-	3.8	-	-	100.0	52

8-2表 未婚者・既婚者

区分	未婚 %	既婚 %	無回答 %	合計 %	事例数 人
1999年(49回)	(84.2)	(14.8)	(1.0)	(100.0)	(1,038)
全体	85.4	14.5	0.1	100.0	1,031
男子	87.0	12.8	0.1	100.0	733
女子	81.2	18.8	-	100.0	298
修士課程	90.4	9.6	-	100.0	529
博士課程	83.2	16.8	-	100.0	404
獣医学又は医学を履修する博士課程	63.0	34.8	2.2	100.0	46
専門職学位課程	71.2	28.8	-	100.0	52

8-3表 子供の数(既婚者)

区分	0人 %	1人 %	2人 %	3人以上 %	無回答 %	合計 %	事例数 人
1999年(49回)	(61.7)	(22.7)	(10.4)	(3.2)	(1.9)	(100.0)	(101)
全体	62.7	22.0	11.3	2.7	1.3	100.0	150
男子	61.7	21.3	10.6	4.3	2.1	100.0	94
女子	64.3	23.2	12.5	-	-	100.0	56

8-4表 保育所に預けていますか

区分	いる %	いない %	無回答 %	合計 %	事例数 人
1999年(49回)	(26.8)	(71.4)	(1.8)	(100.0)	(56)
全体	35.2	63.0	1.9	100.0	54
男子	17.6	79.4	2.9	100.0	34
女子	65.0	35.0	-	100.0	20

◎既婚者で子供のいる方のみ

8-5-1表 子供の世話「主として世話をする者」

区 分	自分 %	配偶者 %	自分又は 配偶者の親 %	その他 の親族 %	知人 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(14.3)	(50.0)	(3.6)	(-)	(1.8)	(2.3)	(30.4)	(100.0)	(56)
全 体	17.6	67.6	2.9	-	-	8.8	2.9	100.0	34
男 子	-	85.2	-	-	-	11.1	3.7	100.0	27
女 子	85.7	-	14.3	-	-	-	-	100.0	7

8-5-2表 子供の世話「従として世話をする者」

区 分	自分 %	配偶者 %	自分又は 配偶者の親 %	その他 の親族 %	知人 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(25.0)	(3.6)	(7.1)	(-)	(-)	(-)	(64.3)	(100.0)	(56)
全 体	23.5	8.8	11.8	-	-	5.9	50.0	100.0	34
男 子	30	-	15	-	-	-	55.6	100.0	27
女 子	-	43	-	-	-	29	29	100.0	7

◎既婚者で子供がいて、保育所に預けていない方のみ

8-6表 家族数

区 分	1人 %	2人 %	3人 %	4人 %	5人 %	6人 %	7人 %	8人 %	9人 以上 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(19.9)	(9.5)	(19.1)	(32.5)	(13.0)	(4.3)	(1.2)	(-)	(-)	(0.5)	(100.0)	(1028)
全 体	15.3	7.5	21.7	33.4	16.3	3.8	1.4	0.2	-	0.5	100.0	1,031
未 婚	16.9	3.4	20.5	35.5	17.6	4.1	1.5	0.2	-	0.3	100.0	880
既 婚	6.0	31.3	29.3	21.3	8.7	2.0	0.7	-	-	0.7	100.0	150
未 婚	男 子	18.3	3.4	18.2	36.4	17.1	4.4	1.9	-	0.3	100.0	638
	女 子	13.2	3.3	26.4	33.1	19.0	3.3	0.4	0.8	0.4	100.0	242
既 婚	男 子	6.4	27.7	31.9	20.2	9.6	3.2	-	-	1.1	100.0	94
	女 子	5.4	37.5	25.0	23.2	7.1	-	1.8	-	-	100.0	56

8-7表 主たる家計支持者

区 分	父 %	母 %	本人 %	配偶者 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人	
1999年(49回)	(62.7)	(4.9)	(25.3)	(4.3)	(2.5)	(0.3)	(100.0)	(1,028)	
全 体	66.0	5.2	22.5	4.3	1.7	0.3	100.0	1,031	
未 婚	72.6	5.8	19.8	—	1.7	0.1	100.0	880	
既 婚	27.3	2.0	38.7	29.3	2.0	0.7	100.0	150	
未 婚	男 子	73.0	5.5	19.9	—	1.6	—	100.0	638
	女 子	71.5	6.6	19.4	—	2.1	0.4	100.0	242
	修 士 課 程	84.3	7.1	7.3	—	1.3	—	100.0	478
	博 士 課 程	58.0	4.8	35.1	—	1.8	0.3	100.0	336
	獣医学又は医学を履修する博士課程	24.1	3.4	65.5	—	6.9	—	100.0	29
専門職学位課程	91.9	—	5.4	—	2.7	—	100.0	37	
既 婚	男 子	31.9	2.1	50.0	12.8	2.1	1.1	100.0	94
	女 子	19.6	1.8	19.6	57.1	1.8	—	100.0	56
	修 士 課 程	58.8	3.9	13.7	19.6	2.0	2.0	100.0	51
	博 士 課 程	13.2	1.5	44.1	39.7	1.5	—	100.0	68
	獣医学又は医学を履修する博士課程	6.3	—	87.5	—	6.3	—	100.0	16
専門職学位課程	6.7	—	46.7	46.7	—	—	100.0	15	

8-8表 親元の職業

区分	専門的、技術的職業 %	教育的職業 %	管理的職業 %	事務 %	販売 %	農・林・漁業 %	生産工程・採掘作業 %	運輸・通信・保安・サービス %	無職 %	分類不能 %	無回答 %	合計 %	事例数 人
1999年(49回)	(17.4)	(16.1)	(38.3)	(7.5)	(4.5)	(0.7)	(5.7)	(5.5)	(2.8)	(1.1)	(0.4)	(100.0)	(1,028)
全体	22.2	10.1	17.7	5.6	4.2	0.9	2.1	8.8	2.4	2.9	23.0	100.0	1,031
未婚	21.1	10.3	18.1	5.3	4.7	0.8	2.0	9.1	1.8	2.8	23.9	100.0	880
既婚	28.7	8.7	16.0	7.3	1.3	1.3	2.7	7.3	6.0	3.3	17.3	100.0	150
男子	19.3	9.6	18.3	6.4	5.2	0.8	2.2	9.1	1.7	3.0	24.5	100.0	638
女子	26.0	12.4	17.4	2.5	3.3	0.8	1.7	9.1	2.1	2.5	22.3	100.0	242
修士課程	21.1	8.8	17.8	6.7	4.4	0.4	1.9	9.0	1.7	3.3	24.9	100.0	478
博士課程	19.3	13.7	19.6	3.3	5.4	1.5	1.8	8.3	2.1	2.4	22.6	100.0	336
獣医学又は医学を履修する博士課程	31.0	6.9	6.9	6.9	3.4	-	3.4	13.8	3.4	-	24.1	100.0	29
専門職学位課程	29.7	2.7	16.2	5.4	2.7	-	5.4	13.5	-	2.7	21.6	100.0	37
男子	25.5	9.6	18.1	6.4	2.1	1.1	2.1	5.3	7.4	4.3	18.1	100.0	94
女子	33.9	7.1	12.5	8.9	-	1.8	3.6	10.7	3.6	1.8	16.1	100.0	56
修士課程	21.6	3.9	15.7	9.8	-	-	2.0	11.8	3.9	5.9	25.5	100.0	51
博士課程	29.4	13.2	14.7	4.4	2.9	2.9	4.4	4.4	7.4	1.5	14.7	100.0	68
獣医学又は医学を履修する博士課程	43.8	12.5	12.5	-	-	-	-	12.5	12.5	-	6.3	100.0	16
専門職学位課程	33.3	-	26.7	20.0	-	-	-	-	-	6.7	13.3	100.0	15

8-9-1 表 主たる家計支持者の年収分布

区 分	250万円未満	250万円～350万円	350万円～450万円	450万円～550万円	550万円～650万円	650万円～750万円	750万円～850万円	850万円～950万円	950万円～1,050万円	1,050万円～1,150万円	1,150万円～1,250万円	1,250万円～1,350万円	1,350万円～1,450万円	1,450万円～1,550万円	1,550万円以上	合 計	事例数	平均額
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	万円
1999年(49回)	(7.6)	(4.3)	(4.2)	(7.7)	(8.6)	(4.8)	(10.3)	(4.6)	(21.5)	(2.7)	(7.7)	(3.1)	(0.9)	(4.2)	(7.7)	(100.0)	(671)	(911.3)
全 体	8.7	6.3	4.8	7.0	7.0	5.9	9.2	5.8	23.0	2.2	5.6	1.4	0.4	4.1	8.4	100.0	726	907.4
男 子	7.6	7.4	5.1	9.0	7.4	5.5	9.2	5.7	22.7	2.5	5.9	1.2	0.4	3.5	7.0	100.0	512	878.9
女 子	11.2	3.7	4.2	2.3	6.1	7.0	9.3	6.1	23.8	1.4	5.1	1.9	0.5	5.6	11.7	100.0	214	975.7
未 婚	7.3	6.8	5.5	8.9	7.3	5.2	8.9	6.4	23.4	2.3	5.7	1.1	0.5	3.6	7.3	100.0	440	894.5
既 婚	9.2	3.4	2.9	2.3	6.3	6.3	9.2	6.9	25.9	1.7	4.6	2.3	—	6.3	12.6	100.0	174	967.6
男 子	9.7	11.1	2.8	9.7	8.3	6.9	11.1	1.4	18.1	4.2	6.9	1.4	—	2.8	5.6	100.0	72	783.3
女 子	20.0	5.0	10.0	2.5	5.0	10.0	10.0	2.5	15.0	—	7.5	—	2.5	2.5	7.5	100.0	40	1010.8

8-9-2表 主たる家計支持者の年収分布（独身者）

区分	250万円未満	250万円 ～ 350万円	350万円 ～ 450万円	450万円 ～ 550万円	550万円 ～ 650万円	650万円 ～ 750万円	750万円 ～ 850万円	850万円 ～ 950万円	950万円 ～ 1,050万円	1,050万円 ～ 1,150万円	1,150万円 ～ 1,250万円	1,250万円 ～ 1,350万円	1,350万円 ～ 1,450万円	1,450万円 ～ 1,550万円	1,550万円 以上	合計	事例数	平均額
1999年(49回)	(7.0)	(4.1)	(4.7)	(7.9)	(6.8)	(4.5)	(9.9)	(4.9)	(22.8)	(2.9)	(7.6)	(3.1)	(1.1)	(4.5)	(8.3)	(100.0)	(556)	(993.0)
全体	7.8	5.9	4.7	7.0	7.0	5.5	9.0	6.5	24.1	2.1	5.4	1.5	0.3	4.4	8.8	100.0	614	915.2
男子	7.3	6.8	5.5	8.9	7.3	5.2	8.9	6.4	23.4	2.3	5.7	1.1	0.5	3.6	7.3	100.0	440	894.5
女子	9.2	3.4	2.9	2.3	6.3	6.3	9.2	6.9	25.9	1.7	4.6	2.3	-	6.3	12.6	100.0	174	967.6
修士課程	6.0	6.4	5.1	9.0	8.5	6.0	10.7	6.4	25.2	1.7	5.1	0.9	-	3.0	6.0	100.0	234	868.3
博士課程	7.0	8.7	5.8	9.3	4.7	4.7	7.0	6.4	21.5	3.5	5.8	1.7	1.2	4.7	8.1	100.0	172	921.0
獣医学又は医学を 履修する博士課程	28.6	-	-	7.1	7.1	-	7.1	14.3	28.6	-	7.1	-	-	-	-	100.0	14	673.6
専門職学位課程	10.0	-	10.0	5.0	15.0	5.0	5.0	-	15.0	-	10.0	-	-	5.0	20.0	100.0	20	1128.0
男子	6.4	2.1	2.1	2.1	5.3	8.5	8.5	4.3	27.7	2.1	6.4	4.3	-	5.3	14.9	100.0	94	1024.5
女子	12.5	5.6	4.2	1.4	8.3	4.2	9.7	9.7	23.6	-	1.4	-	-	8.3	11.1	100.0	72	910.6
獣医学又は医学を 履修する博士課程	20.0	-	-	20.0	-	-	20.0	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-	100.0	5	720.0
専門職学位課程	-	-	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	100.0	3	966.7
専門的・技術的職業	6.3	4.0	6.3	7.4	5.7	6.3	6.8	6.8	29.0	1.7	6.8	0.6	0.6	2.8	9.1	100.0	176	938.1
教育的職業	2.4	3.6	-	1.2	8.3	1.2	13.1	9.5	38.1	3.6	4.8	2.4	-	4.8	7.1	100.0	84	998.6
管理的職業	2.1	0.7	1.4	2.8	6.3	3.5	11.9	5.6	28.0	3.5	7.0	2.8	0.7	9.1	14.7	100.0	143	1145.2
事務	4.8	14.3	11.9	21.4	7.1	7.1	7.1	11.9	9.5	-	2.4	-	-	-	2.4	100.0	42	631.7
販売	11.8	8.8	8.8	11.8	20.6	5.9	5.9	-	17.6	2.9	2.9	-	-	-	2.9	100.0	34	653.8
農・林・漁業	28.6	-	-	28.6	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28.6	100.0	7	1571.4
生産工程・採掘作業	5.9	11.1	11.1	11.1	-	22.2	11.1	16.7	-	-	-	-	-	-	5.6	94.4	17	698.2
運輸・通信・ 保安・サービス	8.3	13.9	6.9	9.7	5.6	8.3	4.2	5.6	16.7	-	6.9	1.4	-	6.9	5.6	100.0	72	796.0
無職	73.3	13.3	6.7	-	-	-	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	15	214.0
分類不能	19.0	9.5	-	4.8	9.5	4.8	19.0	-	14.3	4.8	-	4.8	-	-	9.5	100.0	21	760.0

8-9-3表 主たる家計支持者の年収分布（既婚者）

区 分	250万円 未満	250万円 ～ 350万円	350万円 ～ 450万円	450万円 ～ 550万円	550万円 ～ 650万円	650万円 ～ 750万円	750万円 ～ 850万円	850万円 ～ 950万円	950万円 ～ 1,050万円	1,050万円 ～ 1,150万円	1,150万円 ～ 1,250万円	1,250万円 ～ 1,350万円	1,350万円 ～ 1,450万円	1,450万円 ～ 1,550万円	1,550万円 以上	合 計	事例数	平均額
1999年(49回)	(10.4)	(5.2)	(1.7)	(7.0)	(17.4)	(6.1)	(12.2)	(3.5)	(14.8)	(1.7)	(8.7)	(3.5)	(-)	(2.6)	(5.2)	(100.0)	(115)	(806.0)
全 体	13.4	8.9	5.4	7.1	7.1	8.0	10.7	1.8	17.0	2.7	7.1	0.9	0.9	2.7	6.3	100.0	112	864.6
男 子	9.7	11.1	2.8	9.7	8.3	6.9	11.1	1.4	18.1	4.2	6.9	1.4	-	2.8	5.6	100.0	72	783.3
女 子	20.0	5.0	10.0	2.5	5.0	10.0	10.0	2.5	15.0	-	7.5	-	2.5	2.5	7.5	100.0	40	1010.8
修 士 課 程	9.1	4.5	9.1	9.1	13.6	4.5	-	4.5	27.3	9.1	-	4.5	-	-	4.5	100.0	22	779.5
	6.5	6.5	-	12.9	9.7	3.2	16.1	-	12.9	3.2	16.1	-	-	6.5	6.5	100.0	31	874.5
	15.4	38.5	-	7.7	-	15.4	7.7	-	15.4	-	-	-	-	-	-	100.0	13	511.5
専 門 職 位 課 程	16.7	-	-	-	-	16.7	33.3	-	16.7	-	-	-	-	-	16.7	100.0	6	915.0
修 士 課 程	16.7	-	8.3	8.3	-	16.7	16.7	-	16.7	-	-	-	-	8.3	8.3	100.0	12	792.5
	28.6	4.8	14.3	-	-	9.5	-	4.8	19.0	-	9.5	-	4.8	-	4.8	100.0	21	886.7
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
専 門 職 位 課 程	-	14.3	-	-	28.6	-	28.6	-	-	-	14.3	-	-	-	14.3	100.0	7	1757.1
専 門 的、技 術 的 職 業	10.8	13.5	8.1	8.1	5.4	16.2	10.8	-	16.2	-	5.4	-	-	2.7	2.7	100.0	37	681.6
教 育 的 職 業	-	-	-	-	-	8.3	16.7	8.3	16.7	8.3	25.0	-	-	8.3	8.3	100.0	12	1091.7
管 理 的 職 業	9.1	-	-	4.5	13.6	-	4.5	-	27.3	4.5	13.6	4.5	4.5	4.5	9.1	100.0	22	1016.8
事 務	10.0	-	-	-	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	10.0	-	-	-	-	10.0	100.0	10	1513.0
販 売	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	2	450.0
農・林・漁 業	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	2	475.0
生 産 工 程・採 掘 作 業	25.0	-	-	25.0	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0	100.0	4	1885.0
運 輸・通 信・ 保 安・サ ー ビ ス	27.3	9.1	9.1	9.1	-	9.1	9.1	-	18.2	-	-	-	-	-	9.1	100.0	11	663.6
無 職	14.3	42.9	14.3	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	7	358.6
分 類 不 能	60.0	-	-	-	-	-	20.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-	100.0	5	362.0

9-1-1 表 支出状況

区分	衣料費		食費		住居費		光熱水費		研究・勉学費	
	平均額 千円	事例数 人								
1999年(49回)	(9.1)	(1,022)	(37.9)	(1,022)	(41.5)	(1,022)	(8.7)	(1,022)	(17.2)	(1,022)
全体	9.6	975	34.2	983	45.5	970	8.4	965	14.9	975
男子	8.2	694	35.9	701	46.0	694	8.2	692	12.8	694
女子	13.0	281	30.1	282	44.3	276	8.9	273	20.0	281
修士課程	8.8	508	29.8	510	37.7	502	5.7	501	11.1	505
博士課程	10.2	378	38.8	382	50.6	378	9.8	376	19.2	380
獣医学又は医学を履修する博士課程	15.1	41	48.6	43	91.6	42	27.9	41	21.7	42
専門職学位課程	8.9	48	31.5	48	47.5	47	8.5	47	14.4	48
文科系	9.6	278	30.4	281	42.4	275	7.4	273	21.9	282
理科系	9.6	697	35.8	702	46.7	695	8.8	692	12.0	693

区分	教養・娯楽費		子供の養育・娯楽費		通学費		通信費		その他雑費		支出合計	
	平均額 千円	事例数 人										
1999年(49回)	(15.5)	(1,022)	(2.3)	(1,022)	(7.3)	(1,022)	(-)	(-)	(12.5)	(1,022)	(152.5)	(1,022)
全体	14.2	971	3.4	924	7.3	978	8.3	980	11.0	954	149.1	990
男子	14.0	695	3.4	664	5.7	698	7.7	699	9.8	681	147.1	704
女子	14.6	276	3.4	260	11.0	280	9.6	281	14.0	273	154.1	286
修士課程	12.4	506	1.0	483	6.3	511	7.2	510	7.8	496	124.6	515
博士課程	15.9	375	5.0	359	8.5	377	9.4	379	13.8	370	167.4	383
獣医学又は医学を履修する博士課程	21.1	42	17.4	39	7.6	41	12.4	42	22.9	41	277.9	43
専門職学位課程	12.8	48	3.7	43	7.3	49	7.2	49	12.3	47	149.6	49
文科系	14.2	278	2.2	257	7.0	281	8.0	282	14.7	272	152.1	284
理科系	14.1	693	3.8	667	7.4	697	8.3	698	9.5	682	147.9	706

9-1-2表 独身者の生活費・支出状況

区分	衣料費		食費		住居費		光熱水費		研究・勉学費	
	平均額 千円	事例数 人								
1999年(49回)	(8.7)	(868)	(35.9)	(868)	(36.0)	(868)	(6.7)	(868)	(15.4)	(868)
全体	9.0	836	31.8	844	39.8	832	6.1	827	13.2	837
男子	7.7	605	33.5	613	40.6	606	6.3	604	11.9	607
女子	12.4	231	27.0	231	37.7	226	5.5	223	16.9	230
修士課程	8.4	460	29.2	463	36.0	455	5.2	453	10.1	456
博士課程	9.6	316	35.4	319	44.9	316	7.1	315	17.3	319
獣医学又は医学を履修する博士課程	15.2	25	41.0	27	68.4	26	11.4	25	19.2	27
専門職学位課程	6.7	35	24.5	35	20.9	35	4.4	34	13.1	35
文科系	8.9	236	28.9	238	36.7	232	6.3	231	20.9	239
理科系	9.0	600	32.9	606	41.0	600	6.0	596	10.2	598

区分	教養・娯楽費		子供の養育・娯楽費		通学費		通信費		その他雑費		支出合計	
	平均額 千円	事例数 人										
1999年(49回)	(15.4)	(868)	(0.3)	(868)	(7.0)	(868)	(-)	(-)	(11.5)	(868)	(136.7)	(868)
全体	13.5	838	0.4	798	6.2	841	7.3	842	9.9	821	133.5	848
男子	13.7	611	0.1	584	5.8	611	7.2	612	8.4	596	132.3	615
女子	13.0	227	1.0	214	7.5	230	7.6	230	13.9	225	136.6	233
修士課程	12.5	459	0.1	442	6.2	462	7.0	464	7.1	451	119.0	466
博士課程	14.7	317	0.2	301	6.1	319	7.7	317	13.4	311	152.0	320
獣医学又は医学を履修する博士課程	17.2	27	8.7	23	8.1	25	9.9	26	19.6	25	206.3	27
専門職学位課程	12.0	35	0.0	32	7.3	35	5.9	35	7.3	34	100.9	35
文科系	13.9	236	0.3	222	6.9	239	7.8	238	12.9	230	138.3	240
理科系	13.3	602	0.4	576	6.0	602	7.1	604	8.7	591	131.6	608

9-1-3 表 既婚者の生活費・支出状況

区分	衣料費		食費		住居費		光熱水費		研究・勉学費	
	平均額 千円	事例数 人								
1999年(49回)	(11.6)	(154)	(49.1)	(154)	(72.8)	(154)	(19.9)	(154)	(27.0)	(154)
全体	13.3	139	49.2	139	80.0	138	22.3	138	24.9	138
男子	11.9	89	52.3	88	83.1	88	21.5	88	19.4	87
女子	15.8	50	43.9	51	74.4	50	23.8	50	34.1	51
修士課程	12.1	48	35.4	47	53.3	47	10.7	48	20.6	49
博士課程	13.6	62	56.2	63	79.3	62	23.9	61	29.4	61
獣医学又は医学を履修する博士課程	14.8	16	61.4	16	129.3	16	53.7	16	26.3	15
専門職学位課程	14.8	13	50.5	13	119.2	13	19.2	13	17.7	13
文系	13.7	42	38.9	43	73.0	43	13.7	42	27.6	43
理系	13.2	97	53.9	96	83.1	95	26.1	96	23.6	95

区分	教養・娯楽費		子供の養育・娯楽費		通学費		通信費		その他雑費		支出合計	
	平均額 千円	事例数 人										
1999年(49回)	(16.6)	(154)	(14.0)	(154)	(9.0)	(154)	(-)	(-)	(18.5)	(154)	(241.4)	(154)
全体	18.4	133	22.3	126	13.5	137	14.1	138	17.7	133	242.4	142
男子	16.2	84	14.2	80	5.6	87	11.5	87	19.3	85	249.3	89
女子	22.0	49	36.4	46	27.3	50	18.6	51	14.9	48	230.6	53
修士課程	11.6	47	11.2	41	7.5	49	9.3	46	14.6	45	178.2	49
博士課程	22.1	58	29.5	58	22.0	58	17.8	62	15.6	59	246.1	63
獣医学又は医学を履修する博士課程	28.2	15	29.9	16	6.7	16	16.5	16	28.0	16	398.6	16
専門職学位課程	14.9	13	14.6	11	7.2	14	10.6	14	25.2	13	271.2	14
文系	15.9	42	14.6	35	7.5	42	9.5	44	24.6	42	227.8	44
理系	19.5	91	25.3	91	16.2	95	16.3	94	14.5	91	248.9	98

9-2-1 表 収入状況

区分	家庭からの仕送り小遣い		助成金		アルバイト		定職		配偶者の収入		その他		収入合計	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(44.1)	(1,022)	(62.3)	(1,022)	(33.8)	(1,022)	(22.4)	(1,022)	(13.7)	(1,022)	(3.9)	(1,022)	(178.7)	(1,022)
全体	46.9	952	54.6	938	36.2	944	26.0	900	17.1	888	6.8	846	175.9	987
男子	48.8	680	57.4	670	36.9	671	27.5	643	6.7	628	7.1	611	173.8	704
女子	42.1	272	47.5	268	34.3	273	22.4	257	42.1	260	6.0	235	181.3	283
修士課程	61.1	500	34.5	487	25.9	492	6.2	468	6.5	467	5.3	445	133.5	512
博士課程	32.0	367	84.6	369	36.6	366	39.0	350	26.4	343	7.4	326	211.9	384
獣医学又は医学を履修する博士課程	11.4	40	46.6	39	185.1	41	145.7	41	18.9	37	24.7	38	393.5	43
専門職学位課程	42.5	45	30.7	43	10.2	45	22.3	41	57.3	41	0.9	37	145.7	48
文科系	44.1	267	52.1	265	34.1	270	15.9	252	28.9	250	9.1	240	170.7	282
理科系	48.0	685	55.5	673	37.0	674	30.0	648	12.5	638	5.9	606	178.0	705

9-2-2 表 独身者の生活費・収入状況

区分	家庭からの仕送り小遣い		助成金		アルバイト		定職		その他		収入合計	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(47.9)	(868)	(67.3)	(868)	(28.0)	(868)	(9.9)	(868)	(2.6)	(868)	(155.5)	(868)
全体	49.3	830	55.9	817	32.3	819	17.5	780	4.1	739	152.8	848
男子	50.9	601	57.6	592	31.1	591	16.5	564	4.2	539	153.9	615
女子	45.3	229	51.3	225	35.5	228	20.3	216	3.7	200	149.6	233
修士課程	60.8	459	35.1	448	26.3	452	4.2	431	3.8	411	126.7	465
博士課程	35.1	311	89.6	311	30.4	307	31.8	292	5.0	276	183.4	321
獣医学又は医学を履修する博士課程	11.8	26	53.6	25	189.2	26	90.5	26	1.7	23	320.5	27
専門職学位課程	53.8	34	22.9	33	9.9	34	6.0	31	0.0	29	88.7	35
文科系	48.2	232	51.7	230	35.1	233	15.3	217	5.8	206	148.9	240
理科系	49.8	598	57.6	587	31.2	586	18.4	563	3.4	533	154.3	608

9-2-3 表 既婚者の生活費・収入状況

区分	家庭からの仕送り小遣い		助成金		アルバイト		定職		配偶者の収入		その他		収入合計	
	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(22.6)	(154)	(34.2)	(154)	(66.9)	(154)	(92.9)	(154)	(91.1)	(154)	(11.1)	(154)	(309.6)	(154)
全体	30.3	122	45.4	121	61.3	125	81.5	120	124.7	121	25.6	107	317.4	139
男子	33.4	79	55.1	78	80.0	80	106.4	79	55.9	74	28.9	72	311.0	89
女子	24.5	43	27.7	43	28.0	45	33.4	41	233.0	47	18.9	35	328.9	50
修士課程	64.3	41	28.0	39	20.5	40	28.7	37	76.4	40	23.2	34	201.0	47
博士課程	14.6	56	57.9	58	68.6	59	75.3	58	160.4	56	20.5	50	357.4	63
獣医学又は医学を履修する博士課程	10.7	14	34.1	14	178.1	15	241.3	15	50.0	14	60.0	15	516.7	16
専門職学位課程	7.7	11	56.7	10	11.4	11	73.0	10	213.6	11	4.1	8	299.2	13
文科系	17.6	35	54.9	35	27.6	37	19.6	35	185.1	39	29.0	34	295.4	42
理科系	35.4	87	41.5	86	75.5	88	107.0	85	95.9	82	24.1	73	327.0	97

9-3表 支出総額分布

区分	3万円未満 %	3万円以上 6万円未満 %	6万円以上 9万円未満 %	9万円以上 12万円未満 %	12万円以上 15万円未満 %	15万円以上 18万円未満 %	18万円以上 21万円未満 %	21万円以上 %	合計 %	事例数 人	平均額 万円
1999年(49回)	(2.7)	(7.2)	(16.4)	(12.5)	(14.7)	(16.5)	(14.2)	(15.7)	(100.0)	(1,022)	
全体	2.7	11.4	14.3	13.4	15.1	18.8	10.9	13.3	100.0	990	149.1
男子	2.3	11.4	14.1	13.2	16.5	19.6	10.8	12.2	100.0	704	147.1
女子	3.8	11.5	15.0	14.0	11.5	16.8	11.2	16.1	100.0	286	154.1
修士課程	2.7	14.2	17.2	16.7	18.3	18.9	6.8	5.2	100.0	366	123.3
博士課程	1.5	6.3	11.2	9.0	17.2	22.0	16.4	16.4	100.0	268	164.0
獣医学又は医学を履修する博士課程	-	11.4	2.9	5.7	5.7	8.6	11.4	54.3	100.0	35	273.7
専門職学位課程	5.7	20.0	14.3	17.1	2.9	20.0	8.6	11.4	100.0	35	139.4
修士課程	5.4	11.4	17.4	17.4	13.4	16.8	10.7	7.4	100.0	149	127.9
博士課程	0.9	10.4	13.0	11.3	11.3	18.3	13.9	20.9	100.0	115	175.5
獣医学又は医学を履修する博士課程	12.5	12.5	-	-	-	-	-	75.0	100.0	8	296.0
専門職学位課程	7.1	21.4	14.3	7.1	-	14.3	-	35.7	100.0	14	174.9

9-4-1 表 収入形態

区分	仕送りのみ %	助成金の のみ %	アルバイト ・定職のみ %	配偶者の 収入のみ %	仕送り + 助成金 %	仕送り + アルバイト ・定職のみ %	助成金 + アルバイト ・定職のみ %	助成金 + 配偶者 %	アルバイト ・定職のみ + 配偶者 %	仕送り + 助成金 + アルバイト ・定職のみ %	助成金 + アルバイト ・定職のみ + 配偶者 %	その他 のみ %	収入なし %	合計 %	事例数 人
1999年(49回)	(11.4)	(13.7)	(10.5)	(1.1)	(12.4)	(15.9)	(12.7)	(0.4)	(3.0)	(13.3)	(1.4)	(0.6)	(3.6)	(100.0)	(1,022)
全体	14.8	9.5	11.7	1.0	9.8	20.5	13.0	0.3	1.9	10.6	0.7	1.0	5.2	100.0	961
男子	15.3	9.6	10.5	-	10.9	20.8	13.7	0.4	0.9	11.5	0.7	0.7	5.0	100.0	679
女子	13.5	9.2	14.5	3.5	7.1	19.9	11.3	-	4.3	8.5	0.7	1.8	5.7	100.0	282
修士課程	23.3	6.5	5.1	-	10.5	28.4	8.5	-	0.3	13.6	-	0.6	3.1	100.0	352
博士課程	3.9	15.2	13.7	-	11.3	12.1	22.7	0.4	1.6	10.5	2.0	1.2	5.5	100.0	256
獣医学又は医学を 履修する博士課程	-	5.7	45.7	-	8.6	5.7	11.4	2.9	2.9	8.6	-	-	8.6	100.0	35
専門職学位課程	33.3	2.8	5.6	-	13.9	22.2	2.8	2.8	-	-	-	-	16.7	100.0	36
修士課程	21.2	4.8	10.3	2.1	8.9	24.0	7.5	-	2.7	11.0	-	2.1	5.5	100.0	146
博士課程	3.5	16.8	17.7	3.5	6.2	14.2	17.7	-	5.3	6.2	1.8	1.8	5.3	100.0	113
獣医学又は医学を 履修する博士課程	-	-	62.5	-	-	25.0	12.5	-	-	-	-	-	-	100.0	8
専門職学位課程	20.0	-	6.7	20.0	-	20.0	-	-	13.3	6.7	-	-	13.3	100.0	15

9-4-2表 独身者の収入形態

区分	仕送りのみ %	助成金のみのみ %	アルバイト・定職のみ %	仕送り + 助成金 %	仕送り + アルバイト・定職のみ %	助成金 + アルバイト・定職のみ %	仕送り + 助成金 + アルバイト・定職のみ %	その他のみ %	収入なし %	合計 %	事例数 人
1999年(49回)	(12.4)	(15.3)	(7.8)	(14.1)	(17.7)	(13.9)	(15.1)	(0.5)	(3.1)	(100.0)	(868)
全体	16.1	10.1	10.4	10.5	22.1	13.9	11.8	0.6	4.5	100.0	828
男子	16.7	10.0	8.5	11.5	21.4	14.0	12.7	0.5	4.5	100.0	598
女子	14.3	10.4	15.2	7.8	23.9	13.5	9.6	0.9	4.3	100.0	230
修士課程	24.2	6.7	4.9	10.4	27.6	8.9	14.1	0.3	2.8	100.0	326
博士課程	4.5	16.1	12.1	12.1	13.0	23.8	12.1	0.9	5.4	100.0	223
獣医学又は医学を履修する博士課程	—	10.0	35.0	15.0	10.0	5.0	15.0	—	10.0	100.0	20
専門職学位課程	37.9	—	3.4	17.2	24.1	3.4	—	—	13.8	100.0	29
女子	20.8	4.8	11.2	9.6	27.2	8.8	12.0	0.8	4.8	100.0	125
修士課程	4.5	20.2	18.0	6.7	18.0	21.3	6.7	1.1	3.4	100.0	89
博士課程	—	—	62.5	—	25.0	12.5	—	—	—	100.0	8
獣医学又は医学を履修する博士課程	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
専門職学位課程	37.5	—	—	—	37.5	—	12.5	—	12.5	100.0	8

9-4-3 表 既婚者の収入形態

区分	仕送りのみ %	助成金の のみ %	アルバイト ・定職のみ %	配偶者の 収入のみ %	仕送り + 助成金 %	仕送り + アルバイト ・定職のみ %	助成金 + 配偶者 %	アルバイト + 配偶者 %	仕送り + 助成金 + アルバイト ・定職のみ %	助成金 + アルバイト ・定職のみ + 配偶者 %	その他 のみ %	収入 なし %	合計 %	事例数 人
1999年(49回)	(5.2)	(4.5)	(25.3)	(7.1)	(3.2)	(5.8)	(2.6)	(20.1)	(3.2)	(9.1)	(1.3)	(6.5)	(100.0)	(154)
全体	6.9	5.3	19.8	7.6	5.3	10.7	1.5	13.7	3.1	5.3	3.8	9.2	100.0	131
男子	5.1	6.3	25.3	-	6.3	16.5	2.5	7.6	2.5	6.3	2.5	7.6	100.0	79
女子	9.6	3.8	11.5	19.2	3.8	1.9	-	23.1	3.8	3.8	5.8	11.5	100.0	52
修士課程	11.5	3.8	7.7	-	11.5	38.5	-	3.8	7.7	0	3.8	7.7	100.0	26
博士課程	-	9.4	25.0	-	6.3	6.3	-	12.5	-	15.6	3.1	6.3	100.0	32
獣医学又は医学を 履修する博士課程	-	-	64.3	-	-	-	7.1	7.1	-	-	-	-	100.0	14
専門職学位課程	14.3	14.3	14.3	-	-	14.3	14.3	-	-	-	-	28.6	100.0	7
女子	23.8	4.8	4.8	14.3	4.8	4.8	-	19.0	4.8	-	9.5	9.5	100.0	21
修士課程	-	4.2	16.7	16.7	4.2	0	-	25.0	4.2	8.3	4.2	12.5	100.0	24
博士課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
獣医学又は医学を 履修する博士課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
専門職学位課程	-	-	14.3	42.9	-	-	-	28.6	-	-	-	14.3	100.0	7

10-1表 現在、日本学術振興会の研究奨励金を受けていますか。

区分	受けている %	受けたいが 受けられ なかった %	受けたくない %	受ける 必要はない %	無回答 %	合計 %	事例数 人
全体	14.3	43.5	5.2	34.7	2.3	100.0	1,031
男子	14.5	43.2	5.2	34.8	2.3	100.0	733
女子	13.8	44.0	5.4	34.6	2.3	100.0	298
修士課程	10.6	34.4	5.5	47.3	2.3	100.0	529
博士課程	21.0	56.4	5.0	15.8	1.7	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	6.5	56.5	6.5	28.3	2.2	100.0	46
専門職学位課程	5.8	23.1	3.8	59.6	7.7	100.0	52
文科系	14.7	44.8	4.7	31.4	4.3	100.0	299
理科系	14.1	42.9	5.5	36.1	1.5	100.0	732

10-2表 現在、他の奨学的な資金を受けていますか。

区分	受けている %	受けたいが 受けられ なかった %	受けたくない %	受ける 必要はない %	無回答 %	合計 %	事例数 人
全体	31.7	22.4	5.6	39.1	1.2	100.0	1,031
男子	33.4	20.5	5.6	39.3	1.2	100.0	733
女子	27.5	27.2	5.7	38.6	1.0	100.0	298
修士課程	28.0	21.9	6.4	42.5	1.1	100.0	529
博士課程	38.9	21.5	4.7	33.7	1.2	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	28.3	28.3	6.5	34.8	2.2	100.0	46
専門職学位課程	17.3	28.8	3.8	50.0	—	100.0	52
文科系	29.8	29.8	4.3	34.4	1.7	100.0	299
理科系	32.5	19.4	6.1	41.0	1.0	100.0	732

10-3表 理由はどれにあたりますか。

区 分	事務手続きが 煩雑だから %	掲示等に気が つかなかった %	書類を期限ま でに整えられ なかった %	出願したが 採用されな かった %	貸与なので申 請しなかった %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(7.0)	(7.8)	(8.1)	(49.1)	(9.1)	(17.3)	(1.3)	(100.0)	(371)
全 体	8.8	8.4	13.5	30.3	23.9	11.4	3.7	100.0	297
男 子	10.5	8.0	11.5	32.0	24.0	10.0	4.0	100.0	200
女 子	5.2	9.3	17.5	26.8	23.7	14.4	3.1	100.0	97
修 士 課 程	10.7	8.7	14.7	23.3	32.7	8.0	2.0	100.0	150
博 士 課 程	7.8	5.2	12.2	42.6	11.3	13.9	7.0	100.0	115
獣医学又は医学を 履修する博士課程	6.3	31.3	6.3	—	31.3	25.0	—	100.0	16
専門職学位課程	—	6.3	18.8	37.5	25.0	12.5	—	100.0	16
文 科 系	8.3	9.4	19.8	26.0	18.8	15.6	2.1	100.0	96
理 科 系	9.0	8.0	10.4	32.3	26.4	9.5	4.5	100.0	201

◎設問55または56で「2」または「3」と答えた方のみ

10-4表 どここの奨学的な資金を受けていますか。

(複数選択)

区 分	日本学術 振興会 (特別研究員) %	日本学生 支援機構 %	地方公共団体 (自治体) %	民間の 奨学団体 %	日本以外の 奨学団体 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
全 体	13.5	74.6	0.6	8.1	0.2	5.6	100.0	468
男 子	13.0	76.3	0.6	6.4	—	4.9	100.0	346
女 子	14.8	69.7	0.8	13.1	0.8	7.4	100.0	122
修 士 課 程	3.0	84.6	0.5	11.9	0.5	4.0	100.0	201
博 士 課 程	23.3	66.3	0.4	4.2	—	6.7	100.0	240
獣医学又は医学を 履修する博士課程	6.3	62.5	6.3	12.5	—	12.5	100.0	16
専門職学位課程	—	90.9	—	18.2	—	—	100.0	11

◎設問55または56で「1」と答えた方のみ

10-5表 奨学的な資金の主たる支出目的(用途)はどれにあたりますか。

(3つまで選択)

区 分	生活費 (衣・食・ 住居費) %	授業料 %	研究・ 勉学費 %	教養・ 娯楽費 %	旅行 (帰省も 含む) %	技術・資 格等取得 の費用 %	耐久消費 財購入費 用 %	貯金 %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(89.1)	(36.3)	(66.7)	(39.0)	(8.2)	(2.7)	(5.0)	(16.3)	(1.4)	(0.9)	(—)	(441)
全 体	86.5	46.4	52.8	25.2	5.3	3.2	2.6	9.2	0.6	4.5	100.0	468
男 子	91.6	46.0	50.0	27.5	4.9	1.7	2.6	10.1	0.3	3.5	100.0	346
女 子	72.1	47.5	60.7	18.9	6.6	7.4	2.5	6.6	1.6	7.4	100.0	122
修 士 課 程	86.6	36.8	42.8	28.4	8.0	3.0	1.5	8.0	1.0	3.0	100.0	201
博 士 課 程	86.7	51.7	59.6	24.2	3.8	2.9	3.3	9.2	0.4	5.8	100.0	240
獣医学又は医学を 履修する博士課程	87.5	62.5	50.0	18.8	—	12.5	6.3	25.0	—	6.3	100.0	16
専門職学位課程	81.8	81.8	90.9	—	—	—	—	9.1	—	—	100.0	11

奨学的な資金を受けている方のみ

11-1表 過去1年間にアルバイトをしましたか。

区 分	継続的 (1ヶ月以上) アルバイト をした %	臨時 (1ヶ月未満) アルバイト をした %	継続的+臨時的 アルバイト を両方した %	しなかった %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(46.7)	(9.9)	(9.7)	(33.1)	(0.6)	(100.0)	(1,028)
全 体	49.8	12.6	9.3	27.8	0.5	100.0	1,031
男 子	49.8	12.6	8.7	28.2	0.7	100.0	733
女 子	49.7	12.8	10.7	26.8	—	100.0	298
修 士 課 程	49.3	14.9	10.2	25.3	0.2	100.0	529
博 士 課 程	53.2	9.9	6.7	29.5	0.7	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	45.7	13.0	21.7	17.4	2.2	100.0	46
専門職学位課程	30.8	9.6	9.6	50.0	—	100.0	52
未 婚	50.5	13.3	9.1	26.9	0.2	100.0	880
既 婚	46.0	8.7	10.7	33.3	1.3	100.0	150

11-2表 アルバイトの種類

(2つまで選択)

区分	大学などの非常勤講師	TA・RA	研究事務補助	小・中・高等学校の講師	塾・予備校の講師	家庭教師	試験監督・採点・通信教育の添削	執筆・翻訳・通訳・編集	一般事務	販売・サービス業	セールス・訪問調査	飲食店	宿直、警備	肉体的労働	上記以外の専門を生かしたものの	上記以外の特技を生かしたものの	その他	無回答
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1999年(49回)	(8.8)	(-)	(-)	(1.4)	(21.7)	(31.8)	(9.2)	(11.9)	(8.9)	(7.0)	(0.1)	(4.4)	(0.7)	(4.5)	(21.0)	(4.1)	(4.3)	(1.3)
全体	3.7	39.0	13.9	1.5	19.1	20.0	6.0	8.1	7.3	6.4	0.4	5.0	1.2	3.2	12.2	1.6	2.8	0.9
男子	4.0	41.8	14.6	0.8	20.9	17.5	6.5	6.9	6.1	5.4	0.4	4.8	1.5	3.8	11.1	1.7	2.7	0.8
女子	2.8	32.1	12.4	3.2	14.7	26.1	4.6	11.0	10.1	8.7	0.5	5.5	0.5	1.8	14.7	1.4	3.2	1.4
修士課程	0.8	27.7	12.9	1.3	20.1	28.2	8.6	7.4	8.9	10.2	0.5	7.9	1.0	5.6	8.6	1.5	2.0	0.8
博士課程	8.2	59.9	16.7	1.8	18.4	11.0	3.5	9.2	4.3	1.1	0.4	1.1	0.7	0.4	12.8	2.1	3.5	0.4
獣医学又は医学を履修する博士課程	2.7	27.0	5.4	2.7	8.1	-	-	10.8	2.7	5.4	-	2.7	8.1	-	51.4	-	5.4	-
専門職学位課程	-	-	11.5	-	26.9	23.1	-	3.8	23.1	7.7	-	7.7	-	3.8	3.8	-	3.8	11.5
未婚	3.4	39.3	13.6	1.6	20.1	21.4	6.4	7.0	7.3	6.6	0.3	4.8	1.1	3.6	10.1	1.9	2.7	0.9
既婚	5.1	36.7	16.3	1.0	12.2	11.2	3.1	15.3	7.1	5.1	1.0	6.1	2.0	1.0	25.5	-	4.1	1.0
人文社会系研究科	8.7	18.8	20.3	5.8	37.7	14.5	5.8	15.9	8.7	4.3	-	2.9	1.4	4.3	5.8	2.9	5.8	1.4
教育学研究科	21.7	8.7	21.7	4.3	26.1	21.7	8.7	8.7	17.4	8.7	-	-	-	-	17.4	-	-	-
法学政治学研究科	-	7.1	21.4	-	21.4	21.4	3.6	7.1	10.7	7.1	-	-	-	-	7.1	3.6	3.6	10.7
経済学研究科	-	56.0	20.0	-	24.0	28.0	12.0	4.0	20.0	-	-	-	-	4.0	8.0	-	4.0	-
総合文化研究科	5.4	51.1	13.0	1.1	20.7	18.5	5.4	15.2	8.7	3.3	1.1	4.3	2.2	2.2	3.3	-	2.2	2.2
理学系研究科	3.3	49.5	16.5	1.1	15.4	16.5	7.7	5.5	3.3	5.5	1.1	4.4	1.1	2.2	6.6	3.3	1.1	-
工学系研究科	0.8	43.9	11.4	-	19.7	28.8	8.3	3.8	6.8	9.8	0.8	5.3	0.8	3.8	8.3	3.0	1.5	-
農学生命科学研究科	-	41.7	11.7	1.7	15.0	25.0	5.0	10.0	6.7	3.3	-	10.0	-	5.0	6.7	-	5.0	-
医学系研究科	5.3	24.0	9.3	1.3	6.7	5.3	-	12.0	2.7	4.0	-	2.7	5.3	1.3	53.3	-	4.0	-
薬学研究科	-	68.4	-	-	5.3	26.3	5.3	5.3	-	5.3	-	-	-	-	10.5	-	-	-
数理学研究科	-	83.3	-	-	-	16.7	16.7	-	-	-	-	16.7	-	-	16.7	-	16.7	-
新領域創成科学研究科	-	45.3	14.7	-	18.7	24.0	5.3	4.0	6.7	8.0	-	10.7	-	8.0	6.7	1.3	2.7	1.3
情報理工学系研究科	11.1	44.4	11.1	3.7	14.8	14.8	7.4	3.7	3.7	3.7	-	3.7	-	-	22.2	-	3.7	-
学際情報学府	-	-	22.2	11.1	22.2	11.1	-	-	11.1	55.6	-	-	-	-	-	11.1	-	-
公共政策学教育部	-	-	12.5	-	37.5	25.0	-	-	37.5	12.5	-	25.0	-	12.5	-	-	-	-

アルバイトをしている方のみ

11-3表 アルバイトに費やす時間と収入額

区 分	平均時間 時間	平均額 千円	事例数 人
1999年(49回)	(14.2)	(70.3)	(682)
全 体	12.3	68.9	739
男 子	12.4	70.6	521
女 子	11.9	64.7	218
修 士 課 程	10.8	44.0	394
博 士 課 程	14.1	76.9	282
獣医学又は医学を履修する博士課程	15.9	313.4	37
専 門 職 学 位 課 程	8.4	28.8	26
未 婚	11.9	59.6	641
既 婚	14.4	129.3	98
人文社会系研究科	11.6	54.7	69
教育学研究科	15.7	58.7	23
法学政治学研究科	7.6	36.0	28
経済学研究科	14.6	55.9	25
総合文化研究科	10.6	47.8	92
理学系研究科	13.2	54.2	91
工学系研究科	11.7	50.1	132
農学生命科学研究科	8.1	34.8	60
医学系研究科	16.8	241.5	75
薬学系研究科	13.7	80.4	19
数理科学研究科	10.7	53.6	6
新領域創成科学研究科	13.3	49.2	75
情報理工学系研究科	10.3	58.7	27
学際情報学府	15.0	55.1	9
公共政策学教育部	10.1	30.9	8

アルバイトをしている方のみ

11-4表 アルバイトの紹介者

区 分	大学の担 当事務 %	指導教員 %	内外学生 センター %	新聞広告・ アルバイト 広告誌 %	インター ネット %	友人・ 知人等 %	アルバイト 先と直接 %	スーパー・ 銀行等の 伝言板 %	その他 %	無回答 %	事例数 人
1999年(49回)	(15.1)	(-)	(2.9)	(17.0)	(-)	(53.2)	(22.4)	(2.1)	(15.7)	(1.9)	(682)
全 体	12.2	29.0	2.0	9.5	9.1	35.7	17.5	0.4	3.9	5.5	739
男 子	12.9	30.9	1.7	8.8	9.8	35.5	17.7	0.6	3.1	4.6	521
女 子	10.6	24.3	2.8	11.0	7.3	36.2	17.0	-	6.0	7.8	218
修 士 課 程	9.1	20.6	2.5	12.4	12.2	40.1	18.8	0.5	3.8	4.8	394
博 士 課 程	16.0	41.1	1.8	5.0	4.3	31.9	16.3	0.4	3.2	5.0	282
獣医学又は医学を 履修する博士課程	10.8	45.9	-	8.1	2.7	27.0	13.5	-	10.8	8.1	37
専門職学位課程	19.2	-	-	15.4	23.1	23.1	15.4	-	3.8	19.2	26
未 婚	12.9	26.8	2.3	10.3	9.0	35.9	17.0	0.5	3.7	5.9	641
既 婚	7.1	42.9	-	4.1	9.2	34.7	20.4	-	5.1	3.1	98

アルバイトをしている方のみ

11-5表 アルバイトをした理由

区 分	生活費を 稼ぐため %	勉学費を 稼ぐため %	学生生活を 楽しむため %	社会経験 のため %	その他 %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(56.7)	(14.2)	(12.5)	(10.4)	(4.1)	(2.1)	(100.0)	(682)
全 体	51.7	16.9	10.6	10.8	4.7	5.3	100.0	739
男 子	56.0	14.4	10.9	10.6	3.8	4.2	100.0	521
女 子	41.3	22.9	9.6	11.5	6.9	7.8	100.0	218
修 士 課 程	48.0	14.5	15.5	12.9	5.1	4.1	100.0	394
博 士 課 程	56.7	21.3	5.0	7.8	3.9	5.3	100.0	282
獣医学又は医学を 履修する博士課程	75.7	5.4	-	2.7	8.1	8.1	100.0	37
専門職学位課程	19.2	23.1	11.5	23.1	3.8	19.2	100.0	26
未 婚	51.2	16.5	11.5	11.1	4.2	5.5	100.0	641
既 婚	55.1	19.4	4.1	9.2	8.2	4.1	100.0	98

アルバイトをしている方のみ

11-6表 アルバイト収入の用途

(2つまで選択)

区 分	生活費 (衣・食・ 住居費) %	授業料 %	研究・ 勉学費 %	教養・ 娯楽費 %	旅行(帰省 も含む) %	技術・資格 等取得の 費用 %	耐久消費 財購入費 用 %	貯金 %	その他 %	無回答 %	事例数 人
1999年(49回)	(69.9)	(16.1)	(30.1)	(46.0)	(7.9)	(1.0)	(2.5)	(10.0)	(0.9)	(1.8)	(682)
全 体	66.4	17.9	24.2	32.5	8.4	1.1	2.0	9.5	0.3	5.1	739
男 子	68.9	17.7	22.3	34.2	8.8	0.8	2.7	8.6	0.4	4.2	521
女 子	60.6	18.3	28.9	28.4	7.3	1.8	0.5	11.5	—	7.3	218
修 士 課 程	61.7	8.1	20.8	43.4	13.7	1.5	2.3	10.4	0.3	4.1	394
博 士 課 程	73.0	28.4	29.4	20.6	1.4	0.7	1.8	8.5	0.4	5.0	282
獣医学又は医学を 履修する博士課程	83.8	54.1	18.9	10.8	—	—	—	8.1	—	8.1	37
専門職学位課程	42.3	—	26.9	26.9	15.4	—	3.8	7.7	—	19.2	26
未 婚	66.5	15.1	24.6	34.0	8.4	1.1	1.9	9.8	0.3	5.5	641
既 婚	66.3	35.7	21.4	22.4	8.2	1.0	3.1	7.1	—	3.1	98

アルバイトをしている方のみ

11-7表 継続的アルバイトは勉学の妨げになりませんでしたか

区 分	かなり妨げ になった %	多少妨げ になった %	妨げに ならなかった %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(12.8)	(52.6)	(31.7)	(2.9)	(100.0)	(580)
全 体	9.2	43.3	43.7	3.8	100.0	609
男 子	8.4	42.2	46.2	3.3	100.0	429
女 子	11.1	46.1	37.8	5.0	100.0	180
修 士 課 程	7.0	47.3	43.5	2.2	100.0	315
博 士 課 程	11.6	38.8	46.3	3.3	100.0	242
獣医学又は医学を 履修する博士課程	19.4	38.7	32.3	9.7	100.0	31
専門職学位課程	—	42.9	33.3	23.8	100.0	21
未 婚	8.8	43.1	44.5	3.6	100.0	524
既 婚	11.8	44.7	38.8	4.7	100.0	85

アルバイトをしている方のみ

11-8表 現在の暮し向き

区 分	かなり 楽な方 %	やや 楽な方 %	普通 %	やや 苦しい方 %	大変 苦しい方 %	わからない %	無回答 %	合 計 %	事例数 人
1999年(49回)	(16.0)	(15.8)	(36.9)	(21.4)	(7.4)	(1.6)	(1.1)	(100.0)	(1,028)
全 体	15.7	15.4	35.1	22.3	6.2	0.7	4.6	100.0	1,031
男 子	15.8	17.3	34.9	21.3	6.0	0.7	4.0	100.0	733
女 子	15.4	10.7	35.6	24.8	6.7	0.7	6.0	100.0	298
修 士 課 程	16.6	16.1	36.7	20.4	5.7	0.8	3.8	100.0	529
博 士 課 程	15.8	13.9	34.7	23.5	5.7	0.7	5.7	100.0	404
獣医学又は医学を 履修する博士課程	10.9	17.4	28.3	30.4	8.7	—	4.3	100.0	46
専門職学位課程	9.6	19.2	28.8	25.0	13.5	—	3.8	100.0	52
未 婚	16.9	15.7	34.7	22.5	5.5	0.7	4.1	100.0	880
既 婚	8.7	14.0	38.0	21.3	10.7	0.7	6.7	100.0	150

アルバイトをしている方のみ

具体的記述事項（抜粋） その1

あなたの人生における大学院生活の位置づけについて

注：M 修士課程
S 専門職学位課程
D 博士課程

[人文M男子]

○ 小生のように高齢で大学院（学士入学して卒業したあと進学）で学び、研究する（したいと希望する）人が今後ますます増えると思う。『カルチャ・センター化』は歓迎されないようだが、上のような社会的なニーズに大学法人も、積極的に対応したらどうか。よい意味での経営的感覚が必要。

社会人の経験を経て、あるいは定年退職後に、真面目な勉学、研究意欲をもつ人が高齢化社会で増えてゆく。

○ 学部段階では不十分だった専門的な学問の方法を身につける。そこで学んだ論理的な思考方法や調査の進め方は、たとえその分野での研究職に就かないとしても、役立つのではないかと考えている。私は学部段階で自分の道を就職というかたちでは決定できず、将来の選択を大学院まで先延ばしにしてしまったが、上記のように思っているので、考える時間を得られたという意味でも大学院に進学したことは後悔していない。

[人文M女子]

○ 私にとって大学院生活は家事・アルバイト・学業という三立状態にある。少子化が叫ばれる中、女性は将来の夢のために頑張っているかたわら、次の世代を産む役割も果さなければいけない。女性のみにかかわらず、若い研究者（男性）の中でも、共働きのところが多い。若い研究者たちが安心して子供が産めるように、出産後も研究が続けられるように、一部の私立大学のように、ぜひ託児所を作って頂きたいと考えております。学生・研究者のみならず、東大全体で勤務している人達もニーズがあるはずですよ。ぜひご検討願います。

○ 人生の質をより豊かなものにするための回り道の時間。だから金銭的には豊かではなくても、好きな事をして精神的に豊かなものにしたい。

○ 研究者志望ということもあり、大学院時代は、集中して学び、研究できる重要な時だと考えています。今の時期の研究が、将来の研究の方向を決める大きな要素であるとも考えます。その分、成果が出ないと苦しいこともあります。それも含め、大学院で学べる今の生活は、とても恵まれていて、充実していると感じます。ただ、長い学生生活を送る点で経済的には不安定であることが、多少困ることです。

[人文D女子]

○ 将来研究職 or 教職で食べていくための実力養成期間だと思っている。経済的には少々苦しくとも、好きなことを職業にするつもりなので常に前向きなつもり

でいる。

この立場を理解してもらっている人々には力強い応援をいただくが、まったく判っていない人々（親せきやら近所の人々など）にはいい年をした者がノラクラしていると映るらしく、たまに冷たいことを言われる。それは辛い。

[教育D男子]

○ 大学時代の四年間は、何に興味を持っているのか、そんな自分に気付くことで精一杯であった。僕にとっての大学院は、その気付いた興味に対して、より深く、専門的に追っていく時間、機会そして方法などを提供してくれる場である。また同じような興味を持つ人々（師、友人ら）との出会いの場でもあり、そこでは、様々な視点をもつ人々との議論を通して、自らの視点を相対化できる場でもある。興味を持った事柄に対して、とことん追求できる機会は、そうそう人生においてないのではないかと。特に、教育学や文学、歴史学などの基礎研究をする場合にそれは言える。会社やシンクタンクに雇われて「利益」を目的にして進める研究とは違う、自らの責任において自らの興味に没頭できる時間が、私にとって大学院の位置づけである。

[教育M女子]

○ 博士課程への進学・研究職への就職を志望しているため、今後のキャリアの大事な1歩と思い、非常に重要視している。

[教育D女子]

○ 専門的技術を身につけ、研究活動の向上と機会を与えていただき大変感謝しています。

[法学S男子]

○ 社会人としてキャリアアップのための勉学の場。資格取得のため勉強をする時期。

○ 私は現在、法科大学院の学生です。学部では教養科目を中心に学び、大学院では専門科目をより深く身につけるという学習方法は理想的だと思います。人生において大切な時期に、安定し恵まれた環境で2年勉強できることを、大変幸福に感じます。与えられた2年間を十分に生かせるよう、努力していきたいと思っています。

○ この時期に将来の職業につながる勉強をしたいと考えています。

○ 法科大学院の学生だが、科目間の調整がなく課題が重なることが多い。そのため忙しすぎる時がある。

- 資格試験のための準備。
今後の社会人生活のための専門性のキソの獲得。
社会人生活の垢落とし。
- まず第1に、勉強です。他の同世代の人の多くがすでに社会に出て働いている中勉強させてもらっているわけですから、勉強することが仕事だと思ってやらないといけないと思っています。大学院のうちに少しでも勉強をして実力をつけ、将来専門職に就いたときに役立てたいと思っています。思う存分自由に勉強できる、間違えても責任を負わなくて済むのは今のうちだけだと思っています。
- 大学の4年間では学問の入口に到達することで精一杯だったので、大学院は社会に出て専門職として通用するだけの素養を身に付ける場ととらえています。
また、社会に出ると実益を考慮しないで学問に触れるということは難しいと思うので、興味のままに色々な分野について学べる大切な時期と思います。
- 自らの人生のあり方を見定めるとともに、その展望において必要となる専門知識・技術を身につける過程である。
- 法科大学院は、研究機関というには創造性がないと思う。
現在自分の進路について非常に悩んでおり、強制的なタスクの多い状況下で心中おだやかでないが、時間は与えられているので思索にふけることが多く、今後どう生きるにしても無駄な時間ではないと思っている。
- 法科大学院の学生にとっては、大学院生活は人生を左右しかねない決定的な意味あいを持つものであろうと思う。財産となる人との出会い、新司法試験に合格するための勉強、どちらもとても重要なものと思う。法曹養成という教育面に特化した大学院というのは先生方も不慣れな所もあるのだろうと感じることもあるが、学生にとっては決定的な意味をもっているだけに、学生の不安や焦り、要望や熱意に応えてくれる大学院であって欲しいと思う。
- 私は他大学の修士課程を修了しており、現在通算で4年目の大学院生活を送っているが、受動的な側面の強い学部時代と異なり、非常に自由かつ能動的な側面が強い印象がある。その中で自分の研究を深めたい分野・事項を探し出し自分の納得のいくところまで研究を深め、それを表現する(授業内での発言・発表やレポート・論文の執筆等)ことができる大学院生活は、自分の可能性を抜け能力を伸ばしてくれるものだと考えている。従って、私にとっての大学院生活は決して人生の回り道などではなく、学生生活の集大成として非常に大きな意義を持つものだと思うし、後から振り返ったときにそう思えるようにならねば、と考えている。
- 今後の人生がかかっている、正念場だと感じていま

す。

- ここまでの経験と今後の生き方の結節点です。
- 私は専門職学位課程であり、研究にしばられないかわり、将来学位を前提とした司法試験の受験をひかえている。大学院での講義と試験が必ずしも連動しないためいろんな矛盾をかかえるが、それでも、大学院に在る間にこの大学で得られるものはすべて吸収しようと思ひ、様々な講義・施設を利用しつくしたい。
ただ、そのためには法学部図書室の不便性(貸し出しができない、同じ本がなく、他の人が借りたら何もできない)施設の手狭さなど不満はつきない。スタッフの情熱があるのに金がないのである。詳しくは下の78への回答に書いたが、このようにアンケート回答者のお考えを聞くのでなく、考える前提を早く整えて欲しいのである。すべては金で解決できるのだから。

[法学D男子]

- 私は将来大学の教員として研究・教育・大学運営に取り組みたいと考えており、大学院生活は、そうした将来的なキャリアに進むための鍛錬の場を提供してくれている。
既婚者であり、また住居が大学から離れているため、必ずしも学部生同様に濃密な人間関係に浸ることはないが、自らの研究分野や隣接分野での他の大学院生の知己を得て、知的刺激に恵まれている環境にある。
研究・人間関係両面で大学院生活は充実している。

[法学S女子]

- 司法改革制度の趣旨とも重なりますが、社会人がロースクールに広く入学できることは画期的だと思います。他分野の研究・就職等の序列システムには明るくないですが、そろそろ社会人からのルートがより広く開けてもよいように思います。私は他大卒業者ですが、本校のローで本校出身の方々と多く出会わせていただき感じることは、人生の、またはキャリアに対しての進路認識が一本道(最短・直進的)であり、ルートのより道(迷い/ともすればまちがい)的な思考が、欠如していることです。私の人生における院生活はキャリアupのための通過点として計画されていたものではなく、むしろ、嬉しいサプライズとして与えられた機会でありチャレンジであり(子持ち30代女)、従来とは別の方法で私の力と人生を開発し私のやり方で社会貢献していくための鍵となるだろうものです。

[法学D女子]

- 将来の職業に密接に関係しているため、中心的な位置にあります。

[経済M男子]

- 大学院で経済学の厳密な考え方、現実の問題へのア

プローチのやり方が学べて非常に有意義だった。研究者を目指すという意志ははじめからなかったので、就職するに当たって専門的な知識、考え方を身に付ける場として初めから捉えていた。研究者志望の友人との温度差を感じることも多いが、色々な考え方があって良いのではないかな。

[総合M男子]

- 研究者人生の中では修行期間にすぎないが、それでも院生になること自体が、一種の職業選択だと考えています。収入は他のアルバイトで得るほかないが、プロの研究者として生きている、という意味で、報われない選択ではあります。

[総合D男子]

- 研究職に就くための基礎知識を養う、非常に重要な期間と考えている。ただ、特に人文系の大学院生の就職難は非常に深刻で、そのために精神のバランスを崩す者も沢山いる（実際そういう人を知っている）。このことに対する対応策をもっと真剣に考えてほしいと思う。他人事ではないという自戒もこめて。
- 大学入学以前より研究の道を目指していた者としては、現在の大学院生活は、研究にのみ没頭できるという意味で大変充実しています。ただし、現実的な話として非「売れ線」系学問に対する厳しい風当たりや、研究室内のオーバードクター問題、研究助成金の高倍率化、などなど将来に対する暗い見通しは、「研究のみに没頭」とは言っても、悩ましい事柄も多くあることを、忘れさせてくれません。教官は、「努力して研究していれば（東大なら）何とかなる」と言いますが、何を根拠に言っているのかわからず、就職に対する甘い認識を感じずにはられません。という訳で研究に対する充実感と将来に対する不安感の混淆した大学院生活です。

[総合M男子]

- 駒場に所属していたが、駒場には主ゼミ以外ほとんど用が無かった。駒場の大学院に入ったことで、いろんな研究者と会い、他の場所で活躍する機会は得られたが、駒場には「籍を置かせてもらっていた」という印象を持っている。自分が所属し、学費を払っているのだから、もっと活用できなかつたのか、と考える。そのような意味では、大学院生活に、後悔の念もある。

[総合M女子]

- 本来ならば、研究に力を注ぐべきであろうが、学部時代の延長という感じである。勉強もするが、他の時間をアルバイトや遊びに使い、将来を考える時間と位置づけている。しかし、先生方は当然のごとく研究者

になるための基礎段階とみなしておられるので、そこにギャップが生じている。「就職」といえば研究職のことを指す先生方と、それは民間を指す私、という違いでもある。しかし、研究職を目指すには、この先の道は長く、しかも職が得られる保証もない。院も私にとっては学部と同様、「学問をしていた一時期」という通過点となるだろう。

- 10年前アメリカで生活していた時、大学院に通学する社会人の多さに驚いたが、日本にもいよいよその時代がやってきたのだなあ実感している。
（経験豊富な社会人が大学院で学びやすいように様々な配慮があると、さらに優秀な人材が集まると思われる、とくに時間の豊富な主婦が通学しやすい条件が整えば、眠っている才能を役立てることが出来ると思う。）
- 研究職に就きたくて院に入ったが、閉鎖性に嫌気がさして一般企業（事務職）に就職することにした。院に入っても社会的に貢献する所がなく、また社会からも役に立たないと見なされている点は早急に改善すべきだと思う。
特に無計画に募集枠を増やしてオーバードクターやポストドクターが増加しているのは人材の無駄使いだと思う。
ただ、奨学金を得られたため、経済的に不安のない状態で、自分の興味ある研究に没頭できたのは貴重な時間だった。

[総合D女子]

- ただの通過点にすぎないと考えていたが、実に重要な期間であると最近よく思うようになった。
- 将来、研究者として一人立ち出来るよう、また、どの国へ行っても認められるためにphDを取る必要があるため、博士課程に所属している。十分な給料を受け取っても、自分が本当にやりたいことが出来なければ満足な人生を送れないということに、一度就職してみて気付いた。phDを取得するのは、生活の糧ではなく（現実的にはそれも含まれるが）、自分の人生に必要なステップだからである。
- 独立法人化後の駒場はひどく荒れてきたように思われる。COEではお金をばらまくことが研究となっている。プロジェクト先にありきの内実のない研究が増えているというか、お金をもらわないと研究者として存在できない、という空気を感ずる。
何事にもお金、という恥しい前提を皆もかくさなくなってきたととても怖い。なお、助成金の交付などは公正に行われているとは言いがたく、すべてに利権と党派性を感じる。

[理学M男子]

- 自分の将来、もしくは人生を左右する可能性を持つ

非常に貴重な2年間だと思う。ここでの苦しみ、努力、頑張りがいつか報われる日がくると信じて毎日を過ごしている。

- 研究者になるための修行期間。

[理学D男子]

- 人生を豊かにするための一部分。個人的には芸術鑑賞やスポーツ、読書等と同格で大学院における研究というものがある。一種の趣味といった位置づけ。

[理学M男子]

- 研究者としての基礎をつくる段階。今後違う分野に行くこともあると思いますが、根本的な部分は大学院で身に付けると思う。
- 学部時代は学問のさわりを体験することしかできず、大学院に入ってようやく本格的な研究ができる。学会発表や海外調査、教授の手伝いなど、任される内容は重くなってくるが、一方で好きな日時に登校でき自由時間も多くモラトリアムの要素も高い。社会に出るまえに、授業料を払って仕事のしかたを教わり、自分を高める時期ではないかと思う。
- 自分が研究者としてやっていけるかどうかを試す場と捉えています。

私は修士課程より本学に所属をし、学部の四年間は他大学で過ごしました。本学の大学院を選んだのは、学部時に所属していた大学よりも研究をするのに適した環境があると判断したからです。大学院進学当時、私は将来どのような職業につくのかを決めていませんでした。漠然と「研究者」と考えていましたが、何が何でもなりたいという意思はありませんでした。かと言って、他に特になりたいものもなく…。そこで私は大学院の修士課程に進学し、そこで自分が研究者としてやっていけそうか、もしくはやっていきたくなるかを試すことにしました。研究をする環境は十分に整っていると判断したので、後は私自身でその「可能性」があるか否かが決まると考えました。

- 現在、修士課程に在籍し、博士進学を希望しているが、一番のネックとなっているのがやはり金銭的な問題である。この年齢までくると両親も定年間際の人が多く経済的な理由から断念したりする人も多いと聞きます。最近COEや奨学金の充実で前よりは楽になったとは思いますが、まだまだ辛い現状ではないでしょうか？東京大学でも私大のような独自の学生援助システムを作ってはどうでしょうか？

[理学D男子]

- 毎日が研究室と家との往復の繰り返しで、娯楽的な事を行うことに消極的になりつつある。また、長い院生活を送っているうちに、社会への適応性が失われていく、もしくは失っていると周囲からみられることも

あり、将来に対しての不安が常にある。また、年齢的にも収入が気になるが、現在の状況だと、奨学金の貸与金額が増加するばかりで、さらに不安を加速させる。この状況では将来を見通した交際などは考えられず、また自分の自信のなさを露呈させ、結果的に研究への意欲を失わせる。上記のようなネガティブな考え方をするばかりではないが、今の理系の大学院生の不安はこれに共通するものだと思いますので、ご考慮願いたいと思います。

- 修行期間。
- やや流されて博士課程まで進んだと感じた時期もありましたが、現在は将来へ向けての重要な位置にあると感じています。ただし、博士課程に関しては、博士号取得者の増加を考え、進学に覚悟をもたせるような、大学全体の働きかけ（入試の難易度を上げる、定員数を下げるなど）が必要なのではないか、とも思います。

[理学M男子]

- 当初は研究職への就職のステップと考えていたが、雑用の多さの割に給与が出るわけでもない実態を間のあたりにし、失望し、行政職へのステップと考え直しました。

大学院で経験した「サービス残業」は、今後の仕事で収入の有難さを感じる糧となりそうです。（この国で理系を選ぶことの不利益を考えると大した問題ではなさそうにも思われますが、このまま放置すれば理系の魅力は更に低下して人材も質が下がり、技術水準も現状を維持できなくなる危険性を感じます。）

[理学M女子]

- 将来、職業を選択するにあたって、自分自身の適性を明確に判断すると共に、能力を身に付ける期間であり、場所であると考えている。能力は、専門的なものだけでなく、学会等の経験を通じてコミュニケーションに関するものも体得することができる。学生という立場なので、意義を見失うこともあり得るが、後に振り返って大切なinputの期間であったと考えられるような時期にしたいと思っている。
- この大学院に来るまでは慶応大学に在籍し、その当時は自分の学習環境（事務の対応やパソコン e t c）に疑問を持つこともありませんでしたし、学問を楽しむことができていました。大学がそうなのだから大学院はもっときちんとしているにちがいないと思っていました。しかしそれは間違いでした。教授達も内論が好きで、授業にはやる気がなく携帯電話に授業中に出ているアホ教授までいました。事務もむだに人だけ多くて最低。「一般市民はバカだ」と発言する教授がいましたが、まさにそうなんです。この大学院は変に特権階級意識とエゴだけ強くて、やってられません。

私にとって大学院は学生への未練をすてる為の場所かも知れません。速くまともな社会に出たいです。

- 大学院へ入学する前は、大学4年間で学んできたことを活かし、最先端の研究所で学び、自分のやりたい研究をする場所と思っていた。実際、研究をしてみて、自分の意思が尊重されず、助手の下っばとして働かされただけで、研究がつまらないものだった。

しかし、社会の役に立たない研究をしたおかげで、会社に入って、社会貢献できる仕事がしたいという意思をもてた。院生活の終盤の今では、社会へ出る準備期間だと思う。

[理学D女子]

- 大学院に居る間に好きな分野の研究を行い、自分の適性を見きわめたいと思って入学した。現在、学振研究員(DC1)だが、就職の厳しい業界で見通しが立たず、自分の適性に自信がついた訳でもない。卒業後はおそらく研究員としてどこかで研究を続けていくことになると思うが、正直なところ大いに不安である。どこかで、大学や研究機関を離れて就職する可能性もある。しかし一方で、大学院で非常に優れた頭脳と多く出会い、共に研究をする恵まれた時間を過ごせたことを思うと、それだけでも自分の人生はすばらしいと思える。

- ・よい先生に出会い、素晴らしい指導を受けられたことは非常によかった。

・研究室は、とても閉じた社会になりがちなので、問題がおきた時に、それが解決するかどうかはその研究室のスタッフ次第になる。その点を何とか改善できないかと思う。

・カウンセリングや学生相談の場について、もっと利用を促すべき。

・金銭面での援助を切に希望します。

[工学M男子]

- 自分のやりたいことと能力を見極める時期。
研究経験や、プレゼン・学会の経験を増やす時期。
- 学部4年間は、部活動とアルバイトがメインだったので、院での2年間は大学での勉強期間と位置づけている。よって、落ちついて自分の勉強ができる今の環境には、満足している。
- 学部時代は、とにかく出来るだけ多くの事を学び吸収しようとしてつとめてきた。しかし、院では自分が学んだ事から新しい何かを創発するためのメソッドやテクニックを学び取る場所だと考える。もちろんより多くの知識を吸収することも重要だが、日本が天然資源に乏しく技術立国としてやっていくしかない以上、新しい技術を生み出していく能力を持った人間は不可欠である。自分がそのような能力のある人物になれるかは定かではないが、とにかく少しでもそうなれるように

大学院での生活を利用していきたい。

- ターニング・ポイント。
- 結論から言えば、延長されたモラトリアムであった。
- 大学での勉強に自分なりの後悔と不足感を感じていた。そこで、多少ハードルが高くても、より高度な研究環境を求め、大学院入試で他大学(特に東大や東工大)への入学を志した。実際に入学でき、その環境に身を置き、自分が求めたものの大きさや、社会からの期待や要求の大きさを感じる中、社会へ出る前に、このような経験ができ大変幸運だったと思う。大学院生活は私にとって、大きな飛躍の為のステップとなったと自信を持って言える。
- 企業の開発職へ就く前の通過点と考えている。社会に出る前の準備期間ととらえ、社会で必要となるようなスキルアップに努めると同時に、人間関係(学生としての)の充実を計っている。

[工学D男子]

- スキルアップの最高の機会。
人間的にも成長できる。
自由な時間と自由なアプローチで挑戦できる。
- 大学院においても、博士課程は修士課程と異なり、研究能力のみならず指導能力についても求められる。これは、学位取得後大学教員を目指すことを考えると当然のことであるが。私の考えでは、卒論＝「研究を行なう方法」修士＝「研究姿勢および研究能力」、博士＝「研究能力および指導能力」を取得する場であり、博士課程に進学してからは、自分の研究のみならず、後輩の指導も怠ることのないよう心がけている。
- 学歴、特に博士号が評価されない日本では、あまり意味を持たないかも知れない。ただ、10年、20年経ち時代が変わった時、博士号が評価されることを期待して、進学しました。また、就職したら何十年も働くのだから、はじめの3年くらいは大学に残っていた方が人生おもしろいのではないかと思います。大学は、ある程度自分の好きな研究ができるので。
- 今の自分は、友人と始めたベンチャー企業と、大学での研究の両立にかなり苦しんでいます。大学院(博士課程)入学時の目的は、高い専門性を身につけ大学人として日本の未来を担うということでした。しかし今は、かなり考えが変わっています。高い専門性を身につけたいことに変わりありませんが、同時に、社会と大学の間のかけ橋になりたいと考えています。大学の良さを、社会で使えるように引き出す仕事がしたいです。今後、産学共同が進むことで、企業の人間でありながら、大学と研究をし、大学の講義で教え、大学の講義を受け、ということも可能になるでしょう。その中で、世界の中での日本の競争力を押し上げる、支えになりたいです。

- 自分への挑戦。
- 良い先生、良い友人に出会えました。
今後の人生を考える上でとても有意義なものでした。
- 大学院では、学生といえども一人の研究者のはずだ。したがって今後の人生を生きぬいていくための実力を養う場であると考えます。また、社会（一般の企業など）も即戦力をほしがるとの傾向にある。このようなことを考えあわせると、修士課程から、力のついていない者は卒業させないくらいに厳しくやるべきである。

[工学M女子]

- 研究して卒業（修了）できれば満足なので、あまり多くのことは求めていない。就職先も専攻とあまり関係がないので、考える姿勢や方法を学んだ場所、という程度だと思ふ。
- 資格をとるための手段のひとつ。（弁理士）

[工学D女子]

- もともと研究することに憧れていて、さらに修士課程で研究テーマ、指導教官、スタッフに恵まれたので、満足できる環境で研究できる機会はそうそうあるものではないと考え、同じ研究室で博士課程に進むことを選びました。そういうわけで、将来の研究職を目指して素養を積む目的もありますが、むしろ社会に出て働く前に好きなことができる最後の数年間という位置づけです。学生は給与を貰わず学費を払うという出費の代わりに自由を得られる身分だと思っています。また、特に博士課程については、専門書をじっくり読んで考えるなどして修士より専門性を深めると同時に、社会の中での自分の研究の意義を考え、その成果が社会に与える影響について責任感を持てるような教養を培う時期にできれば良いと思っていました。（が、なかなか難しいです。）

[農学M男子]

- 学部時代や社会人時代に思っていた以上に、教官との交渉の少なさが目立つので、研究、教育という点では少しがっかりしている。研究は一人でするものと言われるが、たとえば北米・欧州の大学の話を友人などから聞くにつれ、東大も少しは生徒のことをもう少しまともに扱うようにした方が良いのではないかと、思う。私は法学部出身だが、現在所属している農学部も教育という点では非常に生徒を放任しており、はっきり言うと教官の怠慢なのではないかと感じる。私立にくらべて国立は授業料も比較的安いからと言っても、単に生徒の努力だけに依存しては、将来的に東大の地位はもっと危うくなると思う。大学院生活に後悔はないが不満は多い。

[農学D男子]

- 博士課程後期は、研究者として生きていくためのノウハウや心の持ち方を学ぶ場であると思う。将来の就職への不安や、きちんと生活していけるのかという不安が尽きないが、現段階においては研究のことを純粋に考えればよいというのが非常に楽しい。自分のこれからの生き方を構築していく中で、その礎を作る大切な時期であると捉えている。
- 私にとっての大学院生活の位置づけは、研究の世界を知り、体験し、考える機会でした。学部生の頃は、まだ本格的に研究というものを知らず、想像が大半を占めるものでした。しかし大学院に進学してから、その研究分野における「研究」というものが、実際にどんなものであるか、ということを見ることができました。社会に貢献していきたい、という自分の目標を実現するためには、なくてはならないステップだと考えています。
- 将来研究者になる気はなく、学位を生かした就職も考えていないが、自分の興味ある分野の研究をした経験を、今後の人生に生かしていければと考えている。
大学院入学当初は、研究職での就職を希望していたが、就職口の少なさと、いずれも任期付の採用ばかりで、終身雇用を希望する者にとっては、研究職の魅力が薄れ、研究職での就職を希望しなくなった。学位取得後の学生の就職についても、もっと真剣に取り組んでももらいたいと考えている。
- 研究職に就きたいと強く考えているので、博士課程に入ってからには特に、仕事という意識を半分は持っている。しかし本当に仕事として研究するようになったら様々なOBLIGATIONSに時間を取られることが、諸先輩の話から明らかに予想される。その意味において、研究環境は博士課程～PDの時期が一生で最も恵まれているかも知れない。
- 自分の追究したい事項に思う存分に専念できる場としてとらえている。特に、野外調査（長期滞在）を、心おきなくできる、人生の中でも非常に貴重な期間です。
- 大学院に行くということは、通常であれば20代の人生で重要な期間を費やすことになるわけだが、期待、予想していた内容とは離れており、どちらかと言えば、代償が大きかったと思う。但し、良い人生経験にはなったので、これから先に生かしていきたいと考えている。
- 大学教員志望の自分には学位は必要不可欠である。また、自分の武器となる専門的な技術や知識を身につける期間である。これらは当然の事であるが、それ以外の意義を感じている。それは、大人として社会に出るための準備期間であり、プロ意識を十分に養う期間と考えている。自分は4年間大学院生活を送ったが、後者の点で特に有意義であったと考えている。

[農学M女子]

- 東大では専門教育が学部3年になってからなので、学部だけでは本当に専門知識を得られた気がしない。大学院はそのための補完をしているような位置づけ。
- 私にとって、研究が人生の目的なので、大学院生活は、人生の正念場です。

[農学D女子]

- 将来の自分のために、一つの研究をやり遂げることで、たくさんの力を身につけたい。成果を出し、成功することがよいのではなく、一つの問題に対し、自分なりの対処法を考え、努力することで解決するということを続けることにより力がつくと考える。私は将来研究職（特に大学の先生）に就くことを目標としているので、位置づけとしては学位を取るため（資格）といえるが、それだけではなく自由な身である学生の特権を生かし、様々な経験を重ねていきたいとも考えている。
- 研究職に憧れて入学した大学院でしたが、在籍4年目に入り色々な意味で、研究の実態がつかめてきました。そして、現在では一般事務職として就職しようと思うようになりました。周りにも同じような進路を希望する人が多くいます。もっと良い研究室スタッフにめぐまれていればなと思います。大学院生活は、精神的に鍛えられる時間でした。

[医学M男子]

- 将来に向けての修業期間であると共に、自分が研究者としてどこまでの仕事ができるのか、そのポテンシャルをある程度見極めるための期間。さらに、同年代の研究仲間を得やすいことから、人間関係の拡充という意味でも重要な期間であると思われる。

[医学D男子]

- 研究者として生きていくための修業期間、勉強期間。
- 大学院生活は自分の将来への投資の期間だと考えている。しかし、経済的な問題からなかなか勉学のみを取込むことができないのが非常にはがゆい。
- 将来研究者になるための通過点。
- 専門的な技術・知識を身につけて、研究を行う場。院生は自分でやりたいことを見つけ自力でそれを進めて行くべきで、スタッフ側には研究のサポートは望みますが、教育・授業の充実はあまり希望しません。
- 医師が臨床から離れる為の1つの手段。
現実には臨床よりも厳しい。

[医学M女子]

- 大学院は卒業後の進路の為にステップアップするための場所だと思っている。また、研究分野での人脈を

作る場であると考えている。

- 子供を保育所にあずけられるよう学内にも施設を作ってほしい。大学生活は自分の人生の中でのキャリアアップの1つである。
- 非常に重要なものだと思っている。今後、研究者として、科学の中の重要な点を明らかにしていきたい。研究者として生活していきたいと思っているので、将来のことを考えて、1日1日大切に過ごしている。自分の生きる道だと思っているので、困難があっても受け入れて、1つ1つ解決し、今後、研究者として生きていく術を身につけている時期なのではないかと思っている。

[医学D女子]

- 将来研究をしていく上で必要な知識・技術等を経験的に身に付けるための期間。
- 将来の自分の価値を高めるもの。
- 生活が苦しい割りに、博士取得後の将来も見えにくく（メリットを今は感じにくい）、意義を見出せないことも多い。本人が希望する、しないというよりも、研究室（当該科）のメリットの為に駒として使われているように感じる。この為、途中でやめる者も多く、意義を考えてしまうことがある。

[薬学M男子]

- あらゆる種類の変人と、非常に長い時間を共に過ごす、精神修練の場。相当に腹の立つ場面でも笑ってやり過ごす訓練の場でもあるかもしれません。頭の良さ悪しではない馬鹿のサンプルを、数多く目にする機会でもありました。学問分野の好悪と、その分野で一生仕事をしていくこととは、全くの別物であると知りました。

[薬学D男子]

- 博士課程への進学は、自分の能力を見極めるためでもあります。博士課程在学中に成果が出せなければ、アカデミックに残ったとしても、大したことは出来ないだろうと考えていました。結果的にその通りになってしまい、企業への就職を考えましたが、大学院での生活によって、社会に出るための準備がある程度は身についたと思います。

[薬学D女子]

- 短期的に日々の生活の充実度という点については多くの不満がある訳ではないが、長期的に将来の事を考えると大学院進学が正しい選択であったのか疑問が残る。年が経つごとに進路が狭くなっているように感じ、ストレスも多い。卒業後の進路は正かでなく、人生での位置付けは未だできずにいる。

[数理M男子]

- 独立法人化で、国立大学の教授職の自由度が、いろいろな意味で下がり、魅力が少なくなったので、大学院は、社会に出るための専門知識を養う場として考えています。(本当は、教授職を目指していた。)
- 研究職に就くための準備段階であり、将来数学的研究で自分を表現するための修行を行っていると思っている。苦しいとは思いますが、先輩(現在の指導教官らも含む)達もそうであったようだし、大変さには不満はない。研究が今の自分の、人生における最重要項目である。

[創成M男子]

- 自由に楽しめる期間だと思います。
研究に力を入れるのは人それぞれですが、私の場合はそれ以上に人間的に成長することに重点を置いているので、研究がどんなに忙しくても他者との交流を優先させるようにしています。
- 私にとって大学院生活は、自分の将来をじっくり見据える機会を得た場所となりつつあります。学部とは異なり、ある程度自分の生活を自分でマネジメントできることで、学問、プライベートの両面において、ゆとりをもって考えることができます。
ただ、修士課程はあくまでも通過点にすぎないということも認識しています。この2年間で、自分といかに向き合えるかによって、その後の人生の将来像に違い(差)が出てくると考えています。
- 第一線で活躍する研究者達と一緒に研究を行うことで、自分が研究者として適しているかの試金石と位置づけている。また同じ方向性を持つ仲間と切磋琢磨することでより人間性を向上させる絶好の機会であると考えている。
- 私の人生における大学院生活は、いままでの知識や技術を深めるだけでなく、論理的思考のトレーニングができる最高の環境だと思います。学部・研究科の枠にとらわれず自由に授業が受講でき、学生同士で自主ゼミを開き議論できる環境は、今の私にとって最高の環境であります。
- 私が以前所属していた大学院を中退してまで現在の大学院へ入学した理由は、自分の興味のある専攻を中心とした広い分野の高度な知識や能力を得るためです。すなわち、自分の研究能力等を伸ばすことも重要だと考えていますが、それ以上に幅広い分野の深い知識を得たいと考えています。この目的の元、他専攻の講義や公開講座等を積極的に受講してきました。
かつての大学院生は研究者を志す学生が多くを占めたのかもしれませんが、現在は修士課程卒業後に企業へ就職する学生が増えています。しかしながら、そのような傾向に大学側のシステムが対応しきれていないように見受けられます。企業側の採用システムにも原

因があるかと思いますが、どちらにせよ私のように修士から専攻を移ったものには不利に働いています。学生が大学院で十分に学び、満身に就職するためには、大学側と企業側が協調して現システムを改善する必要があると思います。

- 私は来年の海外留学を目指しており、現在の修士課程は、留学をするための前段階的な位置づけである。現在所属している研究室での研究体制は日本国内においては最高峰であるが、海外の大学に比べれば、まだまだレベルが低すぎる。よって、修士では日本国内でのベストの位置に身を置き、留学することを前提にして、研究生活を送っている。ここが最終目的ではなく、留学するための手段である。

[創成D男子]

- 学位取得後に高度な自然科学の研究、社会貢献を考えた研究を行うための助走期間であり、現場で通用する知識・技術を得るための場所だと考えている。また、試験的な案、実現の成否が見通せないアイデアなどを考え出し、挑むチャンスが与えられている期間であり、研究の方策などを見極める眼力、教養を磨く時間を与えられていると考えている。
- 自分の研究者としての知識・技術・自覚を身に付ける大切な時期と考えている。周囲には就職のためのただのキャリアアップ的に進学してきた修士の学生が多いが、私はそれではいけないと思うし、修士のときは積極的にテーマに取組み、博士に進学した。将来、違う分野の仕事に就くかもしれないが、現在のテーマが好きだし、もっと成果を出したい。同年代の多くの方は社会人として働いているが、自分なりに現在の立場を学生→社会人としてとらえるように意識している。

[創成M女子]

- 本当の学びというのは社会に出てから始まるものと思う。現在は社会に出て学んできた事項を整理するために学生に戻った。充実した日々を送ってはいるものの「やはり働きながら学ぶ」という形を取りたかった。(社会人としての勘を錆び付かせないためにも)従って、社会人が働きながらも学べる環境を、今後積極的に整備していただけると幸いです。社会人も、学部からずっと学生である方々もその方が互いに良い刺激になると思料します。
- 学部時代は、“学生生活を楽しむ”という意識が強かったが、大学院では、社会人と同様にある程度の責任をもって、研究に対し、厳しい姿勢で臨むことが重要であると考えます。
大学院では、社会人となる為の土台を築きながら、専門性を高める“学生”でも“社会人”でもない位置づけになると思う。
- 指導して下さる教授、共に学ぶ仲間との貴重な出会

いの場合だと考えています。その上で、皆から刺激を受け、自己鍛錬することが出来るのだと思います。

卒業してからどの様に活かせるか、具体的には、分からないが、確実に、実りとなっていることを実感しています。

[学際M男子]

- 研究者としての適性を見極め、今後の進路を決定する上で非常に重要な岐路として修士課程を位置づけている。

しかし、それだけに留まらず、自分のやりたい研究分野に関心を持つ他の学生とともに、学問の発展に寄与することを目指しながら、質の高い研究の基礎づくりに励むことも、もうひとつの大きな位置づけである。

[学際D女子]

- 30代後半になって修士に進学したので、それまでの社会人経験を総括し、学術的な見地から捉え直し整理する機会が得られたことは、自分の人生にとって大きなプラスとなったと感じている。

結果的に修士修了後に大学で教員としてのポストを得ることもできたので、キャリア・アップとしての意味も大きかったと思う。

[情理M男子]

- 今までで1番時間があるので、社会人としての生活への準備期間として捉えている。
- 自分のやりたい事をつきつめ、社会への貢献と自分の興味、研究室のテーマを結びつける上で重要なステージ。
- 大学院生活は、自分の仕事・勉強の環境であると同時に、日常生活の一部だと考えます。従って、研究の成果だけでなく、周囲との人間関係や、清掃などをして身のまわりを清潔に保ったりして、生活しやすくすることも意識する必要があると思います。
- 東大の場合、駒場での2年は教養学部なので、専門的な勉強をはじめのがどうしても遅くなる。結果、4年生で卒業時では他大学の学生よりも劣っているのではないか、という不安から大学院でさらに専門的な研究をしたい、という気持ちになった。大学院修士課程をあと数ヶ月で卒業しようとする今、ふり返ってみると、専門学部での2年に比べて、はるかに大きな経験を得ることができたように思う。実力が足りなくてもいいから学外で研究発表をして、自分の実力(身の

ほど)を知ることが重要だと思う。その意味で大学院の2年は非常に有意義であったと思える。

- 専門的知識を吸収し、将来就く職業の基礎的な技術を獲得する時期。

自由な視点で物事を考え、学習によって人間性を豊かにする時期。

[公共S男子]

- 私の人生における大学院生活の位置づけとは、学生生活の最後の総仕上げである。
- 自分の興味分野についてじっくり勉強する貴重な時間であると同時に、人的ネットワークを拡大する場。
- 学部時代にやり残した研究活動を完結させ、成果を残すとともに、社会で貢献できるだけの技術を身につけることが最大の目的である。特に大学・大学院において重大な関心を集める問題が、社会において良く理解されずに放置されているような場合、大学より知識を持ち出して問題解決を行うことが、我々のように大学に残った者の役目であると考えている。

[公共S女子]

- 自分の興味・関心分野を模索・深めていく時期。
- 一度社会人を経験してから、再び問題意識を持って学ぶことのできる場として非常に重要な位置づけ。
本来こうしたミッドキャリアの教育がもっと重視されてしかるべきだと考えるが、基本的に学部卒の学生さんを主眼に考えている様であるのは少々残念である。
- 純粋に学びたいこと、やりたいことのできる、最後かも知れない場。他の学生達と切磋琢磨することで、自分を鍛えることができる。社会での経済活動や男女差別などからは切り離されたある種特殊な期間だと思う。
東大の学生は“ずるい”(戦略的な)人が多いので、色々な意味で勉強になる。
- 勉学に励み、充実した生活を送りたいと考えているが、就職活動との両立をしなければならないため、中途半端になってしまっている気がする。実務社会で即戦力となるべく専門職大学院に入ったが、大学院で要求される取得単位数と1単位あたりに要する労力とを考えると、実務社会へ有能な人材を送り出すための大学院なのか、と疑問をもつこともしばしばである。後に自分の人生を振り返ったときに大学院に入って勉強できてよかったと、思えることを祈りつつ、忙しい毎日を送っている現状である。

具体的記述事項（抜粋）その2

その他特に大学への要望やこの調査に対する自由な意見

注：M 修士課程
S 専門職学位課程
D 博士課程

[人文M男子]

○ 私のような文系大学院生（とりわけ人文社会系）の目からすると、本学の研究科内学生向け設備（学生控え室、自習室等）は極めて貧弱であると言わざるを得ません。

また、図書館（総合、文学部）の蔵書も、おどろくほど少ないというのが正直な実感です。

あえて言わせてもらえば、私（やその周辺）の実感としては、上の事柄に関して、授業料に見合うサービスを受けられていないように思われます。

○ 進路に関する悩みは学部生よりもむしろ院生の方が深いのではないかと、自分も含め周囲を見て思う。特に人文系の研究職での就職は大変厳しいことも関係している。私自身は研究職志望ではなく、企業などへの就職を目指すことにしたが、同様の人や、全く別の道に転向する大学生も多い。（修士より博士の定員の方が少ないので必然であるが。）どのような選択をするにせよ、多くの者が相当な精神的（金銭的）負担を負っているので、進路の選択をそれぞれの学生個人の問題としてだけでなく、大学としてのサポートを受けられていると実感できるようになってほしい。

○ 少数の例外を除き、先生（指導教員）方には担当の学生の指導をする気がありません。なのに学生は立場上改善を求めることができないし、求めると不利な立場に追いやられます。私は学費をドブに捨てているようなものです。きちんとした指導が受けたい。第三者機関を設置し、そこに学生が訴えれば担当教員の指導が改善するようにしてほしい。また、この制度を使っても学生に不利益が及ばないようにしてほしい。あるいは、指導教員をもっと簡単に変えられるようにしてほしい。このような現状に失望し大学を去ろうとしている人間の、心からのお願いです。

[人文D男子]

○ 留学生のサポートをお願いします。日々課されるレポートや発表、奨学金の申請書、学位論文等、日本語、それも相当に高度な日本語を駆使しなければならないときに、それを丁寧にチェックしてあげるような、たとえば院生のアルバイトが必要だと思います。今は個人的なつながりで行われている傾向が強いので、これを制度化して、利用しやすくしてあげてください。同じことは日本人学生・院生の、留学のための書類にもいえます。英文の推薦書等を専門的に作成する人を、東大が正式な職員として雇用し、東大生の海外留学のチャンスを広げて欲しいです。

[人文M女子]

○ 日本ではある年齢以上の方が大学等の学生生活に戻ってくることはまだ珍しいと思いますが、時間ができた時に勉学することは目的意識も、20代の人々とは違うと考えます。又、決して金銭的に彼等に比べて余裕があるというわけではありませんから、奨学金の枠をもう少し広げていただけるとありがたいです。

○ 駒場と本郷が分離しすぎているように思う。同じようなテーマを研究しながら、互いに流派の違いのような雰囲気があり、両者の交流がないのは、もったいない。また、教養課程の存在自体は大変価値あるものと思うし、行われているカリキュラムも充実しているが、本郷キャンパスで学べる内容（つまり、専門課程で学べる内容）には、駒場にいる時点では、ほとんど触れる機会がないのは残念である。本郷の先生方が大学1・2年生に、自分たちの研究をアピールする場が、もっとあってもよいのではないか。1、2年の学生にとっては、専門分野を選ぶ上で、大きなヒントになると思う。特に高校までの段階で慣じみの少ない分野については、そのようなしくみが必要ではないか。

○ 心を病む院生が多いのは何とかならないものだろうか？研究室全体の空気にも影響する。

学生相談所もさることながら院生を指導する教授・助教授に追いつめない上手な指導の仕方を学んで欲しい。（個人差がありすぎるということかも知れないが）

[教育M男子]

○ 施設面に関しては、大地震が日本中で起こっており、それを見るにつけて建物の耐震性に不安を感じます。建物の耐震性調査とその公表をして頂けると嬉しいです。また、進路面に関しては、ポストク以後の就職難を考えると、不安になります。就職するには博士論文の執筆が必要でも、研究室の雑用もあり、なかなか思うように書けないのが実情のようです。研究室の雑用のための職員は雇えないのでしょうか。

○ 今後、文系理系間の研究環境の格差がさらに拡大していくのではないかと危惧がある。（←独法化のため）人文系の研究環境の改善に努めてほしい。外部向けの企画が多すぎる気がする。内側の充実にももっと目を向けてほしい。

[教育M女子]

○ 就職問題は切実で、博士課程に進みたいとは思っているものの、一体何年先になったら自分で食べて行けるのだろうと不安を抱えながら生活しています。特に独法化で今後文系分野の切り捨てが行われていきそうで怖いんです。日本学生支援機構の奨学金も、今年から学内審

査で返済免除／非免除が決まるというシステムに移行、どのような基準で審査が行われるのか不透明で、奨学金使用も恐る恐るという感じです。大学には、これらの問題への対応を早急に望みたいです。院の世界では、他研究科との交流が驚くほど少ないので、本調査のような調査で、他の院生の様子や情報が分かるだけでも、気分的にだいぶ安心感があります。ありがたいです。

- とにかく研究スペースが足りないのに困っている。一応共用の机はあるが、Web回線は一つしかないし、印刷もできない。せめて所属人員の半数の共用机は確保してほしい。研究科、コースによって学生へのサービスが全然ちがうのはおかしい。我々は同額の学費を支払っているはずなのに。

それからこのアンケート、ちょっと質問のしかたが答えにくいデス。

[教育D女子]

- 独法化に伴う助手の人数削減があるようで、私の所属するコースには助手がいません。その結果、学生が事務員と協力して助手の職務を補っているという現状があり、これは研学生活の負担になりうると感じます。

[法学S男子]

- 家庭を持った社会人出身者にも通いやすい環境を整えて欲しい。
- 図書館について、学内に数十の図書館が散在しており利用しにくいです。利用証の統一や、中央図書館への本の集中をお願いします。また、開館時間の延長やコピー許可の簡素化などにより、図書館がさらに利用しやすくなると思います。
- キャンパスの環境には大変満足していますが、放置自転車が多いことと、所かまわず煙草を吸う人（そして吸殻を捨てる人）がいるように見受けられます。私立大学などでは、喫煙スポットを設けているところや、全面禁煙にしているところもあるように伺いますが、本大学でもこれを取り入れると一層の環境向上に達するのではないかと思います。
- 対外的なPR活動も法人化に伴い必要とされる活動かとは思いますが、学内の環境整備はおろそかにしないで欲しい。特に、物的な施設面では貧弱な面が多々あるかと思うので、生協とも協力して学生の生活・学習にわたっての環境整備を進めて欲しい。
- 大学院掛が昼休みに閉まってしまうと、なかなか行けない点と、閉室時間が早すぎる点を改善して欲しい。

総合図書館の利用証を学生証と一体にして欲しい。

トイレの改装と位置の変更をして欲しい。男子用と女子用がバラバラだったり、1フロアに女子用が2つ

あったり、入ってすぐのところにトイレがあったりして落ち着かない。

- 専門職課程の者ですが、答えにくい設問が多々ありました。“研究”が主ではないため、第3の設問が非常に答えずらく、ザセツしそうになりました。

生活費も答えにくく、大分、井勘定です。学部時代に調査実習をとっていたので、頑張って回答しましたが…。

最近、新しい研究棟？のビルが建っていますが、非常に圧迫感があるというか、キャンパスがゴミゴミしてきた印象です（特に安田講堂周辺）。以前はもっと広々としたイメージだったのですが。建物の高さ、外観、配置など、もう少し全体の調和がとれなかったのでしょうか？折角、日本の大学にしては雰囲気があったのに最近の状況は残念でなりません。

[法学D男子]

- 外部評価などにふりまわされず、実利に直結しない基礎研究を重視してほしい。また、研究職に就く学生に対して支援がほしい。例えば国際交流の充実、奨学金学会補助など。
- ・図書館の貸借システムの一元化をお願いしたい。
 - ・受講科目の登録や掲示といった事務関係の電子化を早急に進めて頂きたい。
 - ・PC端末／プリンタ等、周辺機器の大幅増をお願いしたい。
 - ・電子ジャーナルの充実化をお願いしたい。

[法学S女子]

- コミュニケーションセンターが最近できたようですが、今ひとつどういう施設なのかはっきりしないのもったいないと思います。マークを学生から公募したり、内外に広報したり、（その前提としてコンセプトをもっと明確にする必要がありますが）工夫の余地があると思います。グッズ（しかも研究に関わるもの）を売ること自体は東大らしいアカデミックさが出ていて良いことだと思いますので、それだけに惜しいです。

[法学M女子]

- このような学生の思いを調査され、それが運営等に反映されるならば、今後も続けていくべき取り組みであると思います。

しかし、私の研究科では、論文締切を1か月後にひかえています。すべての論文締切、定期試験、院試の日程を考えてアンケートを実施するのは難しいのかもしれませんが、正直言って今回は少し迷惑だったと感じています。

[法学D女子]

- とくに日本以外の地域を研究する院生に対して、航空券代金の助成などを拡大してほしい。
- 小・中・高・大・院ときて、大学院が最もモラルが低いように感じています。交流が少なく、開放性が無い為だと思うのですが。

[経済D女子]

- TAなど、学内アルバイトがもっと充実していれば良い。
 - キャンパス間のシャトルバスがあると助かる。
 - 学内の関係がもっと必要。
 - 学部で行う基礎科目の充実化が求められる。
 - 学部生にもロッカーなど荷物置場を！！
 - 学内にもっとATMを設置してほしい。
 - 食堂・弁当売場の拡充をしてほしい。

[総合M男子]

- 図書館が本郷と駒場、そして学部・研究所毎にわかれていて極めて不便。それぞれの図書館の蔵書もひん弱である。
 - このため学部の出身校である慶應義塾の図書館を利用せざるを得ないケースが多く、極めて不便である。
- はっきり申し上げて、大学院の現状は危機的です。教員も、職員も、学生も、東大があらゆる点で封建的かつ権威絶対的で、おくれた社会であることを自覚する必要があります。また、教員の仕事を学生におしつけたりといったことが平然と行なわれている現状も改善すべきです。
- 法人化したとはいえ、まだまだコスト意識が薄いと思う。リストラなどにより、効率化を進める必要があると思う。例えば、履習登録や、証明書発行など、私立大学に比べ、圧倒的に遅れている。

[総合D男子]

- 大学院修了後の就職がきわめて困難となりつつある現状では、大学院（とくに文系）への進学は、その当人に大きなリスクを負わせることとなる。しかしそのことを充分承知せずに進学を決断してしまう学生も多い。これは本人にとって不幸であるばかりでなく、研究科全体のレベルも下げかねない。以上の事態に対処すべく、大学は大学院進学後の進路状況について積極的に情報開示に努めるとともに、安易な大学院重点化方針を取りやめ、大学院への入学定員を削減すべきだと思う。
- 大学院生の多くが、お金の困っていることは間違いなく、修士・博士の5年間を無給（しかも授業料は払っている）で過ごすことにたえきれず、途中でやめていく人も何人もいる。院生を一番救ってやれるのはお金の問題であると思う。多くの院生に補助を出すこと

ができないのなら、試験や進学条件を厳しくし、院生を少人数にしなければよいと思う。実際、院生は真剣な人間からモラトリアムな人間まで、ピンからキリで存在している。このアンケートの意見がくみとられることを願う。

- 授業料減免の基準が厳しすぎます。正当かつ厳正な基準で判断されているのはわかりますが、このままでは生きていけません。知人にも非常に有能ながら、金銭面の不安によって研究を断念した人が多くいます。これは本学にとっても大きな損失です。
 - 院生に対する補助（助成だけでなく、コピーカードの支給枚数から留学支援など多岐に亘ること）は、私立大学（早・慶など）に比べ大変貧弱。独法化は何の意味があったのか、院生レベルには全く伝わってきません。ビルを建てるのも良いですが、コピーカードを！！
- 予算がなくていろいろな工事ができないと聞いているが、我々を見殺しにするつもりか？大学は。とくに地震の免震検査を学生側に提示しないのは「違法」。
- 対・東大の勢力に負けないで下さい。最終的には、独法化から元の状況にもどす方向でイニシアティブをとってほしい。国立大学法人でも非常勤全員カットなどのうわさを耳にします。確かに東大は教育機関ですが日本最大の研究機関でもあり、教育評価で、重要な人が教育にからめとられるような事態は好しくありません。独立法人撤廃にむけて、考えるいくべきです。

[総合D女子]

- 研究室間の壁をもっと低くしてほしい。具体的には、ある装置が自分の研究室に無い場合、学内の他の研究室で使用させて頂けるような雰囲気になってほしい。

[総合M男子]

- 総合文化研究科は素晴らしいスタッフをそろえている一方で、無きに等しい教育カリキュラムと、あまりにも不便な研究施設が大きな問題。もし指導教官が他の大学にいたら、迷うことなくそちらに移っていた。学生教育専門の先生を配置して、研究者養成プログラムを作る一方で、修士・博士課程の就職をサポートする機関を作るなど、何らかの方向性をはっきりと提示して欲しい。進路を選ぶのは学生だが、それをサポートする方法は放任だけではないはず。

[総合D女子]

- 東大の大学院はもう少し教育制度の改善、研究職等就職先の確保に力を入れてほしかった。
 - 私にとって大学院生活は、先の見えない暗い期間であった。
 - この調査ももう少しアクセスしやすい形式になって

いれば回答率も上がると思います。

[理学M男子]

○ 人によってかなり個人差があるが、研究生生活の現状をもっと知ってもらいたい。ほぼ毎日、12hr以上必死になって研究しているのに学費は払うわ、生活費は援助してくれないわ…日本の科学技術の先端を担っている、もしくは（上の人の指示に従って）それを具現化しているのが無給で働いている大学院生であるということを知ってもらいたい。独立行政法人化によってただ規則が増えただけで何も状況はかわっていない。授業料免除、生活費支給のアメリカにみんな留学したがるのはごく当然のことだ！！

あと、大学教授は学生を教育するという業務をさばりすぎていると思う。

- 授業料の値下をお願いします。
- 私が他大学で学部教育を受けたからかも知れないのですが、中学、高校、大学の学部までは、与えられた範囲で勉強をし、知識の蓄積をします。ですが、大学院ではまだ誰も明らかにしていない独創的なテーマを、自分で見つけその研究方法も自分で考え出す事が強く求められます。この与えられる目標から独創的な目標設定への移行が突然の様に私には感じられました。学部までの勉強法では対応しきれないと感じることもあります。この様に感じている修士生は、私の他にもいるのではないかと思っています。この学部までの日本の教育と、大学院からの教育で求められる物のギャップに、当事者として当惑しております。
- こういった調査を通じて、東京大学における学業側面の発展がなされれば、非常に嬉ばしい事だと思います。
- 独立法人化ということで、採算性が重視される傾向にあると思いますが、基礎研究も大切にしてほしいと思います。

[理学D男子]

- 学費の引き下げをお願いします。
- 大学院も博士課程までくれば講義を受けることはまずない。一方で、理系の院生は少なからず「研究・教育」といった名目で国家プロジェクトに半ば強制的に参加させられ、機器の保守管理・データ解析といった国内学会の発表にすら値しない雑用に従事させられる。そういった点を考慮して、単位取得済（規定の）博士課程学生の学費は免除してほしい。正直、給料を取って働いている企業のエンジニアと共同で作業することも多く、「何故自分は金を払って（研究以外の）雑用をせねばならないのか」と思うことが多々ある。改善を求めても無理ということは承知しているが、少なくともこういう意見をもう少し公の場に伝えてほしい。

○ 学生に対して精神的に攻撃を加える教職員が、まだ多く存在する。身勝手な主観で語る者もいる。何か対策はありませんか？

○ 事務のスタッフの充実（学生をサポートする体制、シンポジウム等の教育をサポートするための英語力）を強く求めたいと思います。研究をサポートするための施設（実験動物の飼育・遺伝子改変動物を供給する共同利用施設・技術員を派遣するセンター）の充実が急務であると考えます。研究者は一級の人物が多く存在しますが、それを支える機関・施設はあまりに時代におくれており、現状のままでは大学の国際的競争力は失われてゆくものと強く危惧しております。

○ 今年度で博士課程が修了しましたが、これまでの学生生活を振り返りまして要望が御座います。

一点目は、博士課程の学生に対する経済的な支援です。特に、支援環境が充実したものになれば多くの優秀な学生が輩出されることと思います。二点目は、学生、特に博士課程の学生と研究指導者との関係が良いものとなるような教育スタッフの精選を願います。

[理学D女子]

○ 近年国立大学では女性教官の採用を促進する動きがあると思いますが、これについて一言。過去に女性教官が少なかったことについては「相応の理由」がある場合も多いと思うので、その理由を明らかにし障害をクリアしてから女性の採用拡大を試みて頂きたいと思います。理系・大規模実験の研究室で子育て中の女性助手の下で院生をしていましたが、COEで5年間予算がついて装置立ち上げを行っていた時期（繁忙期）に、毎日のように助手が定時で（5時）こなし切れない仕事を加えて割り振られ、自分の研究に使う時間を削らざるを得なかったことは（他の院生にとっても）良い効果とは言い難かったです。院生の教育・研究環境を悪化させてまで女性教官を雇用することは本末転倒であるように思いますので、慎重に進めて頂きたいと思います。

[工学M男子]

○ ・各専攻ごとの図書館があり必要な書籍を探すのが大変。図書館を工学系なら工学系研究科で一つにまとめてほしい。

・実験装置を各専攻、各研究室で所有していると専攻を越え利用することが難しい。センター等を設立して保守・監理して広く利用できるようにしてほしい。

○ ・授業料免除の許可・不許可を表にして、学部の教務課 e t c 前の掲示板にはるのは、プライバシーの侵害以外の何者でもない。許可・不許可は本人宛に通知されるのだから、掲示板にはる必要もないだろうからやめてほしい。

・あと、親元の収入とか、知らない学生が多い可能

性がある。昨年は「意外と親の年収平均が低かった」という結論が出たそうだが、親の収入を正確に把握しているのは授業料免除や奨学金の申請で必要な学生くらいではないか。

- 授業を生徒が評価するシステムの導入。→これで教官の処遇を決めるのはまずいが、公表するなどして、改善をうながすのは良いと思う。

[工学D男子]

- もっと国際交流を促進し、大学をオープンにすべきだと思います。教授陣を含めて日本人の英語力のなさは致命的なものだと思うので、英語を実用的に使う機会を増やす必要があると思います。

教授の先生方が忙がし過ぎ、学生への研究・教育指導が十分に行なわれていないと思います。もう少し教育レベルを高めていただきたいと思います。

- 法人化を前向きにとらえ、風通しの良いキャンパス作りを進めて頂ければ幸いです。
- 柏キャンパスへの対策が必要だ。私の所属する研究室は柏にあるが、学生実験で来る学部生の話では、柏は遠くて不便なのでいやだ、との声がある。本来ならば、そのような人に来てもらっても、受け入れるだけ大変になるのでいらないのだが、理想ばかり言っていると、柏にある研究室は、人がいなくなり、衰退しかねない。柏は土地も広いし、中・長期的には発展するかもしれないが、早急に（短期的でも）学生が通ってもいいと思える体制（例：本郷直通バスとか）を整える必要がある。

[工学M男子]

- 少子高齢化の流れに反して、大学の定員（入学人数）は旧態依然であると認識しています。東京大学の教育レベルの向上のためにも、人員縮小化（入学人数等）が必要なのではと思います。より社会に貢献できるような人材を多く輩出する教育機関を目指して、改革を行っていかればと思います。

[工学D女子]

- 私的な意見としては、東京大学は、学部学科ごとに独立していて、大学としての1つの方針が見えにくく、まとまりがないように感じる。もっと大学として研究・教育にどのようなビジョンを持っているか統一し、学生に示した方がいいように思う。

また、教育についても、学生の力を信頼しているのか、あまり（他大と比較すると）丁寧でないように感じた。日本一の大学であるわけなので、学生も日本一の教育を求めていると思う。もっと教育（研究だけでなく）にも力を入れて欲しい。

[工学D男子]

- 大学で指導する教員は、研究に関してはプロであっても、教育に関してはプロではない。ゆえに、配属されたばかりの教員、特に博士課程等学生から新規採用された教員を対象として、研修する制度を作る必要があると思う。

[農学M男子]

- 教官への評価を学生もできるようにすべき。教授というイスにあぐらをかいているような人を見ると腹が立つ。素晴らしい教官も多いのだが。仕事や研究だけではなく、人柄でも見習うべき所がある人が教官だとやりがいもあるし、成長もできるし、研究もはかどると思う。

[農学D男子]

私の危惧していることは、これだけ充実したアンケートを集計した結果、実際にどの程度反映され、私達の学生生活が改善されるか、ということである。

調査委員は実行委員と連携して、毎年ある予算をもって具体的な改善を実施して頂けることを望む。そうでなければ、学内広報を発行したところで、あまり我々の利益にならない。

- 大学では人間関係が閉鎖的になりがちであると思う。クラブ、サークルなど、学生が交流する機会はあるが、大学の側からも、学生の経済的・精神的負担にならない程度に、研究室間、研究科間、他大学間といったレベルで人材の交流、ゼミの実施などを積極的に援助する方がよいと思う。
- 学位取得後の就職への支援を、より拡充していただきたい。オーバードクターがあふれている状況では、将来への希望がもてない。
- アマチュアではなくプロを輩出する大学であってほしい。企業と大学の最大の相違点は大学が教育機関であるということ。現在推進されている社会的貢献に向けた改革が単なる実利主義に陥らないよう、プロ意識を学生に目芽えさせる教育システムを築いてほしい。

[農学M女子]

- 調査をして現状を把握することは確かによいことですが、少しずつ環境も良くなっているとは思いますが、問題も多く、また大学側の考えも見えません。行政的というか、理念だけが先攻しているように感じます。

このアンケートをまとめて「どの部分をどう改善するのか。それはどういう理由なのか」もっと透明かつ迅速な改革をお願いします。私個人としては大学院生の精神衛生面での改革を特に要望いたします。

パワーハラスメント、セクシュアルハラスメント、複雑な人間関係、不透明なお金の流れ、多くの問題を

解決して下さい。お願いします。

[農学D女子]

- 大学は風通しが悪すぎる。独法化で産学連携するのはいいが、ビジネスにならない分野をどうしていくつもりか。ペーパー数だけがモノを言う研究の世界になってしまっただけでは、真に優秀な人間が大学に残らなくなる。

[医学D男子]

- 大学への要望としては、もっと多くの学生に色々なチャンスを与えてほしい。例えば留学も、もっと多くの学生がなんの経済的不安なく実施できるような環境を整えてほしい。

それから、大学の教員には研究者だけではなく、教育者も入れてほしい。研究能力はあるが指導力はイマイチという先生が東大には多すぎる。

最後に、東大は文化・芸術的な面が弱いので、そこを強化してほしい。芸術学部を作れとまでは言わないが、文化的な催しはもっとしていただきたい。

- 大学への要望)
 - ①医科研に書籍コーナーを設けてほしい。心からのお願い…。
 - ②本郷と医科研を結ぶ学内バスを数台用意してほしい。
- 大学での生活に関して、普段意見をやりとりする機会のない事柄を、この調査では的確かつ詳細に取り扱っており、大変有難く思います。
- キャンパス内の都市計画。建物の乱立によりせっかくの美観が損われています。
粗大ゴミの搬出について特に厳格なルール適用を望みます。
- 質の低いスタッフの異動など、人事面での流動化。

[医学M女子]

- 個々の教室の特徴があると思うが、指導教員の指導方法には不満があり、質問や相談がしにくい。研究者でもあると思うが、もう少し指導に対しても、学生に分かる様、ある程度の具体的な指導が欲しい。
- 子供もあずけられるよう保育所を学内にも作ってほしい。又、その時は時間を遅くまでみてくれると助かる。
- 学生の意見を知らうとすることはすばらしいことだと思う。私としても、自分の意見が何かに反映さればうれしい。書類ではなく、インターネットを利用して、簡単に答えられたらいいと思う。

[医学D女子]

- 医学部の大学院の場合、指導体制がととのっておらず、実験手技を教えてくれる先輩のいない助手+大学

院生1人というような研究室へ送られることがある。指導要項がはっきりしていないため、一年間はほとんど何もできなかった。(教授の責任もあると思うが)

学内にゲストウスを設置してほしい。(外国人を招待したときに個人的に探すのは負担が大きい)

- 給与の形の奨学金制度をもっと増やしてほしい。入学金、授業料の免除制度をもっと拡充してほしい。入学金、授業料を下げしてほしい。研究職につけるように採用人数を増やしてほしい。

[薬学M男子]

- 大学院における給与奨学金を充実して欲しい。アメリカ、フランス、中国でさえ大学院生の生活を保障している事実があります。私は金銭的な事情で博士課程への進学を断念しました。
- 全スタッフの任期制の導入。

[薬学M女子]

- 失礼だとは思いますが、大学は(大学院)研究機関である以前に教育機関であることを忘れないでほしいと思います。

[数理M男子]

- 経済的な問題と将来への(アカデミックポストへの)就職不安に悩まされる事が多いので、難しいとは思いますが改善をお願いしたい。

[創成M男子]

- 博士課程に進む経済的ハードルが高すぎることを痛感しています。独法化によってポストドクターやその後の将来がいつそう暗くなった気がします。COEでドクターを増やすのもいいですが、助手以降のポストをふやすために研究所を新設していくくらいの意気込みがないと、なんだかです。

頭いい奴は企業にどんどん流れていってます。もったいない。

- 生活が充実しているという意味では忙しい毎日なのでこのように一度に大量に質問されると萎えます。インターネット上で調査した方が資源利用も削減できると思うのですがどうなのでしょう。
- 一部記入項目が判別し難いものがあった。また時期として修士2年生にこの分量のアンケートを行うのは無理があるのでは。それぞれの関連性を考慮して、小分量のものを行った方がいいのではと思う。タイミングとして論文提出の時期を狙うなど、就職についての項目はすでに内定先が決まっている自分にとっては回答しにくかった。
- 大学が法人化されることで、今後様々な企業や機関と提携する機会が増えると考えられるが、その時に“教育”の役割も担い、社会に人材を輩出する場であ

る大学と、利益、実績をよりシビアに求め、即戦力を期待する企業との間に存在するギャップに対して学生が必要以上に悩まなくて済むような方策を立てた方が良いかもしれない。これは過渡期特有の問題であるが、学生だけではどうにもならない部分が存在するので。

- 東京大学はこれから、本郷・駒場・柏の三極を中心に研究・教育を行っていく考えのようですが、現時点では柏キャンパスは他と比較して明らかに魅力に欠けます。本アンケートの回答に記したように、キャンパスの交通アクセスの悪さに加え、事務手続きや図書・文献取り寄せ（そもそも柏図書館が充実していない）などが極めて不便です。諸々の手続きの電子化と並行して、このようなアナログな制度も改善して頂きたいです。また、テレビ会議システム等による講義中継や、単位の相互認定などもどんどん行うべきだと思います。柏キャンパスは独立研究科のキャンパスなので、柏キャンパスの魅力を積極的に伝えていくことが、本学における3つ目の研究拠点としての認識を得るための第一段階として重要だと思います。

また、上記設問にも触れましたように、単なる研究者養成コースとしてではない大学院のシステムを確立していただきたいと思います。

- 学生の授業態度が問題視されていますが、教員の授業方法の改善を求めます。中には聴講する者に対してまったく配慮のない授業があります。声が小さい、板書しない、字が汚く読めない、話し方が単調や明らかに教授の自己満足的な授業が目立ちます。そういう方の学会発表のプレゼンは、お世辞でも上手いとは言えません。もう少し、(もっと?)教員のプレゼンテーション能力の向上を求めます。
- 柏キャンパスに所属しているのですが、福利厚生がよくないです。なんらかの対策を練らなければ、学生が行きたいとは思わないキャンパスになってしまう気がします。緑も少ないですし、アクセスが非常に悪いです。こうした調査がもとになって、なんらかの改善があれば幸いです。

[創成D男子]

- 大学院生の数が多すぎるのではないかと特に博士に進む学生の数を減らして個々に対する教育、生活支援をもっと充実させるべきだ。修士で卒業し、就職する学生は就職活動に時間を取られ、十分な時間を研究に費やせない場合が多い。産学連携も良いが、就職活動の効率化も企業と一緒に大学がもっと考える必要があるのではないかと。
- 大学院への要望ですが、まず第一は経済的問題です。特に授業料は重くのしかかるので、授業料等を何かしらの形で免除していただく(例えば、研究室負担という形にする)か、奨学金などを手厚くしていただきたいと思います。

第二にはカリキュラムの問題で、自分の専門と異なった内容についてじっくりと“議論”(講義ではなく)できるような演習などがあれば、よいと思います。(例えば、工学系で教育問題を論ずるなど)

[創成M女子]

- 理系で毎日大量の実験ごみを出している上、研究室全体の生活ごみも、インスタント食品の利用者が多く、プラスチック類が大量に出ています。せめて袋くらいは1度で捨てずリユースを呼びかけてはいるのですが、先輩に強くも言えず効果なしです。学園祭では環境三四郎が力を発揮しますが、日常生活でもごみの削減に大学側からもっと強くとりくんで下さい。特に家庭生活においてごみの分別や減量に無関心な男子の多い大学で、かつ将来政界に入りごみ問題に取り込む人達が、大学生時代にめんどくでもごみ削減に対する意識をもつことは大切だと思います。具体的にはお任せしますが、単に分別するだけでなく、販売する商品の形態から見直し、また大学外のスーパーやパン屋でも、袋のリユースの習慣を身に付けることを目標に、生協の袋の有料化(利益は学食の値下げとして還元。学食ならごみも少ないです)はもちろん、大学付近のコンビニやパン屋さんにも協力して頂きたいです。(私は柏キャンパスなので、柏の生協や周辺コンビニへの呼びかけもお願い致します)私達はあと数十年で皆死んでしまっていますが、子供やその下の代がかわいそうだと思います。
- 学生がアカハラに直面した時の相談窓口がほしい。(学生相談はアカハラ専門ではないので)アカハラを未然に防止するためにも、新規採用の教員には採用1年後(半年後)に学生に評価をさせ、継続採用するかどうか審議してほしい。(形式だけの審議はダメです。)

教員のなかには全く人権について無頓着な方が多く、米国の大学であれば始末書を書かなくてはならないような言動をされている方がいる。教員に対するチェックが必要。学生からの評価をする必要あり!!個人が特定されないよう十分に配慮して下さい。

育英会の奨学金は「学生ローン」と呼ぶべきです。

- 学際的な研究をする場合に、東京大学という環境は正直言ってあまり評価できないと思います。独立行政法人化にともない、アメニティ等の充実を考えるのはわかるのですが、あまりに安易すぎる気がします。学生が自分の思うことを実行できるような環境(ex.産官学連携等)をととのえるべきです。少なくとも金をはらっているのだからそれなりの見返りは欲しいです。

[情理M男子]

- 他大学からの入学生に対する重要情報の確実な通知

をしてもらいたい。

- 学部や学科によって異なるのかもしれないが、できるだけ早い時期から研究室や学会の雰囲気を感じておくことが重要だと思う。

特に理系の場合、現在の学部4年生では研究の面白さとか、学問で生きていくことがどういうことなのかとか、本当に重要なことが全く見えていないと思う。

大学として、大幅なカリキュラムの改正が望まれる。

- 助手や助教授、教授の中には、とても優秀な方もいる一方で、何処この人が教員なの？と疑問を持ちたくなるような人も少なからずいます。たとえば任期制度や査定制度などを導入することで、教員の皆さんに常に一定の緊張感を持ってもらって、質の高い研究や教育を行いつづけてもらうようにはできないでしょうか。

[情理D男子]

- ・いつまでも研究者＝教育者である構造は問題であると思う。すべての研究者が教育能力があるかという点、そうではない。教育能力の低い研究者によって非効果的な教育がなされるのは、大きな損失である。

・大学9年間、特に大学院後半では、学内政治という嫌なものをたっぷり見せられた。特にこの大学では、政治力が研究・教育力よりも大切なようである。

[学際D女子]

- 学際情報学府という新しい学科だったこともあり、自分も含めて学部時代と異なる専攻をしている学生が多いが、それに対して基礎的な方法論を学ぶ環境が整っていないことが最大の失望点。欧米の一流大学では、図書館やラーニング・センター等が、分野横断的に研究方法論のコース・講座を設けて研究者（学生）を支援している。そのようなサポートがないと、応用研究

だけでは学際研究は成立しないのでは？東大という日本最高の大学でもこの程度ならば、海外の大学院で学位をとる方が合理的ではないかと考えている。

社会人から吸収することばかり念頭にあるようでは社会人学生はサービスの良い所に流れていくと思う。（海外も含めて）

[公共S男子]

- 就職サポート、留学サポートをもっと充実させてもらいたい。
- 院生の活動範囲がやや狭すぎるのではないかと思う。せっかく大学院大学という魅力ある制度を立ち上げたのだから、学部授業等に関して、もっと院生の力を活用してもよいと思う。院生の側からそういった自主的な動きができた場合は、それを阻害することがないように、強くお願いしたい。

もうひとつ、キャンパスの建物内は全面禁煙とすべきである。限りある談話スペースを一部の者のために無駄にするようなことのないよう希望する。

- 構内にもっと銀行ATMを増設していただきたいです。

また、くつろげるカフェテリアのようなものをつくらせていただくと大変ありがたいです。現在の食堂はくつろげる感じではないし、特に冬や雨の日は行くところがありません。

[公共S女子]

- 他大学との調査結果比較をしたら、公表して下さい。
- ・専門職大学院がこの調査の中でどのように位置付けられているのかわからなかった。社会でも専門職学位課程はあまり認知されていないようにも思われるが、この調査でもそのような感じがした。
 - ・回答欄がわかりにくいところがあった。

第54回（2004年）学生生活実態調査票

I. 基本的事項について伺います。

1. 性別	1. 男	77.1 %	2. 女	28.9 %			
2. 年齢	21～23歳	19.6 %	24～25歳	36.4 %	26～27歳	20.7 %	
	28～29歳	8.2	30～31歳	5.2	32～33歳	3.2	
	34～35歳	1.6	36～37歳	1.0	38歳以上	3.8	
	無回答	0.3					
3. A 課程	1. 修士課程	51.3 %	2. 博士課程	39.2 %			
	3. 獣医学又は医学を履修する博士課程		4. 専門職学位課程	5.0			
B 学年							
(注) 課程等に入・進学してからの年数。休学期間は含まない。	1. 1年	42.1 %	2. 2年	39.5 %	3. 3年	13.2 %	
	4. 4年	3.9	5. 5年	1.2	6. 6年以上	0.1	
	無回答	0.1					
4. 現在の大学院入学前の出身大学等について教えてください。	◎修士課程及び専門職学位課程の方のみ		1. 本学の学部学生			30.4 %	
			2. 他大学の学部学生			20.7	
			3. 本学の他研究科の大学院生			0.6	
			4. 他大学の大学院生			1.4	
			5. 社会人			3.6	
			6. その他			0.7	
		無回答			42.8		
5. あなたは社会人経験を経て入学されましたか。	◎修士課程及び専門職学位課程の方のみ		1. いいえ			50.4 %	
			2. 社会人経験はあるが、現在は学業に専念している			4.8	
			3. 現在は社会人生活と学業を両立させている			1.4	
		無回答			43.5		
6. 修士課程に入学したのは何年ですか。	◎修士課程の方のみ	2001年	0.3 %	2002年	2.8 %	2003年	25.3 %
		2004年	22.8	無回答	48.8		
7. 現在の大学院入学前の出身大学等について教えてください。	◎博士課程の方のみ		1. 本学の大学院生			30.0 %	
			2. 本学の他研究科の大学院生			1.8	
			3. 他大学の大学院生			5.4	
			4. 社会人			5.1	
			5. その他			1.2	
			無回答			56.5	
8. あなたは社会人経験を経て入学されましたか。	◎博士課程の方のみ		1. いいえ			32.9 %	
			2. 社会人経験はあるが、現在は学業に専念している			6.4	
			3. 現在は社会人生活と学業を両立させている			4.1	
		無回答			56.6		
9. 博士課程に入学または進学したのは何年ですか。	◎博士課程の方のみ	1997年	0.2 %	1998年	0.1 %	1999年	0.3 %
		2000年	1.6	2001年	4.4	2002年	10.6
		2003年	12.8	2004年	13.9	無回答	56.3

10. 現在所属している研究科及び専攻 ※研究科の欄・専攻の欄を確認のうえ記入してください。	01. 人文社会系研究科	30.4 %		
	01. 基礎文化研究	37.0 %	02. 日本文化研究	18.5 %
	04. 欧米系文化研究	14.8	05. 社会文化研究	9.9
	07. 韓国朝鮮文化研究	1.2	06. 文化資源学研究	4.9
	02. 教育学研究科	2.5 %		
	01. 総合教育科学	100.0 %		
	03. 法学政治学研究科	5.2 %		
	01. 総合法政	24.1 %	02. 法曹養成	75.9 %
	04. 経済学研究科	2.7 %		
	01. 経済理論	25.0 %	02. 現代経済	46.4 %
04. 経済史	10.7	03. 企業・市場	17.9 %	
05. 総合文化研究科	10.7 %			
01. 言語情報科学	11.8 %	02. 超域文化科学	17.3 %	
04. 国際社会科学	10.9	03. 地域文化研究	19.1 %	
05. 広域科学	40.9			
06. 理学系研究科	14.1 %			
01. 物理学	27.6 %	02. 天文学	8.3 %	
04. 化学	13.8	03. 地球惑星科学	23.4 %	
無回答	0.7	05. 生物化学	12.4	
		06. 生物科学	13.8	
07. 工学系研究科	17.6 %			
01. 社会基盤学	10.5 %	02. 建築学	5.0 %	
04. 機械工学	4.4	03. 都市工学	2.8 %	
07. 環境海洋工学	1.1	04. 精密機械工学	6.1	
10. 電子工学	6.1	05. 産業機械工学	5.0	
13. 地球システム工学	3.9	07. 環境海洋工学	11.0	
16. 化学システム工学	4.4	08. 航空宇宙工学	11.0	
19. 先端学際工学	5.0	09. 電気工学	2.8	
		10. 電子工学	6.1	
		11. 物理工学	9.9	
		12. システム量子工学	5.5	
		13. 地球システム工学	3.9	
		14. マテリアル工学	2.8	
		15. 応用化学	6.6	
		16. 化学システム工学	4.4	
		17. 化学生命工学	5.5	
		18. 超伝導工学	1.1	
		19. 先端学際工学	5.0	
		無回答	0.6	
08. 農学生命科学研究科	9.2 %			
01. 生産・環境生物学	13.7 %	02. 応用生命化学	16.8 %	
04. 森林科学	10.5	03. 応用生命工学	8.4 %	
07. 生物・環境工学	3.2	04. 森林科学	10.5	
10. 生圏システム学	10.5	05. 水圏生物科学	11.6	
		06. 農業・資源経済学	4.2	
		07. 生物・環境工学	3.2	
		08. 生物材料科学	5.3	
		09. 農学国際	5.3	
		10. 生圏システム学	10.5	
		11. 応用動物科学	3.2	
		12. 獣医学	7.4	
09. 医学系研究科	9.3 %			
01. 分子細胞生物学	1.0 %	02. 機能生物学	2.1 %	
04. 生体物理医学	3.1	03. 病因・病理学	10.4 %	
07. 内科学	20.8	04. 生体物理医学	3.1	
10. 健康科学・看護学	20.8	05. 脳神経医学	11.5	
		06. 社会医学	1.0	
		07. 内科学	20.8	
		08. 生殖・発達・加齢医学	5.2	
		09. 外科学	9.4	
		10. 健康科学・看護学	20.8	
		11. 国際保健学	11.5	
		12. 医科学	3.1	
10. 薬学系研究科	3.4 %			
01. 分子薬学	34.3 %	02. 機能薬学	31.4 %	
		03. 生命薬学	34.3 %	

	11. 数理科学研究科 0.8 % 01. 数理科学 100.0 %
	12. 新領域創成科学研究科 11.0 % 01. 物質系 12.4 % 02. 先端エネルギー工学 9.7 % 03. 基盤情報学 8.0 % 04. 複雑理工学 5.3 05. 先端生命科学 15.9 06. メディカルゲノム 8.0 07. 環境学 38.1 08. 情報生命科学 2.7
	13. 情報理工学系研究科 3.3 % 01. コンピュータ科学 17.6 % 02. 数理情報学 20.6 % 03. システム情報学 14.7 % 04. 電子情報学 23.5 05. 知能機械情報学 23.5
	14. 学際情報学府 1.3 % 01. 学際情報学 100.0 %
	15. 公共政策学教育部 1.2 % 01. 公共政策学 100.0 %
11. 現在主に研究に従事している場所はどちらですか。	1. 所属する研究科 84.2 % 2. それ以外の学内の研究科、学内の研究所 11.2 3. 学外の研究機関 4.5 無回答 0.2
12. 主に通っているキャンパスはどちらですか。	1. 本郷 68.0 % 2. 駒場 I 11.5 % 3. 駒場 II 6.6 % 4. 柏 7.3 5. その他 6.5 無回答 0.1

II. 大学院入学の目的

13. 本学の大学院に入学した目的は、どれにあたりますか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 高度の専門知識・技術を身につけるため 75.7 % 2. 大学等の研究・教育職をめざして 42.0 3. 企業の研究職をめざして 10.9 4. 学部卒業時点で就職の機会がなかったから 3.4 5. 現在の仕事に生かすため 3.1 6. 学位を取得するため 26.0 7. 社会に貢献できる能力・資質を身につけるため 29.7 8. 特に目的はない 1.6 9. その他 () 2.3 無回答 0.7
14. 本学を選んだ理由は、どれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 自分の志望した研究科(専攻分野)があったから 70.8 % 2. スタッフ・環境・設備が優れているから 69.3 3. 東大の伝統や雰囲気に憧れて 16.3 4. 実力相応と思ったから 13.1 5. 将来の進路を考えて 40.8 6. 社会的評価が高いから 21.5 7. 親・教師・先輩の勧め 12.5 8. 経済的理由による 15.0 9. 地理的に自宅に近いから 15.7 10. その他 () 4.0

15. 現在所属する大学院を選ぶ際、他にどのような進路を考えましたか。(複数回答可)	1. 東大内の現在所属する大学院以外の大学院	26.9 %
	2. 学部4年(あるいは修士課程)まで在籍した大学の大学院	23.7
	4. 学部4年(あるいは修士課程)まで在籍した大学以外の大学院(東大を除く)	20.8
	3. 外国大学の大学院	11.2
	4. 就職	22.2
	5. 考えなかった	30.9
	無回答	0.1
◎設問15で「2」または「3」または「4」と答えた方のみ	1. 希望専攻分野が東大の方が充実していた	67.3 %
	2. 東大の方がネームバリューがあると思った	31.2
	3. 経済的理由	23.9
	4. 外国で勉学・生活するには語学の問題があった	8.4
	5. 希望地域の治安等が良好でなかった	0.6
	6. その他 ()	19.3
	無回答	53.7
16. 最終的に本学を選んだ理由は何ですか。(主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)		

Ⅲ. 学会参加・研究活動について

17. 現在所属している日本国内、日本国外の学会について、所属学会数を記入してください。		なし	1	2	3以上	無回答
	1. 日本国内 (所属学会数)	31.1 %	36.9 %	18.5 %	10.9 %	2.6 %
	2. 日本国外 (所属学会数)	80.5	7.9	1.0	0.4	10.3
18. 過去1年間の参加回数及び発表の件数を記入してください。		なし	1回	2回	3回以上	無回答
	1. 日本国内A (参加回数)	25.7 %	27.5 %	24.3 %	19.7 %	2.8 %
	2. B (発表件数)	47.6	27.0	13.3	9.0	3.1
	3. 日本国外A (参加回数)	72.9	14.3	3.4	1.0	8.4
	4. B (発表件数)	75.5	12.6	2.3	1.2	8.4
19. 大学院に入学してから海外学術調査をした経験がありますか。	1. ある	15.1 %	2. ない	83.3 %	無回答	1.6 %
20. 大学院に入学してから海外留学をした体験がありますか。	1. ある	3.6 %	2. ない	94.8 %	無回答	1.6 %
21. 外国の大学と交換留学制度があれば、留学したいと思っていますか。	1. 条件によっては留学したい					77.9 %
	2. 留学したいとは思わない					21.9
	無回答					0.2
◎設問21で「1」と答えた方のみ	1. アジア	12.6 %	2. 中近東			1.4 %
22. どの地域へ留学してみたいですか。(主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	3. アフリカ	1.5	4. 北アメリカ			79.6
	5. 中南米 (メキシコを含む)	1.2	6. 西ヨーロッパ			78.2
	7. 旧ソ連・東欧	3.5	8. オセアニア			5.6
	9. その他	0.6	無回答			22.0
23. あなたは、大学院在学期間中、海外留学の機会があれば希望しますか。	1. 留学したい					35.5 %
	2. どちらかといえば留学したい					25.2
	3. どちらともいえない					19.3
	4. どちらかといえば留学したくない					10.5
	5. 留学したくない					8.8
	無回答					0.7

<p>24. あなたご自身のこれまでの研究成果についてどうお考えですか。(該当する番号を記入してください。)</p>	<p>満足 5 4 3 2 1 不満</p> <p>4.5% 19.7% 35.3% 28.6% 11.2%</p>	<p>無回答 0.8%</p>	<p>平均 2.8</p>
<p>◎設問24で「2」または「1」と答えた方のみ</p> <p>25. それは右にあげたどのような不満ですか。(主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。)</p>	<p>1. 思うように研究成果が上がらない</p> <p>2. 今やっている研究の意義がはっきりつかめない</p> <p>3. 研究テーマがはっきり決まっていない</p> <p>4. 研究の見通しが、たたない</p> <p>5. 自分の能力や適性に不安がある</p> <p>6. 研究時間を十分とれない</p> <p>7. 自分の研究について指導を受けられる教員が少ない</p> <p>8. 教員の指導が不十分である</p> <p>9. 指導教員と意見が合わない</p> <p>10. 論文発表の機会が少ない</p> <p>11. 関連講義が十分そろっていない</p> <p>12. 研究設備が不備である</p> <p>13. 図書設備が不備である</p> <p>14. 研究上の経費が不足している</p> <p>15. 研究旅費が不足している</p> <p>16. 研究室の雑用に追われ自分の研究ができない</p> <p>17. その他 ()</p> <p>無回答</p>	<p>53.8%</p> <p>18.4</p> <p>18.4</p> <p>32.9</p> <p>43.4</p> <p>18.2</p> <p>12.6</p> <p>15.6</p> <p>5.4</p> <p>5.8</p> <p>6.5</p> <p>6.3</p> <p>3.0</p> <p>7.9</p> <p>3.5</p> <p>8.2</p> <p>4.2</p> <p>58.4</p>	
<p>26. 大学院入学以来どれくらいの研究業績をあげられましたか。あなたの研究で公刊された学術論文をあげてください。なお、論文以外の研究成果などがありましたらその数を記してください。</p>	<p>なし 1回 2回 3回以上 無回答</p> <p>1. 学術的な著書数(共著も含む) 75.9% 7.8% 3.3% 3.4% 9.7%</p> <p>2. 査読つき学術論文数 56.7 15.4 6.3 8.2 13.5</p> <p>3. 査読なし学術論文数 66.9 9.0 3.5 4.9 15.5</p> <p>4. 上記以外の研究成果 68.4 6.0 4.7 3.5 17.5</p> <p>(例 特許、作品、翻訳、注釈、解説等 口頭の報告は除く)</p>	<p>9.7%</p> <p>13.5</p> <p>15.5</p> <p>17.5</p>	
<p>27. 研究室での日常生活の中で、右にあげた項目を総合的に見て、満足感をどの程度持っていますか。(それぞれの項目について、該当する番号を記入してください。)</p>	<p>1. 研究設備・スペースについて</p> <p>満足 5 4 3 2 1 不満</p> <p>21.1% 26.8% 19.6% 19.0% 12.3%</p> <p>2. 研究上の経費について</p> <p>満足 5 4 3 2 1 不満</p> <p>29.1 20.5 22.2 15.2 11.2</p> <p>3. 人間関係について</p> <p>満足 5 4 3 2 1 不満</p> <p>20.1 31.7 27.6 13.1 6.3</p> <p>4. 指導教員の研究指導方法について</p> <p>満足 5 4 3 2 1 不満</p> <p>21.0 28.6 25.0 14.9 9.0</p>	<p>無回答 1.2%</p> <p>1.8</p> <p>1.2</p> <p>1.4</p>	<p>平均 3.3</p> <p>3.4</p> <p>3.5</p> <p>3.4</p>

	5. 所属研究科の事務の対応について							
	満足					不満	無回答	平均
	5	4	3	2	1			
	21.0%	26.8%	30.1%	13.69%	7.5%	1.2%		3.4
28. あなたの研究にあなた自身が負担しているお金は過去1年間でどれくらいですか。 (概算で、自己負担額を単位「千円」で記入してください。)	1. 研究に必要な書籍類の購入費64.7千円 2. 研究に必要なコピー代、その他文房具の購入費19.8 3. 調査、実験等の費用35.6 4. 学会費、学会旅費、参加費、学会に関する諸費用42.7 5. その他 ()22.5							
29. 大学、短大などの非常勤講師或いはTA、RAをしていますか。	1. 現在している 26.7 % 2. 過去にしたことがある 18.2 3. していない (したことがない) 54.7 無回答 0.4							
30. 研究室に、あなたの専用又は共用の机がありますか。	1. 専用の机がある 74.0 % 2. 共用の机がある 11.5 3. どちらもない 13.9 無回答 0.6							
31. 一週間に何日ぐらい大学に来ますか。	日数を記入してください。 0日 1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 無回答 平均 0.6 4.2 5.7 8.6 10.2 27.3 30.0 13.2 0.3% 4.9日							
修士課程の方のみ	32. 修士課程の方にお聞きします。 あなたの修士論文の作成にはどれくらいかかりますか。							
	1. 2年以内で書けると思う 44.7 % 2. 3年で書けると思う 5.3 3. 該当しない 1.5 無回答 48.5							
博士課程の方のみ	33. 博士課程の方にお聞きします。 あなたの修士論文の作成にはどれくらいかかりましたか。							
	1. 2年以内で書いた 32.1 % 2. 3年で書いた 4.8 3. 該当しない 6.3 無回答 56.7							
34. あなたの博士論文の執筆予定はいかがですか。		1. 既に行った 2.5 % 2. 在籍中に書く予定 34.7 3. 在籍中に書く予定はないが、課程博士は取りたい 5.4 4. 課程博士の期間内には書かない 1.2 無回答 56.2						
35. 研究上(研究発表と論文作成等を含む)使用する主な言語はどれですか。 (主たるものを2つまで記入してください。)		1. 日本語 94.7 % 2. 英語 83.6 3. 中国語 1.3 4. 独語 1.6 5. 仏語 2.3 6. その他 () 1.7 無回答 0.9						
36. 1日平均および1週平均の研究時間はどれくらいですか。		1. 1日平均の研究時間を記入してください。(単位: 1時間) 7.7時間 2. 1週平均の研究時間を記入してください。(単位: 1時間) 43.3						

37. 大学の法人化はあなたの研究環境にどのような影響を与えていると思いますか。	1. 良い方向に影響を与える	9.2%
	2. 悪い方向に影響を与える	20.1
	3. どちらとも言えない	42.4
	4. わからない	27.7
	無回答	0.6

IV. 就職について

		第1志望	第2志望	
修士課程の方のみ	38. 修士課程修了後について、どのように考えていますか。 (第2希望まで選択)	1. 修士課程と同じ研究室の博士課程へ進学したい	20.7%	2.5%
		2. 東京大学の他の研究室の博士課程へ進学したい	1.9	2.1
		3. 他大学の博士課程へ進学したい	0.5	1.7
		4. 学士入学したい	0.3	0.7
		5. 留学したい (博士課程進学後の留学を含む)	1.9	7.7
		6. 研究職に就職したい	12.1	8.7
		7. 研究職や専門職以外で就職したい	12.1	9.0
		8. 現在の職場に戻りたい (社会人入学の方のみ)	0.4	0.2
		9. 現在の職場から新しい職場へ移りたい (社会人入学の方のみ)	0.2	0.4
		10. その他 ()	1.1	0.8
		無回答	48.8	66.1
博士課程の方のみ	39. 博士課程修了後について、どのように考えていますか。 (第2希望まで選択)	1. 博士課程と同じ研究室に特別研究員など (研究生を除く) として残りたい	7.1%	2.6%
		2. 東京大学の他の研究室に特別研究員など (研究生を除く) として残りたい	3.3	1.9
		3. 他大学の研究室に特別研究員など (研究生を除く) として残りたい	4.8	3.5
		4. 国公立研究機関 (独立行政法人を含む) の研究室に特別研究員など (研究生を除く) として残りたい	6.3	5.8
		5. 学士入学したい	0.2	0.1
		6. 留学したい	5.7	3.7
		7. 研究職に就職したい	11.9	14.0
		8. 研究職や専門職以外で就職したい	1.6	3.5
		9. 現在の職場に戻りたい (社会人入学の方のみ)	1.4	0.3
		10. 現在の職場から新しい職場へ移りたい (社会人入学の方のみ)	0.1	0.6
		11. その他 ()	1.5	1.1
		無回答	56.2	62.9

		第1志望	第2志望
40. 将来どのような方面に就職したいと思っていますか。 (第2志望まで選択)	1. 大学(短大、附置研究所を含む)の教育職、研究職	45.3%	5.7%
	2. 大学以外の教育職	1.7	4.9
	3. 国公立研究機関(独立行政法人を含む)の研究職	10.8	26.6
	4. 国、地方公共団体の研究職、技術職	3.5	7.1
	5. 国、地方公共団体の一般職	2.8	2.6
	6. 企業の研究職、技術職	19.4	13.9
	7. 企業の一般職	6.7	8.6
	8. 専門職(弁護士、公認会計士、税理士、医師等)	6.5	5.9
	9. その他	2.3	2.9
	無回答	1.0	21.7
41. 就職の見通しについて、どのように考えていますか。	1. 既に就職が決まっている		18.5%
	2. 決まっていないが、見通しは明るい		5.7
	3. 何とかなると思っている		32.1
	4. かなり厳しいと思っている		22.9
	5. 見通しが立たない		12.9
	6. あまり考えていない		5.8
	7. その他()		1.1
無回答		1.0	
42. 就職の情報について、どのように考えていますか。	1. 公募で探す		26.5%
	2. 所属する研究室の関係者(教授、先輩等)の斡旋に頼る		16.3
	3. 自分で情報収集に努める		53.5
	4. その他()		2.3
無回答		1.4	
◎教育職、研究職を目指している大学院生にお尋ねします。 43. 博士課程修了後、何年で教育職・研究職に就けるとお考えですか。	1. 直ちに		10.2%
	2. 1~2年		15.1
	3. 3~5年		15.6
	4. 5~10年		3.6
	5. 見通しが立たない		20.3
無回答		35.2	
44. 大学の法人化はあなたの就職にどのような影響を与えると思いますか。	1. 良い方向に影響を与える		6.8%
	2. 悪い方向に影響を与える		16.1
	3. どちらとも言えない		43.0
	4. わからない		30.6
無回答		3.6	

V. 家庭の状況について

子供のいる方のみ	45. 実家の所在地はどこですか。	1. 東京都	25.6 %	2. 関東地方（東京都を除く）	34.4 %		
		3. 北海道	1.8	4. 東北地方	3.7		
		5. 中部地方	13.4	6. 近畿地方	7.6		
		7. 中国地方	4.9	8. 四国地方	2.3		
		9. 九州・沖縄地方	5.7	10. 日本国外	0.4		
		無回答	0.1				
	46. 結婚していますか。	1. 未婚	85.4 %	2. 既婚	14.5 %	無回答	0.1 %
	47. 子供は何人いますか。	1. 0人	94.0 %	2. 1人	3.4 %	3. 2人	1.6 %
		4. 3人以上	0.4	無回答	0.6		
	48. 保育所に預けていますか。	1. いる	1.9 %	2. いない	4.5 %	無回答	93.6 %
◎設問48で「2」と答えた方のみ					主	従	
子供のいる方のみ	49. あなたの子供の世話はだれがしていますか。 (2つ以上にわたる場合は2つまで選び、主たるものを「A」従たるものを「B」に、その番号を記入してください。)	1. 自分			1.2 %	0.9 %	
		2. 配偶者			2.5	0.7	
		3. 自分又は配偶者の親			0.4	0.5	
		4. その他の親族					
		5. 知人					
		6. その他			0.3	0.3	
子供のいる方のみ	50. あなたの家族は、あなたを含めて何人ですか。 (家族とは、生計を共にしている者)	1. 1人	15.3 %	2. 2人	7.5 %	3. 3人	21.7 %
		4. 4人	33.4	5. 5人	16.3	6. 6人	3.8
		7. 7人	1.4	8. 8人	0.2	9. 9人以上	0.0
		無回答	0.5				
社会人入学者の方はご自分について記入してください	51. あなたの現在の生計を主に支えているのはだれですか。	1. 父	66.0 %	2. 母	5.2 %	3. 本人	22.5 %
		4. 配偶者	4.3	5. その他	1.7	無回答	0.3
社会人入学者の方はご自分について記入してください	52. あなたの親元の職業はどれにあたりますか。 (退職されている場合は退職前の職業、社会人入学者はご自分の職業)	1. 専門的、技術的職業					22.2 %
		2. 教育的職業					10.1
		3. 管理的職業					17.7
		4. 事務					5.6
		5. 販売					4.2
		6. 農・林・漁業					0.9
		7. 生産工程・採掘作業					2.1
		8. 運輸・通信・保安・サービス					8.8
		9. 無職					2.4
		10. 分類不能					2.9
無回答					23.0		
〔 分類不能の場合は、下欄に具体的に記入してください。 〕							
社会人入学者の方はご自分について記入してください	53. あなたの親元の年収(税込)はどれくらいですか。 (給与生活者の場合はボーナスも含めてください。)	年収を単位「十万円」で記入してください。……………907.4千円					

Ⅵ. 生活費の状況について

あなた自身の「経済生活」について伺います。

54. 生活費の状況

右の各欄に金額を記入してください。

(最近3ヶ月の実績から、平均1ヶ月の支出額を、該当しない場合は、「0」を記入する。)

(注)

食費

自宅生は外食代(費)を記入してください。

住居費

住宅ローン等の返済を含む。

研究・勉学費

勉学に必要な書籍代、実習材料費、文房具類代、実習旅費等(授業料等の学校納付金を除く)。

教養・娯楽費

教養・娯楽のための書籍代、サークルの支出、勉学以外の旅行の費用、交友費、スポーツ代、映画・演劇・音楽会の入場料等。

通信費

電話代、インターネット代等。

その他雑費

理・美容代、タバコ代、化粧品代、ガソリン代、医療費等。

家庭からの仕送り・小遣い

親・兄弟・親類等からの仕送り、又は小遣い等。

助成金

日本学術振興会の研究奨励金及び奨学金

アルバイト

家庭教師、塾、予備校講師等

定職

(非常勤職員、助手、研究員、研究的で継続的なパート等も含む。)

支出を単位「千円」で記入してください。

衣料費	9.6 千円
食費	34.2 千円
住居費	45.5 千円
光熱水費	8.4 千円
研究・勉学費	14.9 千円
教養・娯楽費	14.2 千円
子供の養育・娯楽費	3.4 千円
通学費	7.3 千円
通信費	8.3 千円
その他雑費	11.0 千円
支出合計	149.1 千円

収入を単位「千円」で記入してください。

家庭からの仕送り・小遣い	46.9 千円
助成金	54.6 千円
アルバイト	36.2 千円
定職	26.0 千円
配偶者の収入	17.1 千円
その他	6.8 千円
収入合計	175.9 千円

VII. 研究奨励金及び奨学金について

55. 現在、日本学術振興会の研究奨励金を受けていますか。	1. 受けている	14.3 %	2. 受けたいが受けられなかった	43.5 %
	3. 受けたくない 無回答	5.2 2.3	4. 受ける必要はない	34.7
56. 現在、他の奨学的な資金を受けていますか。	1. 受けている	31.7 %	2. 受けたいが受けられなかった	22.4 %
	3. 受けたくない 無回答	5.6 1.2	4. 受ける必要はない	39.1
◎設問55または56で「2」または「3」と答えた方のみ	1. 事務手続きが煩雑だから			4.1 %
57. その理由はどれにあたりますか。	2. 掲示等に気がつかなかった			4.7
	3. 書類を期限までに整えられなかった			6.2
	4. 出願したが採用されなかった			17.5
	5. 貸与なので申請しなかった			8.9
	6. その他 ()			6.9
	無回答			51.8
◎設問55または56で「1」と答えた方のみ	1. 日本学術振興会 (特別研究員)			14.6 %
58. この奨学的な資金を受けていますか。 (いくつでも選び該当の番号を記入してください。)	2. 日本学生支援機構			78.7
	3. 地方公共団体 (自治体)			0.9
	4. 民間の奨学団体			9.1
	5. 日本以外の奨学団体			0.4
	無回答			56.3
59. 奨学的な資金の主たる支出目的 (用途) はどれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 生活費 (衣・食・住居費)	90.5 %	2. 授業料	48.6 %
	3. 研究・勉学費	55.5	4. 教養・娯楽費	26.2
	5. 旅行 (帰省も含む)	5.4	6. 技術・資格等取得の費用	3.3
	7. 耐久消費財購入費用	2.6	8. 貯金	9.3
	9. その他 ()	0.7	無回答	55.3

奨学的な資金を受けている方のみ

VIII. アルバイトについて

60. 過去1年間にアルバイトをしましたか。	1. 継続的 (1ヶ月以上) アルバイトをした	49.8 %
	2. 臨時 (1ヶ月未満) アルバイトをした	12.6
	3. 継続的なアルバイトと臨時的アルバイトを両方した	9.3
	4. しなかった (「4」を選んだ方は設問67に進んでください。) 無回答	27.8 0.5
61. そのアルバイトの種類はどれにあたりますか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 大学などの非常勤講師	3.7 %
	2. TA・RA	39.4
	3. 研究事務補助	14.1
	4. 小・中・高等学校の講師	1.5
	5. 塾・予備校の講師	19.2
	6. 家庭教師	20.2
	7. 試験監督・採点・通信教育の添削	6.0
	8. 執筆・翻訳・通訳・編集	8.2
	9. 一般事務	7.4
	10. 販売・サービス業	6.4
	11. セールス・訪問調査	0.4
	12. 飲食店	5.0

アルバイトをしている方のみ

	13. 宿直、警備		1.2	
	14. 肉体労働		3.3	
	15. 上記以外の専門を生かしたもの		12.3	
	16. 上記以外の特技を生かしたもの		1.6	
	17. その他 ()		2.9	
	無回答		28.9	
62. アルバイトに費やす時間と収入額はどれくらいでしたか。	費やす時間	〔 往復時間を含め、一週間当たりの平均時間を記入してください。 〕	12.2時間	
	収入額	1ヶ月当たりの平均 (単位:千円)	68.7千円	
63. アルバイトの紹介者はだれでしたか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 大学の担当事務		12.9%	
	2. 指導教員		30.7	
	3. 内外学生センター		2.1	
	4. 新聞広告・アルバイト広告誌		10.0	
	5. インターネット		9.6	
	6. 友人・知人等		37.8	
	7. アルバイト先と直接		18.5	
	8. スーパー・銀行等の伝言板		0.4	
	9. その他 ()		4.2	
	無回答		32.3	
64. アルバイトをした理由はどれにありましたか。	1. 生活費を稼ぐため		37.1%	
	2. 勉学費を稼ぐため		12.1	
	3. 学生生活を楽しむため		7.6	
	4. 社会経験のため		7.8	
	5. その他 ()		3.4	
	無回答		32.1	
65. アルバイトの収入は、何に使っていましたか。 (主たるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 生活費 (衣・食・住居費)		70.0%	
	2. 授業料		18.8	
	3. 研究・勉学費		25.5	
	4. 教養・娯楽費		34.2	
	5. 旅行 (帰省も含む)		8.8	
	6. 技術・資格等取得の費用		1.1	
	7. 耐久消費財購入費用		2.1	
	8. 貯金		10.0	
	9. その他 ()		0.3	
	無回答		32.0	
◎設問60で「1」または「3」と答えた方のみ	1. かなり妨げになった		5.7%	
66. 継続的アルバイトは勉学の妨げになりませんでしたか。	2. 多少妨げになった		26.7	
	3. 妨げにならなかった		28.4	
	無回答		39.2	
67. 現在の暮らし向きについてどうお考えですか。	1. かなり楽な方	15.7%	2. やや楽な方	15.4%
	3. 普通	35.1	4. やや苦しい方	22.3
	5. 大変苦しい方	6.2	6. わからない	0.7
	無回答	4.6		

Ⅸ. 研究・学生生活のサポート体制について

<p>68. あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。 (複数回答可)</p>	<p>1. 電車 70.9 % 3. 自家用車 4.7 5. 自転車 43.1 7. その他 () 0.2</p>	<p>2. バス 10.0 % 4. バイク 4.8 6. 徒歩のみ 10.2 無回答 0.7</p>						
<p>69. 片道の通学所要時間はどれくらいですか。 ◎ (分単位で記入してください。)</p>	<p>所要時間45.9分</p>							
<p>70. キャンパスへのアクセスに不便を感じますか。</p>	<p>1. はい (具体的な内容・改善案を記入してください。)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">不便な内容</td> <td style="text-align: right;">218件</td> <td rowspan="2" style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding-left: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">21.7 %</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">改善案</td> <td style="text-align: right;">154件</td> </tr> </table> <p>2. いいえ 79.6 無回答 1.4</p>	不便な内容	218件	}	21.7 %	改善案	154件	
不便な内容	218件	}	21.7 %					
改善案	154件							
<p>◎キャンパスやその周辺の環境に関して伺います。 71. 右のAからDの各質問について、お答えください。</p>	<p>A. キャンパス内や通学路の安全性に関して不安を感じることがありますか。</p> <p>1. ある (不安に感じるごとと改善案を具体的に記入してください。)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">不安に感じるごと</td> <td style="text-align: right;">160件</td> <td rowspan="2" style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding-left: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">21.0 %</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">改善案</td> <td style="text-align: right;">212件</td> </tr> </table> <p>2. ない 78.0 無回答 1.0</p>		不安に感じるごと	160件	}	21.0 %	改善案	212件
不安に感じるごと	160件	}	21.0 %					
改善案	212件							
<p>B. 生活面で不便を感じますか。(銀行、郵便局、コンビニエンスストアなど)</p>								
<p>1. 不便と感じる (具体的に記入してください。)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"></td> <td style="text-align: right;">313件</td> <td rowspan="2" style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding-left: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">30.8 %</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"></td> <td style="text-align: right;"></td> </tr> </table> <p>2. 特に不便とは思わない 68.1 無回答 1.1</p>				313件	}	30.8 %		
	313件	}	30.8 %					
<p>C. リラックスできる環境に関して要望はありますか。(公園、喫茶店など)</p>								
<p>1. ある (具体的に記入してください。)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"></td> <td style="text-align: right;">261件</td> <td rowspan="2" style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding-left: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">26.7</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"></td> <td style="text-align: right;"></td> </tr> </table> <p>2. ない 71.8 無回答 1.6</p>				261件	}	26.7		
	261件	}	26.7					
<p>◎キャンパス周辺に下宿している方に伺います。</p>								
<p>D. 日常生活に不便を感じますか。</p> <p>1. 不便と感じる (具体的に記入してください。)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"></td> <td style="text-align: right;">55件</td> <td rowspan="2" style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding-left: 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">5.2</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"></td> <td style="text-align: right;"></td> </tr> </table>				55件	}	5.2		
	55件	}	5.2					
<p>2. 特に不便とは思わない 30.6 無回答 64.2</p>								

72. 一般的な施設等の中で、もっと整備が必要だと思う事項はどれですか。 (それぞれの項目について、4段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	平均
	4	3	2	1		
1. 大学キャンパス内の清掃	27.9 %	58.0 %	8.9 %	3.6 %	1.6	3.1
	4	3	2	1		
2. 大学キャンパス内の樹木等の整備	36.4	52.8	7.0	2.2	1.6	3.3
	4	3	2	1		
3. 大学の建物内の清掃	24.6	51.1	15.3	7.1	1.8	3.0
	4	3	2	1		
4. 大学構内で不要となった廃棄物	14.0	44.1	28.3	11.9	1.6	2.6
	4	3	2	1		
5. トイレの清掃	26.4	49.7	15.8	6.7	1.5	3.0
	4	3	2	1		
6. トイレの数	27.0	50.6	13.6	7.5	1.4	3.0
7. その他（具体的に問題箇所を指摘してください。）	16.8 %	83.2				
	()					

73. 本学の課外活動施設、福利厚生施設等のうち、あなたは右の諸施設の現状をどう思いますか。 下記の1から6の該当する番号を記入してください。4・5と答えた方は下の〔 〕内に該当する施設名とその理由を簡潔に記入してください。	満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答
	1	2	3	4	5	6	
1. 研究科内の学生控室・談話室・ラウンジ	10.7 %	22.3 %	14.8 %	13.9 %	18.9 %	17.2 %	2.2 %
2. 学生会館、課外活動共用施設、キャンパスプラザ（駒場）	4.2	11.3	21.9	7.2	4.4	47.8	3.3
3. 学生相談所	3.5	5.3	16.1	2.0	1.5	68.8	2.8
4. 屋外体育施設（駒場）	4.7	10.5	18.6	4.1	2.1	56.2	3.9
5. 屋外体育施設（野球場、テニスコート等を含む）（駒場）	5.9	11.7	15.1	3.2	1.7	58.5	3.8
6. 屋内体育施設（御殿下記念館、二食プール）（本郷）	18.7	25.7	11.8	2.7	1.2	37.2	2.6
7. 屋外体育施設（御殿下グラウンド、農学部グラウンド、野球場、テニスコート等を含む）（本郷）	10.5	14.8	13.6	5.6	2.2	50.3	2.9
8. 二食内ホール、サークル部室等（本郷）	3.4	7.1	14.7	3.8	2.4	66.0	2.6
9. 検見川総合運動場、検見川セミナーハウス	5.7	11.6	12.1	2.0	1.0	64.1	3.4
10. スポーティア（戸田、山中、下賀茂、谷川、乗鞍）	2.5	4.0	10.5	0.8	1.0	77.4	3.9
11. 学内食堂	8.1	27.4	18.4	23.1	16.5	3.4	3.1
12. 学寮（豊島、井の頭、白金、三鷹国際学生宿舎）	1.6	2.2	7.4	0.5	1.6	81.7	4.9
具体的記入欄	()						

74. あなたが、右の諸施設等の中で、施設・設備の充実・整備が早急に必要と思うものは何ですか。 (必要と思うものの中から、主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 研究科内の学生控室等	45.7 %	2. 学生会館等 (駒場)	7.1 %						
	3. 学生相談所	6.8	4. 屋内体育施設 (駒場)	3.3						
	5. 屋外体育施設 (駒場)	2.0	6. 屋内体育施設 (本郷)	3.6						
	7. 屋外体育施設 (本郷)	3.7	8. 二食内ホール等 (本郷)	4.2						
	9. 検見川総合運動場等	1.0	10. スポーティア	2.5						
	11. 学内食堂	50.8	12. 学寮	14.0						
	13. 寛げるスペース	50.6	14. 託児所	13.7						
	15. その他 ()	6.7	無回答	14.3						
	75. 現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。 (それぞれの項目について、5段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)		非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	平均	
		1. 社会的貢献を促進するために、授業の外部開放を進める	5 — 4 — 3 — 2 — 1	8.5 %	15.1 %	34.3 %	30.5 %	10.0 %	1.6 %	2.8
		2. 社会的貢献を促進するために、産学協同をより推進する	5 — 4 — 3 — 2 — 1	21.8	27.5	33.9	11.3	4.0	1.5	3.5
		3. 社会的貢献を促進するために、直接的に社会的要請の高い研究を推進する	5 — 4 — 3 — 2 — 1	12.2	17.4	32.2	25.2	11.5	1.5	2.9
		4. 社会的貢献を促進するために、(むしろ)基礎研究を充実させる	5 — 4 — 3 — 2 — 1	32.4	27.1	32.3	6.1	0.6	1.6	3.9
		5. 研究の国際化を推進するため、研究者の交流をより積極的に進める	5 — 4 — 3 — 2 — 1	41.8	32.4	20.4	3.4	0.8	1.3	4.1
		6. 研究の国際化を推進するため、国際共同研究をより推奨する	5 — 4 — 3 — 2 — 1	32.4	29.8	29.1	6.1	1.2	1.5	3.9
7. 教育の国際化を推進するため、日本から外国へ留学する機会をもっと拡大する		5 — 4 — 3 — 2 — 1	37.1	27.9	26.3	6.1	1.4	1.3	3.9	
8. 教育の国際化を推進するため、外国からの留学生をより一層受け入れる		5 — 4 — 3 — 2 — 1	24.5	23.6	35.8	11.0	3.7	1.5	3.6	

76. 大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. カリキュラムの改革	17.4%
	2. 教室の充実	8.7
	3. 実験室や実習室の充実	14.5
	4. 教育スタッフの充実	26.4
	5. 学生生活関連施設の充実	10.7
	6. 進学振分け制度の改善	5.8
	7. 小人数教育の実施	8.3
	8. 授業の方法の工夫・改善	17.9
	9. 単位認定や学年試験を緩やかに	3.3
	10. 単位認定や学年試験を厳しく	6.9
	11. キャンパスの拡大・移転・統合	3.2
	12. 図書館の充実	22.5
	13. カウンセリング・サービスの充実	4.2
	14. 学生自治に対する適切な助成と助言	0.5
	15. 学生自治の尊重	1.7
	16. 奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額	38.7
	17. 就職対策の充実	22.5
	18. 留学・国際交流への支援	18.5
	19. オーバードクター問題やポストク問題への対応	39.2
	20. ハラスメントへの対応	4.8
	21. その他（ ）	4.3
無回答	1.6	

XI. 具体的記述事項欄

※ご記入の際は、枠内におさまるよう丁寧に記入願います。
なお、特になければ記入しなくても結構です。

77. あなたの人生における大学院生活の位置づけについて、お考えをお書きください。

78. その他特に大学への要望やこの調査に対する自由な意見がありましたら、具体的に記入してください。

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

学生生活委員会学生生活調査室

平成17年11月現在

調査室長	池田謙一（大学院人文社会系研究科・文学部）
副調査室長	森建資（大学院経済学研究科・経済学部）
室員	中谷和弘（大学院法学政治学研究科・法学部）
〃	長瀬隆英（大学院医学系研究科・医学部）
〃	内藤廣（大学院工学系研究科・工学部）
〃	近藤修（大学院理学系研究科・理学部）
〃	寶月岱造（大学院農学生命科学研究科・農学部）
〃	伊藤徳也（大学院総合文化研究科・教養学部）
〃	亀口憲治（大学院教育学研究科・教育学部）
〃	青木淳賢（大学院薬学系研究科・薬学部）
〃	五味健作（大学院数理科学研究科）
〃	村重淳（大学院新領域創成科学研究科）
〃	水越伸（大学院情報学環・学際情報学府）
〃	広瀬啓吉（大学院情報理工学系研究科）
〃	吉野正巳（学生部）
〃	柳橋雪男（学生部）

調査集計担当 学生部キャリアサポートグループ

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

表紙写真は東京大学柏図書館提供

No. 1325 2005年12月8日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO